車坂・山下遺跡群
車坂第1・2・3遺跡
山下第1・2・3遺跡

宮崎広域都市計画事業 車坂・山下土地区画
整理事業に伴う遺跡調査報告書

1997
宮崎市教育委員会

はじめに

近年宮崎市では、民間企業による宅地開発を始めとしまして広域土地区画整理事業、道路改良事業、圃場整備事業等数多くの開発造成事業が行われております。これらの開発事業にともないまして埋蔵文化財の発掘調査も数多く行われるようになりました。その結果、ナイフ形石器・角錐状石器等に代表される旧石器時代、縄文時代の草創期から晩期に至る各時期の遺構、弥生時代の環濠集落、古墳時代前期・後期の集落、奈良・平安時代の集落等が発見され基礎資料の蓄積がようやく進み、宮崎平野の古代史も徐々にではありますが明らかになってきています。中でも本書で報告する車坂・山下遺跡群の所在する台地上は、宮崎県により発掘調査が行われ旧石器時代から近世までの遺跡が検出された宮崎学園都市遺跡群が隣接しておりその成果が期待されていたところでございます。

又、宮崎市では市制70周年記念事業としまして国指定史跡生目古墳群整備事業を計画しておりその整備の過程のなかで新たな事実が判明するものと期待されており、宮崎市の歴史解明に新段階がくるものと考えております。

最後になりましたが猛暑、冷夏、寒波等の中長年に渡り発掘作業に従事された作業員の方々区画整理事業関係者に感謝申し上げるとともに、本書が学術研究の一助になれば幸いです。

平成9年3月

宮崎市教育委員会
教育長　稲　倉　宗　知

例　　言

1．本書は宮崎広域都市計画事業車坂・山下土地区画整理事業にともない、平成元年度から平成6年度にかけて宮崎市教育委員会が発掘調査を行った車坂・山下遺跡群の調査報告書である。

2．調査期間

平成元年度	山下第1遺跡	平成元年12月11日～平成2年　3月　2日
平成2年度	車坂第1遺跡	平成2年　9月　6日～平成2年11月30日
平成3年度	車坂第2遺跡	平成4年　2月24日～平成4年　3月31日
平成4年度	山下第2遺跡	平成4年12月10日～平成5年　2月23日
平成5年度	車坂第3遺跡	平成5年　7月16日～平成5年10月13日
平成6年度	山下第2遺跡	平成6年11月　8日～平成6年11月30日
平成6年度	山下第3遺跡	平成6年11月　8日～平成6年12月27日

3．調査体制

宮崎市教育委員会　文化振興課

平成元年度

	課長	松元　正
総括	係長	野間重孝
調査	主事	米良明信
		中山　豪
庶務		永井淳生

平成2年度

	課長	松元　正
総括	主幹	野間重孝
調査	主事	米良明信
		中山　豪
庶務		永井淳生

平成3年度

	課長	瀬戸口　遵
総括	係長	野間重孝
調査	主事	米良明信
		中山　豪
庶務		永井淳生
		井上治美

平成4年度

	課長	瀬戸口　遵
総括	主幹	野間重孝
調査	主事	米良明信
		中山　豪
庶務		井上治美

平成５年度

	課長	瀬戸口　遵
総括	係長	井手上　仁　悟
調査	主事	中　山　豪
	主事補	岩　城　勝　志
	嘱託	日　高　広　人
庶務	主事	井　上　治　美

平成６年度

	課長	瀬戸口　遵
総括	係長	井手上　仁　悟
調査	主事	中　山　豪
	主事補	鳥　枝　誠
庶務	主事	岩　城　勝　志

平成７年度

	課長	愛　甲　勝　彦
総括	係長	井手上　仁　悟
整理	主事	中　山　豪
		鳥　枝　誠
庶務		岩　城　勝　志

平成８年度

	課長	愛　甲　勝　彦
総括	係長	井手上　仁　悟
整理	技師	中　山　豪
		鳥　枝　誠
庶務	主事	岩　城　勝　志

４．本書の執筆は中山が行った。

５．本書に掲載した遺構図面は野間、米良、永井、中山、岩城、鳥枝、日高が実測し製図及び図版の作成は中山、鳥枝が行った。

６．写真撮影は、野間、中山、鳥枝が行った。

７．本書の編集は野間、中山が行った。

８．本書における出土遺物は宮崎市教育委員会が保管している。

目　　次

第１章　歴史的環境…… 1
　１．遺跡の立地と環境…… 1
　２．調査に至る経緯…… 1
　３．調査の概要…… 4

第２章　車坂第１遺跡の調査…… 7
　１．調査の概要…… 7
　２．層　位…… 7
　３．縄文時代の遺構と遺物…… 8
　　１）遺構…… 8
　　２）遺物…… 8
　　Ａ．土器…… 8
　　Ｂ．石器…… 12
　４．弥生時代の遺構と遺物…… 16
　　１）遺構…… 16
　　２）遺物…… 19
　　Ａ．土器…… 19
　　Ｂ．石器…… 20
　５．その他の遺物…… 20
　６．小　結…… 29

第３章　車坂第２遺跡の調査…… 37
　１．調査の概要…… 37
　２．層　位…… 37
　３．縄文時代の遺構と遺物…… 38
　　１）遺構…… 38
　　２）遺物…… 38
　　Ａ．土器…… 38
　　Ｂ．石器…… 42
　４．弥生時代の遺構と遺物…… 42
　　１）遺構…… 42
　　２）遺物…… 46
　　Ａ．土器…… 46

B．石器…… 49
5．その他の遺構と遺物…… 49
6．小　結…… 50

第４章　車坂第３遺跡の調査…… 56
1．調査の概要…… 56
2．層　位…… 56
3．縄文時代の遺構と遺物…… 59
1）遺構…… 59
2）遺物…… 59
A．土器…… 60
B．石器…… 75
4．弥生時代の遺構と遺物…… 80
1）遺構…… 80
2）遺物…… 83
A．土器…… 83
5．その他の遺構と遺物…… 84
1）遺構…… 84
2）遺物…… 84
6．小　結…… 91

第５章　山下第１遺跡の調査……107
1．調査の概要……107
2．層　位……107
3．縄文時代の遺構と遺物……111
1）遺構……111
2）遺物……111
A．土器……111
B．石器……118
4．弥生時代の遺構と遺物……123
1）遺構……123
2）遺物……131
A．土器……131
B．石器……136
5．その他の遺構と遺物……137
1）遺構……137

2）遺物……137
6．小　結……142

第6章　山下第2遺跡の調査……154
1．調査の概要……154
2．層　位……154
3．遺　構……156
4．遺　物……158
A．土器……158
B．石器……163
5．小　結……164

第7章　山下第3遺跡の調査……169
1．調査の概要……169
2．層　位……169
3．遺　構……172
4．遺　物……175
A．土器……175
B．石器……175
5．小　結……179

第8章　まとめ……182

挿　図　目　次

第1図　車坂・山下遺跡位置図……2
第2図　遺跡周辺図……3
第3図　車坂第1遺跡位置図……5
第4図　調査区図……6
第5図　土層図……7
第6図　出土状況図……9
第7図　出土土器実測図……10
第8図　出土土器実測図……11
第9図　出土石器実測図……13

第10図　遺構配置図……14
第11図　1・2号住居実測図……15
第12図　3号住居実測図……16
第13図　4・5号住居実測図……18
第14図　1・2号住居出土土器実測図……21
第15図　3・4号住居出土土器実測図……22
第16図　4号住居出土土器実測図……23
第17図　5号住居出土土器実測図……24
第18図　5号住居出土土器実測図……25
第19図　出土土器実測図……26
第20図　住居出土石器実測図……27
第21図　出土遺物実測図……28
第22図　車坂第2遺跡位置図……36
第23図　土層図……37
第24図　出土状況図……39
第25図　出土土器実測図……40
第26図　出土遺物実測図……41
第27図　遺構配置図……43
第28図　1・2号住居実測図……44
第29図　3・4号住居実測図……45
第30図　1・3号住居出土土器実測図……47
第31図　出土土器実測図……48
第32図　2号住居出土石器実測図……49
第33図　車坂第3遺跡位置図……55
第34図　土層図……56
第35図　1・2号集石遺構実測図……57
第36図　1区出土状況図……58
第37図　出土土器実測図……61
第38図　出土土器実測図……62
第39図　出土土器実測図……63
第40図　出土土器実測図……65
第41図　出土土器実測図……66
第42図　2区出土状況図……67
第43図　出土土器実測図……68
第44図　出土土器実測図……70
第45図　出土土器実測図……71

第46図　出土土器実測図……72
第47図　出土土器実測図……73
第48図　出土土器実測図……74
第49図　出土石器実測図……76
第50図　出土石器実測図……77
第51図　出土石器実測図……78
第52図　遺構配置図……79
第53図　1号住居、2号竪穴状遺構実測図……81
第54図　3号竪穴状遺構、1・2号土坑実測図……82
第55図　1号住居出土土器実測図……85
第56図　1号住居、2号・3号竪穴状遺構出土土器実測図……86
第57図　3号竪穴状遺構、1号土坑出土土器実測図……87
第58図　1・2号土坑出土土器実測図……88
第59図　5号溝出土土器実測図……89
第60図　5号溝出土土器実測図……90
第61図　山下第1遺跡位置図……108
第62図　A1グリッド土層図……109
第63図　1・2号集石実測図……110
第64図　出土状況図……112
第65図　出土土器実測図……113
第66図　出土土器実測図……115
第67図　出土土器実測図……116
第68図　出土土器実測図……117
第69図　出土土器実測図……119
第70図　出土土器実測図……120
第71図　出土石器実測図……121
第72図　遺構配置図……122
第73図　1・2号住居実測図……124
第74図　3号周溝状遺構、4号住居実測図……125
第75図　5・6号住居実測図……126
第76図　7・9号住居、8号土器溜実測図……128
第77図　10・11号住居実測図……129
第78図　12・13号住居実測図……130
第79図　1・2号住居出土土器実測図……132
第80図　2号住居出土土器実測図……133
第81図　3号周溝状遺構出土土器実測図……134

第82図　3号周溝状遺構、4・6・7号住居出土土器実測図……135
第83図　8号土器溜、9号住居出土土器実測図……138
第84図　9号住居出土土器実測図……139
第85図　10・11・12・13号住居出土土器実測図……140
第86図　出土石器実測図……141
第87図　山下第2遺跡位置図……153
第88図　土層図……154
第89図　遺構配置図……155
第90図　1・2号住居実測図……157
第91図　3号住居、1号土坑実測図……158
第92図　出土土器実測図……159
第93図　出土土器実測図……160
第94図　出土土器実測図……161
第95図　出土石器実測図……162
第96図　山下第3遺跡位置図……168
第97図　土層図……169
第98図　平成5年度調査区図……170
第99図　平成6年度調査区図……171
第100図　集石遺構実測図……173
第101図　落し穴、1・2号土坑実測図……174
第102図　出土土器実測図……176
第103図　出土遺物実測図……177
第104図　出土石器実測図……178

表　目　次

車坂第1遺跡
第1表　土器観察表……30
第2表　石器観察表……34
車坂第2遺跡
第3表　縄文土器観察表……51
第4表　石器観察表……52
第5表　弥生土器観察表……53

車坂第３遺跡
第６表　縄文土器観察表……93
第７表　石器観察表……101
第８表　弥生土器観察表……104
山下第１遺跡
第９表　縄文土器観察表……144
第10表　石器観察表……147
第11表　弥生土器観察表……149
山下第２遺跡
第12表　土器観察表……165
第13表　石器観察表……167
山下第３遺跡
第14表　土器観察表……180
第15表　石器観察表……181

図　版　目　次

図版１　車坂第１遺跡１……186
図版２　車坂第１遺跡２……187
図版３　車坂第１遺跡３……188
図版４　車坂第１遺跡４……189
図版５　車坂第１遺跡５……190
図版６　車坂第１遺跡６……191
図版７　車坂第１遺跡７……192
図版８　車坂第１遺跡８……193
図版９　車坂第１遺跡出土遺物……194
図版10　車坂第１遺跡出土土器１……195
図版11　車坂第１遺跡出土土器２……196
図版12　車坂第２遺跡１……197
図版13　車坂第２遺跡２……198
図版14　車坂第２遺跡３……199
図版15　車坂第２遺跡４……200
図版16　車坂第２遺跡５……201
図版17　車坂第２遺跡出土遺物１……202

図版18　車坂第２遺跡出土遺物２……203
図版19　車坂第３遺跡１……204
図版20　車坂第３遺跡２……205
図版21　車坂第３遺跡３……206
図版22　車坂第３遺跡４……207
図版23　車坂第３遺跡５……208
図版24　車坂第３遺跡６……209
図版25　車坂第３遺跡７……210
図版26　車坂第３遺跡８……211
図版27　車坂第３遺跡９……212
図版28　車坂第３遺跡出土土器１……213
図版29　車坂第３遺跡出土土器２……214
図版30　車坂第３遺跡出土遺物……215
図版31　車坂第３遺跡出土石器……216
図版32　車坂第３遺跡出土土器３……217
図版33　車坂第３遺跡出土土器４……218
図版34　山下第１遺跡１……219
図版35　山下第１遺跡２……220
図版36　山下第１遺跡３……221
図版37　山下第１遺跡４……222
図版38　山下第１遺跡５……223
図版39　山下第１遺跡６……224
図版40　山下第１遺跡７……225
図版41　山下第１遺跡８……226
図版42　山下第１遺跡９……227
図版43　山下第１遺跡10……228
図版44　山下第１遺跡11……229
図版45　山下第１遺跡12……230
図版46　山下第１遺跡13……231
図版47　山下第１遺跡出土土器１……232
図版48　山下第１遺跡出土土器２……233
図版49　山下第１遺跡出土石器……234
図版50　山下第１遺跡出土土器３……235
図版51　山下第１遺跡出土土器４……236
図版52　山下第２遺跡１……237
図版53　山下第２遺跡２……238

図版54　山下第２遺跡３……239
図版55　山下第２遺跡４……240
図版56　山下第２遺跡５……241
図版57　山下第２遺跡出土土器……242
図版58　山下第２遺跡出土遺物……243
図版59　山下第３遺跡１……244
図版60　山下第３遺跡２……245
図版61　山下第３遺跡３……246
図版62　山下第３遺跡４……247
図版63　山下第３遺跡５……248
図版64　山下第３遺跡出土土器……249
図版65　山下第３遺跡出土遺物……250

第１章　歴史的環境

１．遺跡の立地と環境（第１・２図）

車坂・山下遺跡群は宮崎市大字加江田字車坂、山下に所在する。当地は日南山地・家一郷に源を有する加江田川と鰐塚山に源を有する清武川に挟まれ、日向灘沿岸まで延びる清武、木花丘陵の南端部域の標高１３ｍから２４ｍの間に位置する。また、丘陵裾部と両河川の間は標高２ｍから３ｍの水田地帯となっている。

木花、清武丘陵上には、宮崎学園都市の建設に伴い宮崎県文化課により発掘調査が行われており宮崎学園都市遺跡群として報告された数多くの遺跡が存在する。代表的な遺跡としては、旧石器時代のナイフ形石器、縄文時代草創期の隆起線文土器・爪形文土器、早期の前平式土器・塞ノ神式土器等を出土した堂地西遺跡。縄文時代後期から晩期の土器を出土し、縄文時代晩期集落、平安時代の竈を持つ竪穴住居及び掘立柱建物群を検出した平畑遺跡。細石器、縄文時代早期の貝殻文土器・押型文土器・塞ノ神式土器等、弥生時代後期の竪穴住居、中世の周溝墓・掘立柱建物等が検出された前原西遺跡。縄文時代早期、弥生時代中期の竪穴住居・後期の竪穴住居、古代から中世の掘立柱建物、中世の石塔、近世墓等が検出された堂地東遺跡。弥生時代の竪穴住居・周溝状遺構、古墳時代の竪穴住居・土坑、中世の掘立柱建物等が検出された熊野原遺跡。中世山城として今江城・車坂城等がある。丘陵北面には縄文時代早期・後期の土器、弥生時代から古墳時代の竪穴住居、平安時代の焼成土坑・環濠遺構が検出された西ノ原遺跡、弥生時代の竪穴住居・奈良時代の竪穴住居を検出した熊野第１遺跡等が存在している。

また、丘陵北側で清武川との間の微高地には前方後円墳２基を含む県指定史跡木花村古墳が所在していることは、当熊野地区が延喜式に見られる「救麻駅」の比定地とされていることとともにこの地区の歴史を考えるうえで重要である。

２．調査に至る経緯

宮崎市では、宮崎サンテクノポリス構想で住宅整備地区に予定している本地区を、宮崎学園都市整備事業に連動する公共施設の整備改善並びに宅地の利用増進を図るために、「宮崎広域都市計画事業車坂・山下土地区画整理事業」を計画し、昭和６１年４月８日に国の都市計画決定を受けている。

計画区域は宮崎学園都市建設に伴って昭和５５年度から昭和５８年度に発掘調査された宮崎学園都市遺跡群に隣接する地区であることから、遺跡の立地が確実視されていたために、昭和６２年５月２８日、２９日の２日間現地踏査による分布調査を行った。

その結果、宮崎学園都市遺跡群と近接する新たな遺跡もしくは同一遺跡の一部を構成していることが判明した。

このことから、当該区域内の埋蔵文化財の広がり等を判明させるために昭和６２年度に試掘調査を行うことを決定した。

第１図　車坂・山下遺跡位置図

田上橋
今江橋
熊野川
熊野
熊野橋
西ノ原遺跡
熊野第1遺跡
前原北遺跡
前原西遺跡
学園木花台北(二)
学園木花台北(三)
木花台団地
木花処理場
学園木花台北
今江城
浦田池
看護等研修センター
地域職業訓練センター
計量検定所
衛生環境研究所
堂地西遺跡
学園木花台西(二)
学園木花台西(一)
熊野原遺跡
市立木花中
前原南遺跡
学園木花台南(二)
学園木花台南(一)
(造成中)
木花遺跡
第一竹の内橋
宮崎大学
堂地東遺跡
犬馬場遺跡
陣ノ内遺跡
平畑遺跡
岩崎池
学園木花台(一)
車坂城
車坂第3遺跡
山下第2遺跡
山下第1遺跡
車坂第1遺跡
車坂第2遺跡
山下第3遺跡
(宅地造成中)
木崎線
県道塩鶴
0
500 m

第2図　遺跡周辺図

試掘調査は、昭和６３年７月５日に農作地の作付け状況の調査を行い、同１８日、１９日に地権者への説明会を実施した後の８月１日から９月２２日まで行った。

試掘調査では、東西に長いＬ字状の事業区内の内、南北方向の車坂地区を北から順に１号地から５号地、東西方向の山下地区を東から順に６号地から１０号地に分割し、宅地、道路、急傾斜地、明らかに旧地形が大きく削平されている部分は調査対象外とした。

調査法としては１０ｍ四方のグリッドを組み、その交点に２ｍ×２ｍのトレンチ掘りを基本として行ったが、土地の状況に応じグリッドとは別に、縦、横に長いトレンチを設定した箇所もある。車坂地区では、赤ホヤ層の残りが悪い地区が多く遺構・遺物の検出もなされない部分が数多くみられた。その中でも４号地、５号地とした南側の部分は土層もしっかりした部分が多く居住跡と見られる遺構も確認された。

山下地区は大半が蜜柑園であるため試掘は限られたものであったが、６号地では住居跡や集石遺構を確認している。また、７号地、８号地、９号地、１０号地においても集石遺構の存在が強く窺われた。

以上のことより、発掘調査は事業区の南側部分を中心に行うことと決定した。

３．調査の概要

車坂第１遺跡では、縄文時代早期の土器・集石遺構、弥生時代後期の住居・土坑が検出された。

車坂第２遺跡では、縄文時代早期の土器・集石遺構、弥生時代後期の住居、溝状遺構が検出された。

車坂第３遺跡では、縄文時代早期の土器・多量の石器・集石遺構、弥生時代後期の住居、溝状遺構が検出された。

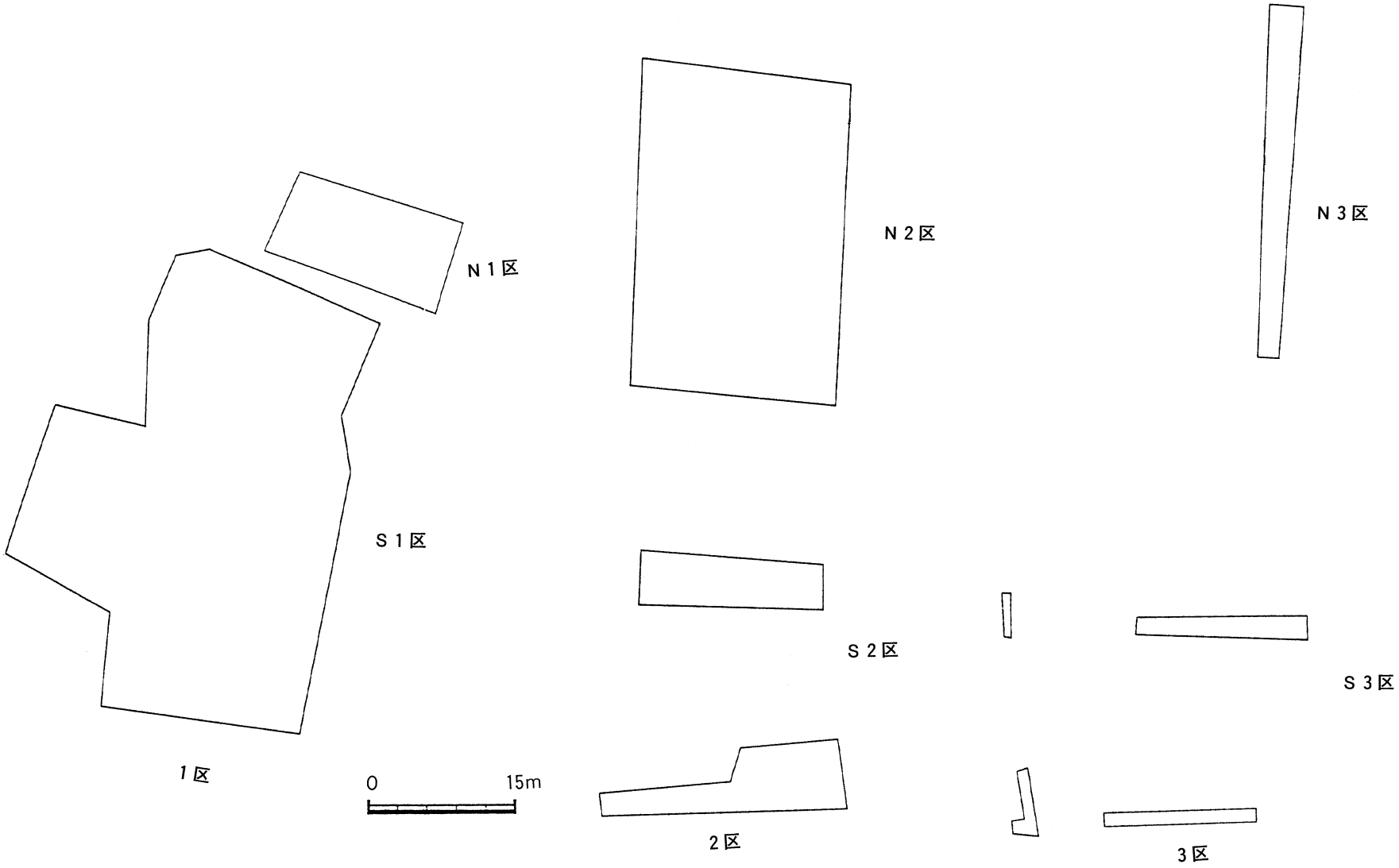
山下第１遺跡では、縄文時代早期の土器・集石遺構、弥生時代中期・後期の住居、溝状遺構が検出された。

山下第２遺跡では、縄文時代後期の住居、溝状遺構が検出された。

山下第３遺跡では、縄文時代早期の集石遺構、落とし穴、溝状遺構が検出された。

これらにより、縄文時代早期を初現とし弥生時代中後期に居住域となった遺跡群と推定される。

第３図　車坂第１遺跡位置図



第 4 図　調査区図

第２章　車坂第１遺跡の調査

１．調査の概要（第３・４図）

本遺跡は車坂・山下遺跡群の最も東側に位置し、畑や蜜柑園として利用されていた区域である。発掘調査は、畑の区画に沿った形で調査区を設定し、西から東に向かって第１区、第２区、第３区と決定し、それぞれの区域を南北に分割している。

第１区については、北ブロックでは赤ホヤ層上面までの遺構・遺物は検出されなかった。赤ホヤ層の下面においても縄文時代早期の土器片が若干検出されたのみであった。

南ブロックでは、赤ホヤ層上面で弥生時代後期の竪穴住居４軒、土坑２基、時期不明ＰＩＴ群を検出した。また、赤ホヤ層下面では縄文時代早期の集石遺構を検出した。

第２区については、北ブロックでは溝状遺構１条と弥生時代中期の花弁型住居を１基検出したが大きく撹乱されたものであった。また、南ブロックは撹乱が激しく旧地形をとどめていなかった。

第３区は、第２区の調査段階で旧地形の削平と撹乱が進んでいることが判明していたためトレンチによる遺構確認と土層確認を行った。その結果、北ブロックでは蜜柑園の水路と思われる溝状遺構が１条検出されたのみで、その他の遺構・遺物は検出されなかった。南ブロックでは全く遺構・遺物の検出は出来なかった。

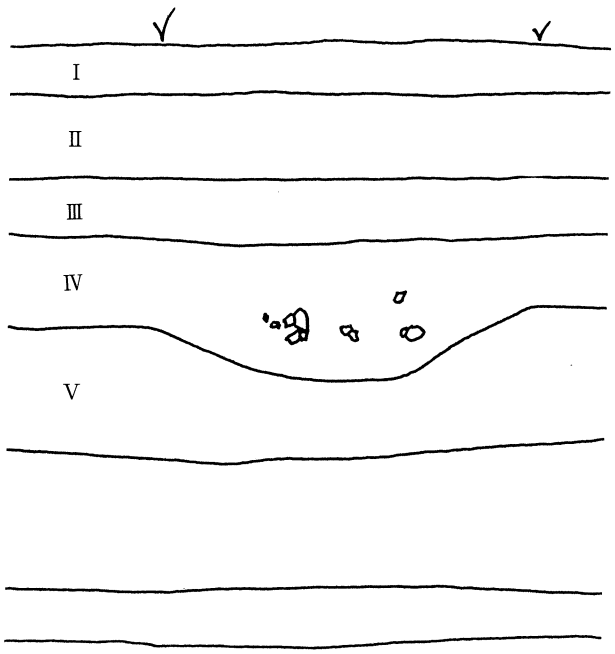
２．層　位（第５図）

本遺跡の基本層序は、Ⅰ層　表土（耕作土）．Ⅱ層　赤ホヤ層．Ⅲ層　黄褐色ローム層．Ⅳ層　黒褐色ローム層．Ⅴ層　黄白色ローム層であり、基層はシラスとなっている。

本来は、赤ホヤ層の上に黒色土層があったものと思われるが、削平及び耕作によりなくなっている。

弥生時代の住居は第Ⅲ層まで掘り込んである。

縄文時代早期の遺物は、Ⅳ、Ⅴ層で検出され、集石遺構は、Ⅴ層に掘り込みがみられる。



第５図　土層図

3．縄文時代の遺構と遺物

1）遺　構

縄文時代の遺構としては集石遺構が検出された。

検出状況に大きく3種類のものが見られた。

1類は、密集した円礫や破砕礫がほぼ円形に出土するもの

2類は、ほぼ円形に円礫や破砕礫が見られるが中央部分は淡黒色の土が検出されるもの

3類は、不正形な状態で礫が集まっているもの

1類、2類の規模は直径約1mから1.5m、深さ約50cm程度である。

このうち、1類、2類はスリバチ状の掘り込みを有し、掘り込み内に礫が隙間なく充填されていた。3類は掘り込み等は見られず、どちらかと云えば浮いた形の出土である。

このうち2類、3類は比較的近接した場所で検出されていることは注目される。

2）遺　物（第6図）

出土した縄文時代の遺物は土器と石器であり、調査区全面から検出された。

A．土　器（第7・8図）

出土した土器は全て縄文時代早期の土器であり、調整、文様、器形等から次のように分類される。

1類　貝殻条痕土器類　条痕による調整を行う。1

2類　桑ノ丸式土器類　口縁端を平に仕上げ、内外面をナデた後に櫛状施文具による文様を施すもの。

綾杉状の施文　2、3、4、5、7

流水文状の施文　6、8、9

格子状の施文　10

3類　下剝峰式土器類

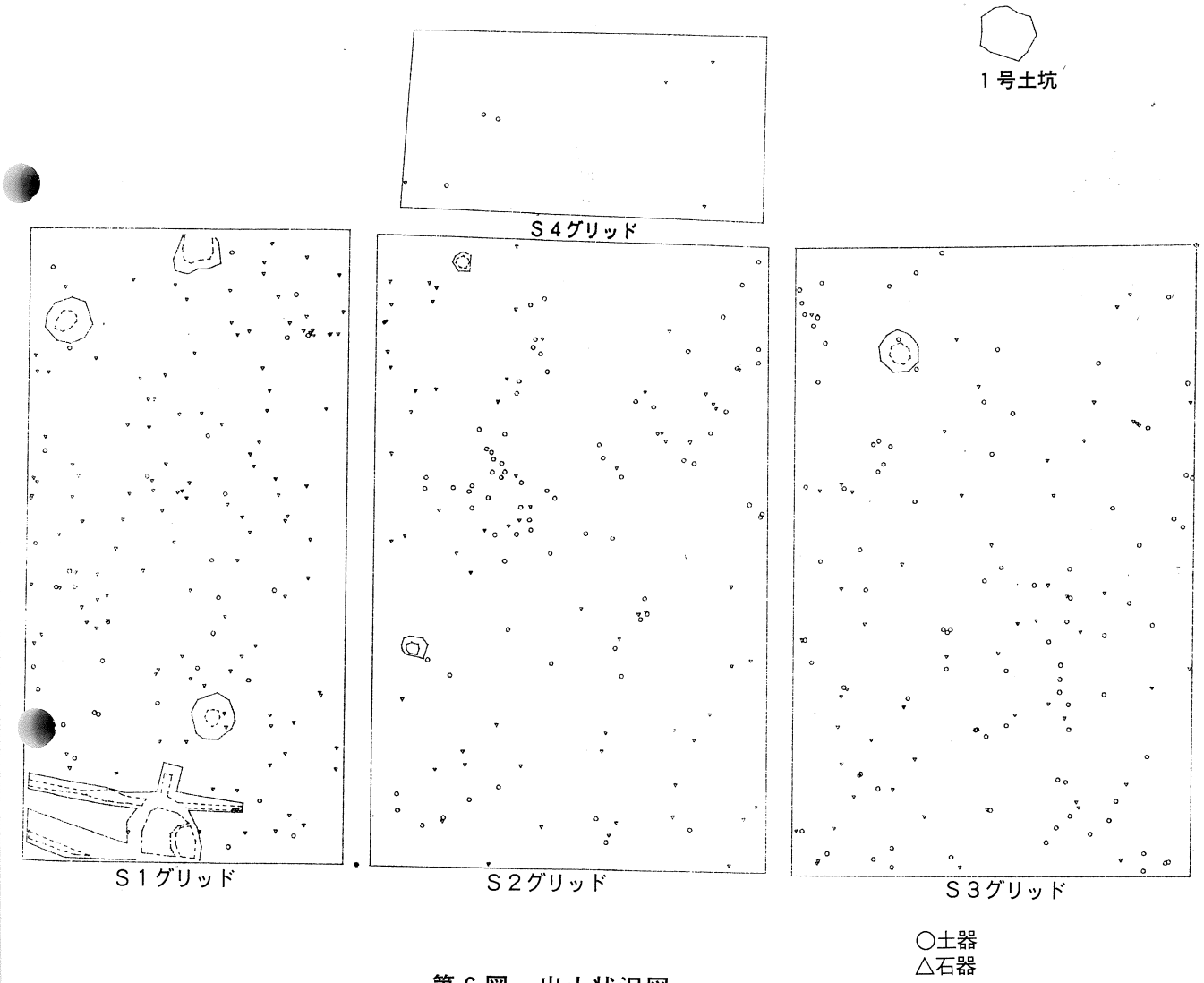
a　口縁端を平に仕上げ、内外面をナデた後に貝殻腹縁の刺突により文様を施すもの。

綾杉状の施文　11

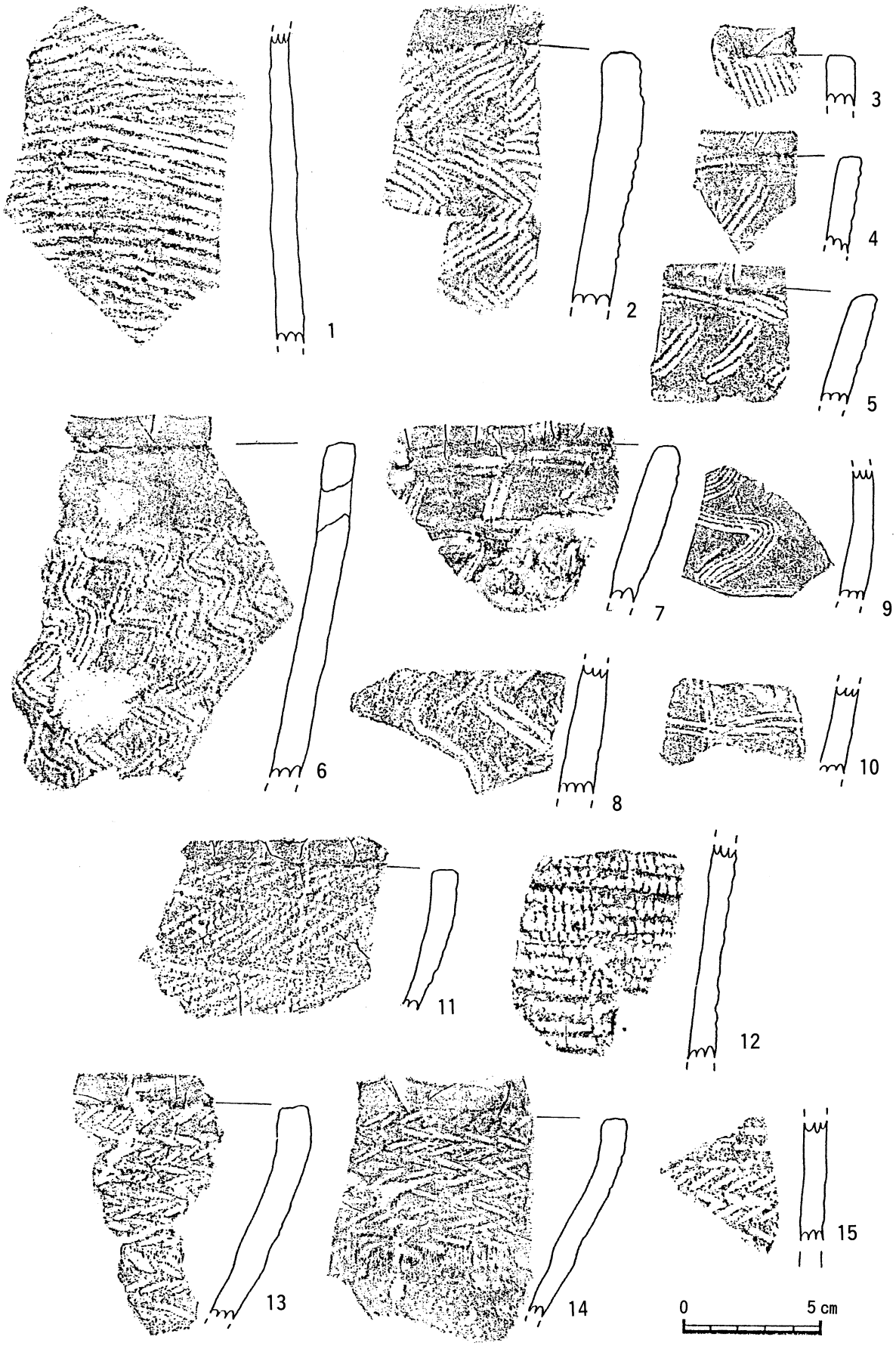
横位の施文　12

b　口縁端を平に仕上げ、内外面をナデた後にヘラ状工具や貝殻腹縁の刺突により文様を施すもの。

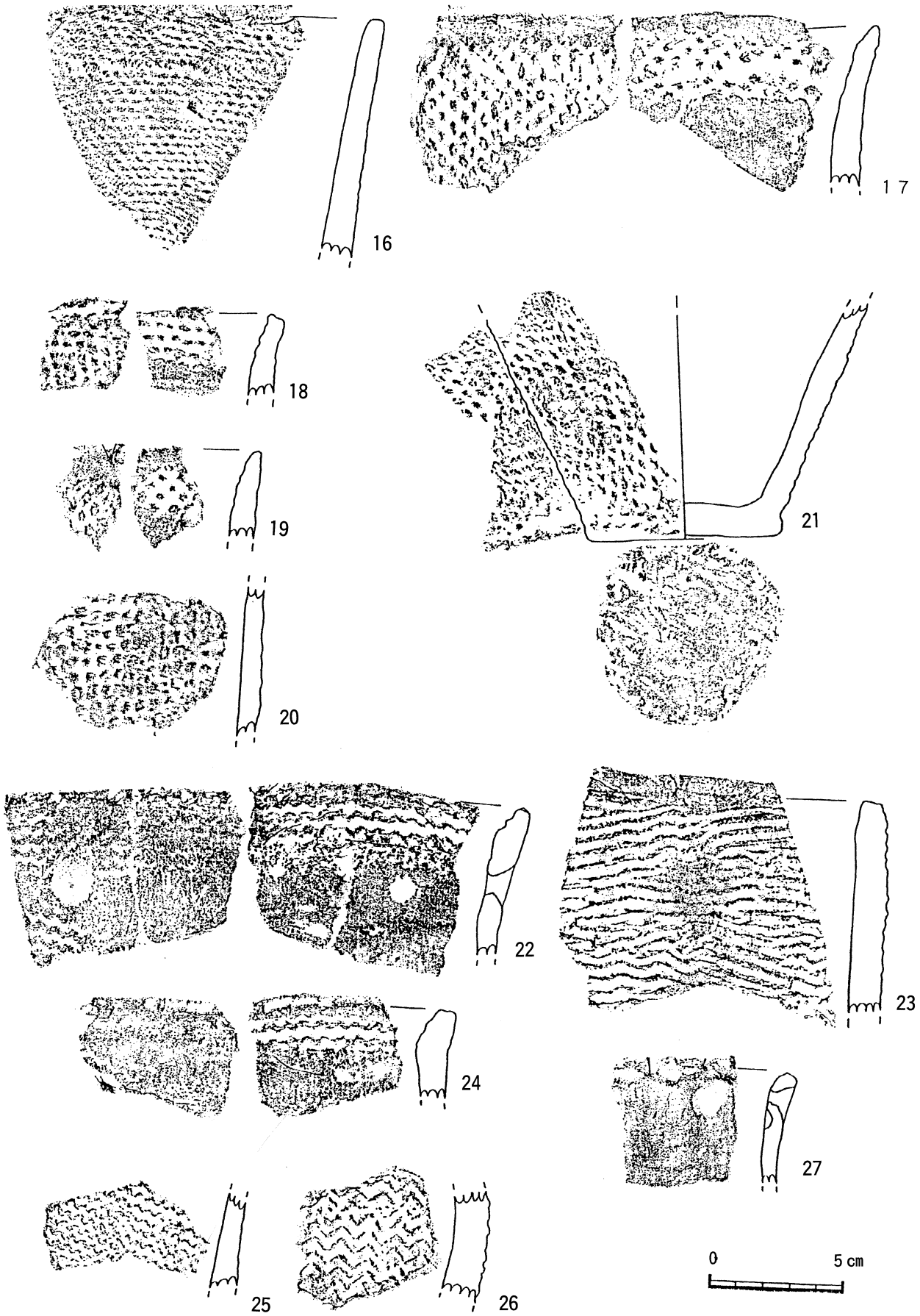
ヘラ状工具による綾杉状の施文　13



第6図　出土状況図



第７図　出土土器実測図



第８図　出土土器実測図

ヘラ状工具による綾杉状の施文を口縁下に施し、その下部に貝殻腹縁の刺突による綾杉状の施文を施すもの　14

ヘラ状工具による綾杉状の施文を施し、横位の貝殻腹縁の刺突による施文を施すもの 15

4類　押型文土器

a　楕円押型

細かな楕円押型を外面に施し口縁端を平にするもの　16

楕円押型を外面に施し、内面に原体1つ分の文様帯を持ち、平にした口縁端に刻みを入れるもの　18

楕円押型を外面に施し、内面に原体1つ分の文様帯を持ち、口縁部を丸く仕上げ両面に無文帯を持つもの　17、19

20は胴部片、21は底部で網代底である。

b　山形押型

山形押型を外面に施し、内面に原体1つ分の文様帯を持ち、平にした口縁端に刻みを入れるもの　22、24

山形押型を外面に施し、口縁端を平にするもの　23

原体の形状に、山形が鋭いもの　26、山形が丸みを帯びたもの　25、山形が帯状になるもの　23　の3種類に分けられる。

5類　その他の土器

27はナデ調整で口唇部に深い押圧が入る。

B．石　器（第9·21図）

石器は、石鏃、凹石、敲石等が出土している。

石鏃は各調査区から出土している。石材は、黒曜石、チャート、頁岩等多種である。

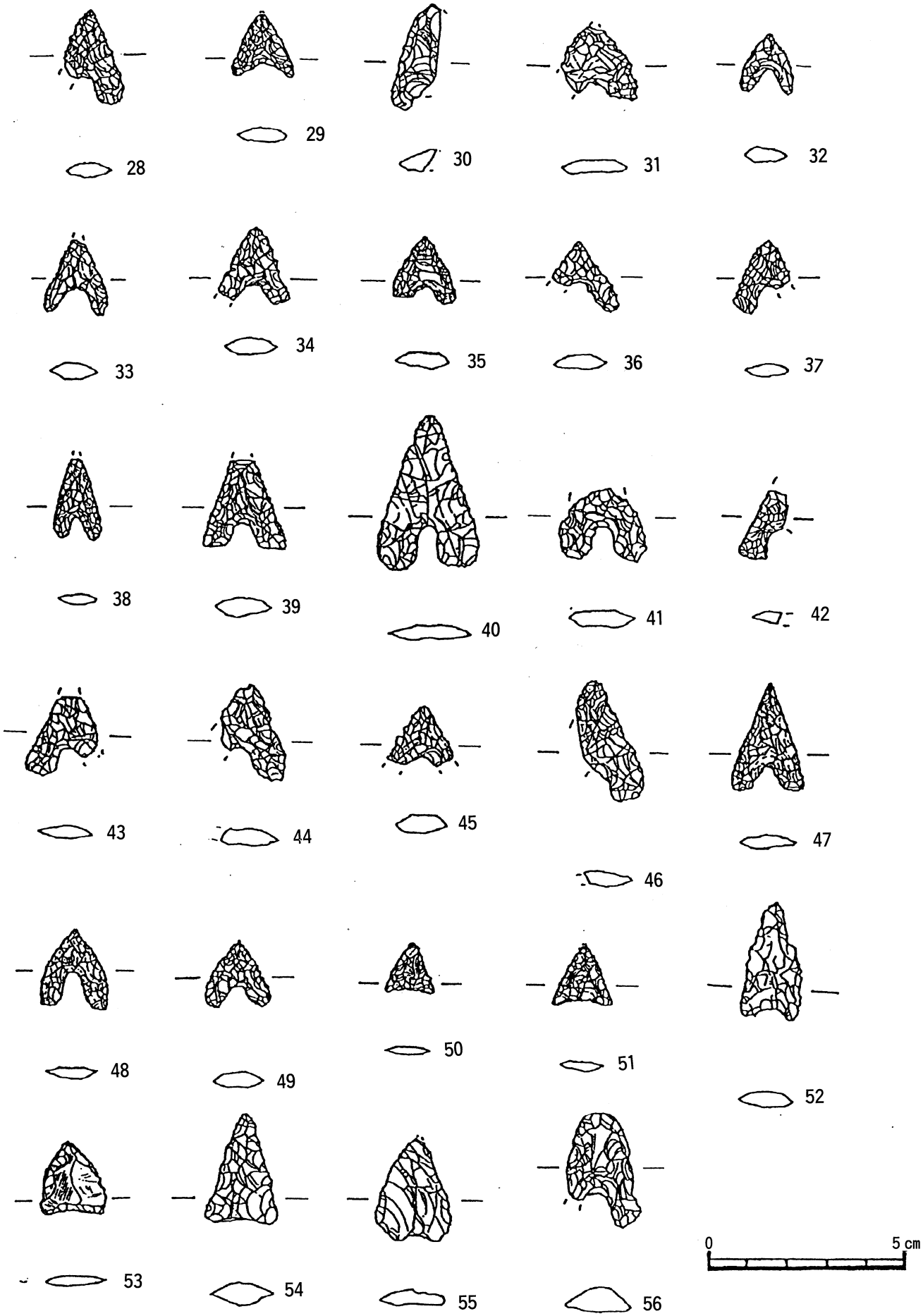
凹基鏃　28～49、平基鏃　50～54、所謂トロトロ石器　56が有り、大きさは多様である。

敲石は、縦長でその端部を敲打に使用し、凹石を兼ねる。129、132

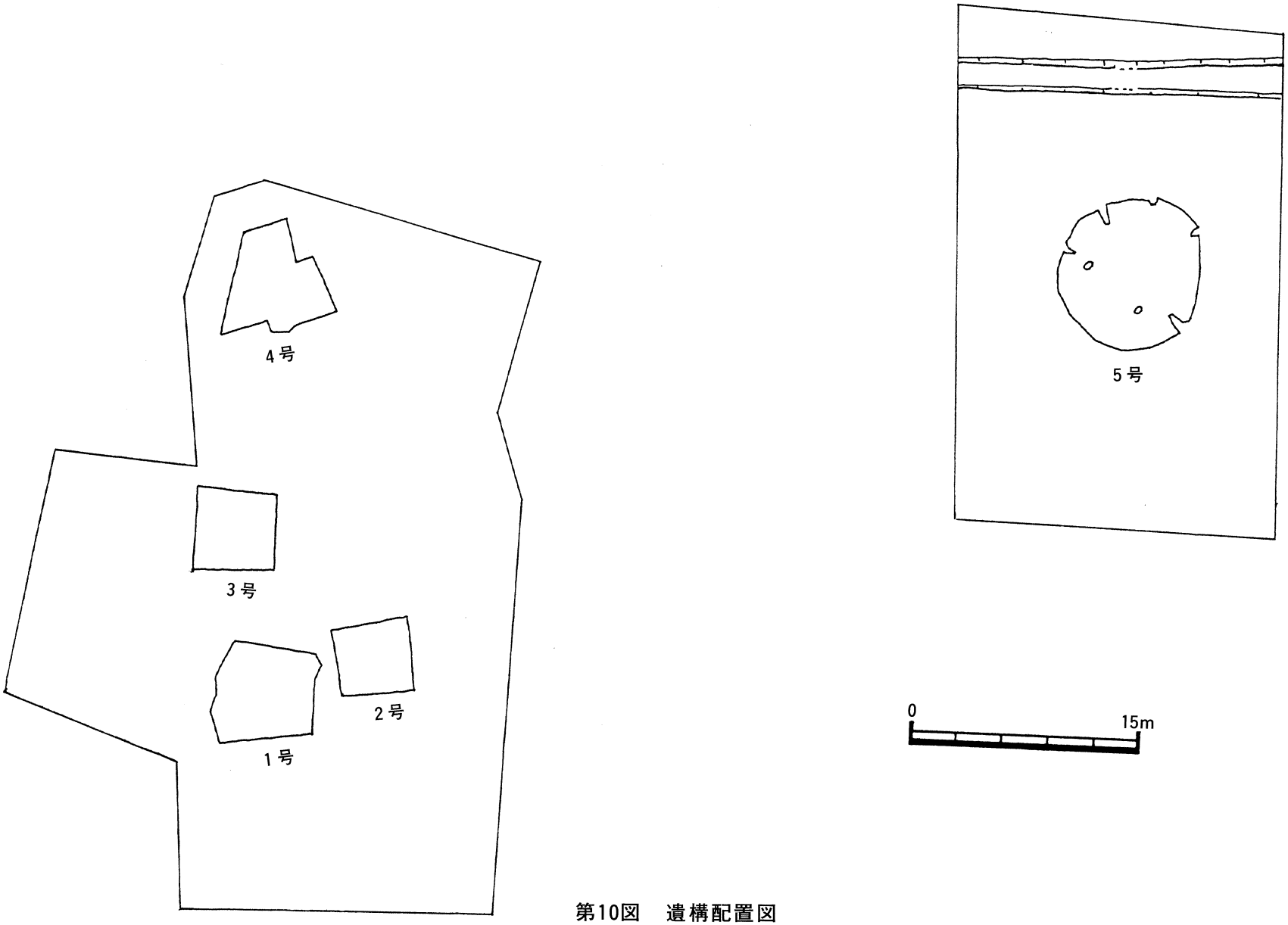
凹石は、円若しくは楕円で中央に窪みを持ち、側面に敲打痕を持つ。130、131

敲石、凹石は図示した以外にも出土しているが掲載は行っていない。

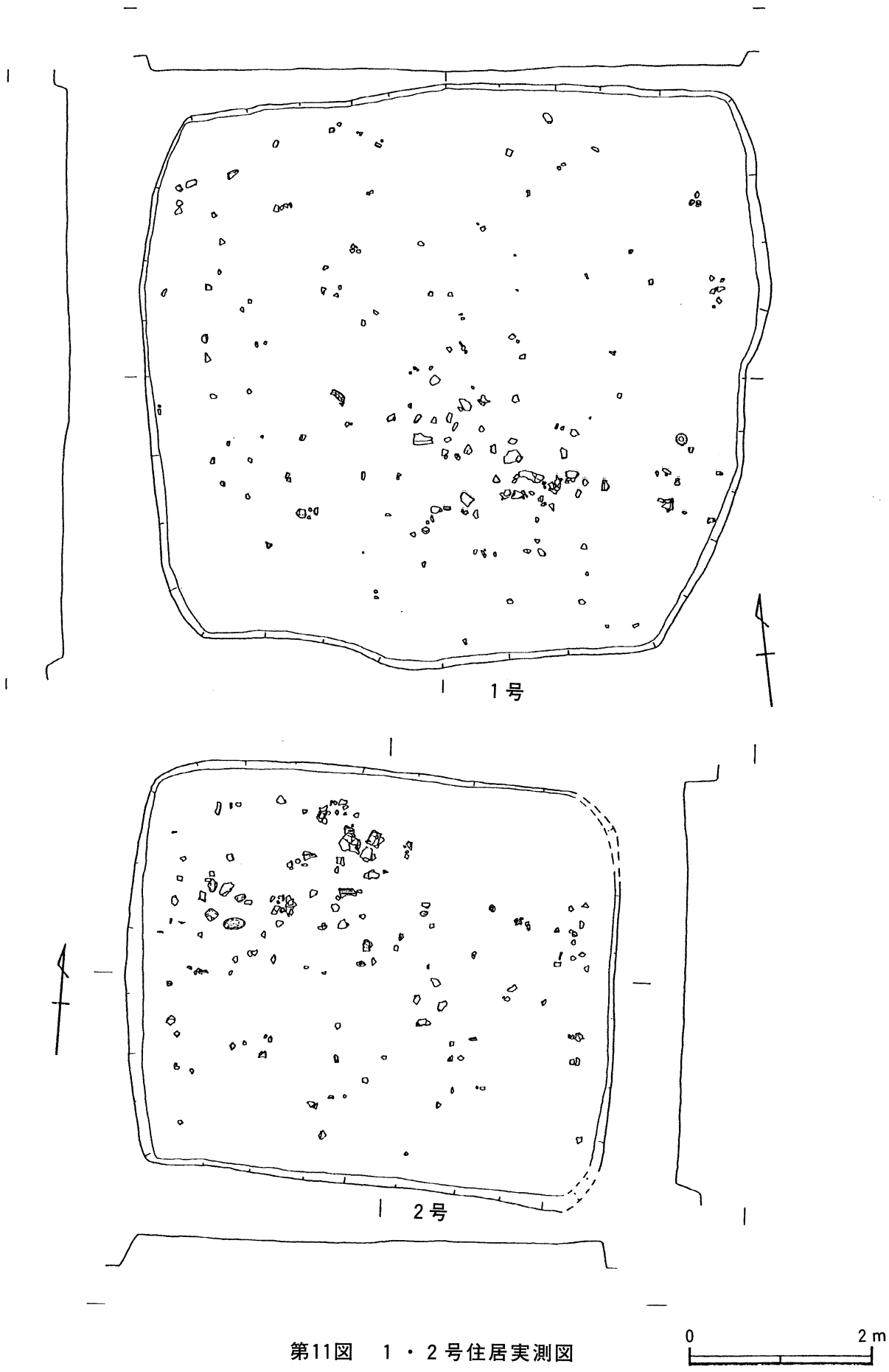
その他、剝片、チップ等は多数出土している。


28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
0
5 cm

第９図　出土石器実測図



第10図　遺構配置図



第11図　1・2号住居実測図

4．弥生時代の遺構と遺物

1）遺　構（第10図）

弥生時代の遺構としては、第1区から竪穴住居が4軒、土坑が2基、溝状遺構、第2区から竪穴住居が1軒検出されている。

1号竪穴住居（第11図）

6.6m×6.6mの方形の竪穴住居で深さ約20cmを残し、東西方向・南北方向の各方位にほぼ各辺が平行する。

遺物は、床面からやや浮いた形で検出され、壷・甕・蓋・高坏・器台が出土した。

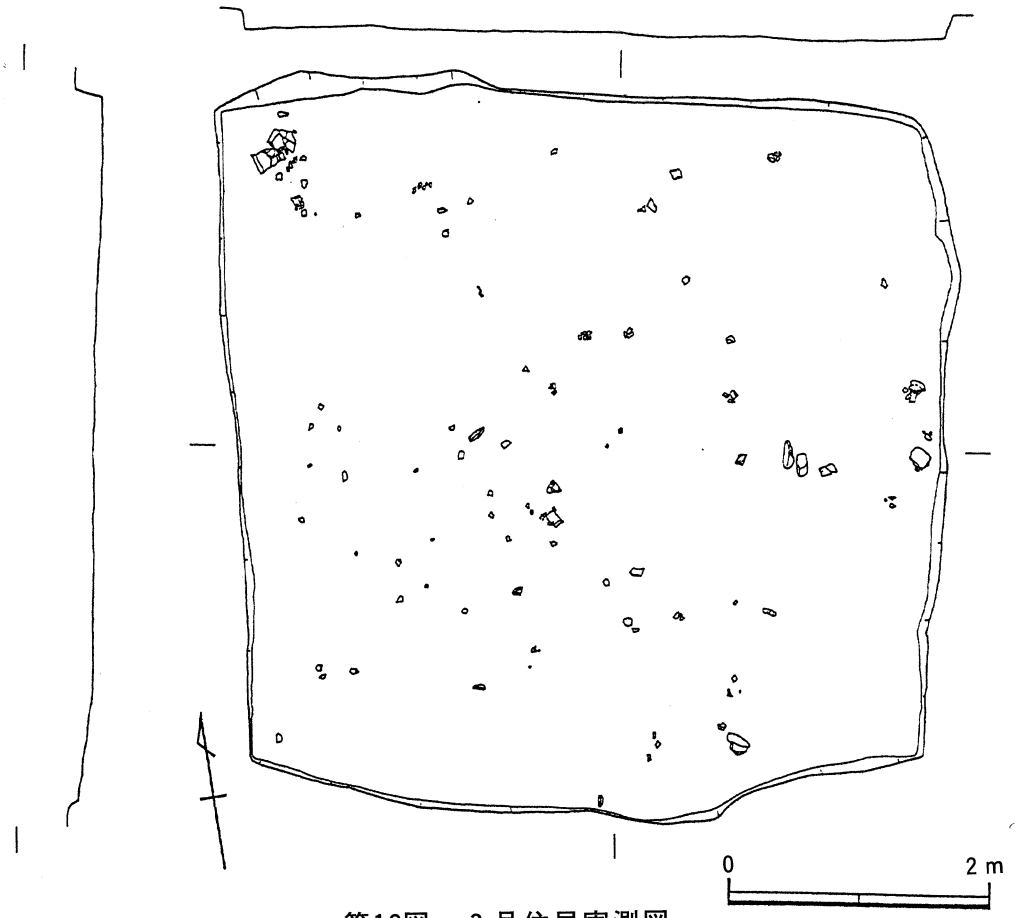
柱穴は検出出来なかった。

2号竪穴住居（第11図）

5.4m×4.5mの方形の竪穴住居で深さ約30cmを残し、東西方向・南北方向の各方位にほぼ各辺が平行する。

遺物は、床面からやや浮いた形で検出され、甕と石器が出土した。

柱穴は検出出来なかった。



第12図　3号住居実測図

３号竪穴住居（第12図）

5.6m×5.4mの方形の竪穴住居で深さ約20cmを残し、東西方向・南北方向の各方位にほぼ各辺が平行する。

遺物は、床面からやや浮いた形で検出され、甕・高坏と石器が出土した。

柱穴は検出出来なかった。

４号竪穴住居（第13図）

4.7m×4mの方形の小型の竪穴住居と7.5m程度の方形で大型の竪穴住居が切り合っていると思われるが、大型の住居は約半分が調査区から外れていたために住居との確信は得られなかった。両住居共に、東西方向・南北方向の各方位にほぼ各辺が平行する。

遺物は、床面からやや浮いた形で検出され切り合い部分に集中していた。壷・甕・高坏・鉢が出土した。

柱穴は検出出来なかった。

５号竪穴住居（第13図）

直径9.8mの花弁型の竪穴住居で深さ約20cmを残すが、南東から中央部にかけての約３分の１と南西部の壁に撹乱を受けている。間仕切を現状で５箇所に残し、柱穴が南、西のほぼ中央に検出された。原型は４本柱で北半分に間仕切を持つものと思われる。

遺物は、床面からやや浮いた形で検出され、中央部の赤色に焼けた部分に集中していた。壷・甕・鉢が出土した。

柱穴は、間仕切の前に２箇所で検出された。

１号土坑

アカホヤ層を除去する際に発見したため、上端をカットしている。楕円の土坑であったと思われる。

出土遺物としては、壷・甕であり、貯蔵穴と思われる。

２号土坑

アカホヤ層を除去する際に発見したため、上端をカットしている。楕円の土坑であったと思われる。

出土遺物としては、壷・甕であり、土器敷き土坑若しくは貯蔵穴と思われる。

溝状遺構

調査区南東端に一部検出された溝状遺構で、全容は不明である。

出土遺物としては、壷・甕がある。

第13図　4・5号住居実測図

2）遺　物

A．土　器（第14～19図）

2号住居・4号住居は弥生時代中期、1号住居・3号住居・5号住居は後期のものである。

1号竪穴住居出土土器（第14図）

57は壷で口縁部を平にし3本の沈線を巡らす。58～60は甕で、口縁がくの字外反するもので屈曲部に稜を持ち、59は刻目突帯を持つ。61は小型の高坏で口縁端部を逆L字状に幅広く作る。62は蓋で径約13cmと小型である。63は甕の底部、64は小型の器台である。

2号竪穴住居出土土器（第14図）

57は壷で口縁端を平にし3本の沈線を巡らす。66～69は甕で、逆L字状の口縁である。65は肩に沈線を入れ、66、67は山形、68は刻目突帯を持つ。

3号竪穴住居出土土器（第15図）

70～73は甕で、口縁がくの字外反するもので屈曲部に稜を持ち、胴部の張りが強い。74は小型の高坏で脚裾の狭い台付鉢的なものである。

4号竪穴住居出土土器（第15・16図）

75～79は壷で、75、76は口縁部がラッパ状、77は直線的である。80～85は甕で、80～82は口縁がくの字外反するもので屈曲部に稜を持ち、底部がやや上げ底となる。83は口縁半ばから強く外反させるもので短頸壷の可能性もある。84、85は甕で、逆L字状の口縁である。84は肩に沈線を入れ、85は山形突帯を持つ。86は**埦**である。87は小型の高坏で口縁端部、脚部に横方向の沈線を入れ、裾部に縦の刻みを入れる。88は高坏の脚裾部である。89～95は底部で壷の底部は平底、甕の底部はやや上げ底である。

5号竪穴住居出土土器（第17・18図）

96～98、104、107は甕で、96、104は口縁がくの字外反し屈曲部に稜を持ち、逆卵型の胴部である。97、98は口縁が大きくくの字外反し、屈曲部の稜はやや不明瞭で、逆三角形胴部である。99～103は壷で、99は直線的、100はラッパ状の口縁で頸部に三角突帯を持つ。胴部には逆卵型と球型とがある。105は台付鉢で径11cmと小型である。106は**埦**で径11cmである。

1号土坑出土土器（第19図）

108、109は共に壷で、口縁は不明である。

２号土坑出土土器（第19図）

110～113は甕で、逆Ｌ字状の口縁である。110は口縁がくの字気味で、111は三角突帯を持つ。113は厚みのある底部である。

溝状遺構出土土器（第19図）

114は口縁がくの字外反し屈曲部に稜を持つもので、115は薄手で口縁がほぼ直角に外反する。116は壷の底部である。

Ｂ．石　器（第20図）

石器は住居から、磨石・敲石・凹石・台石が出土している。

117は磨石、118は敲石で１号住居出土である。

119は敲石、120は台石で２号住居出土である。

121は凹石で敲石としても使用、122は台石で３号住居出土である。

123、124は台石で４号住居出土である。

125は敲石、126は磨石、127、128は凹石で５号住居出土である。

５．その他の遺物（第21図）

133～136は不明土坑出土の坏である。

133は径12cmでヘラ切りの後ナデている。

134は径7.6cmで糸切り底である。

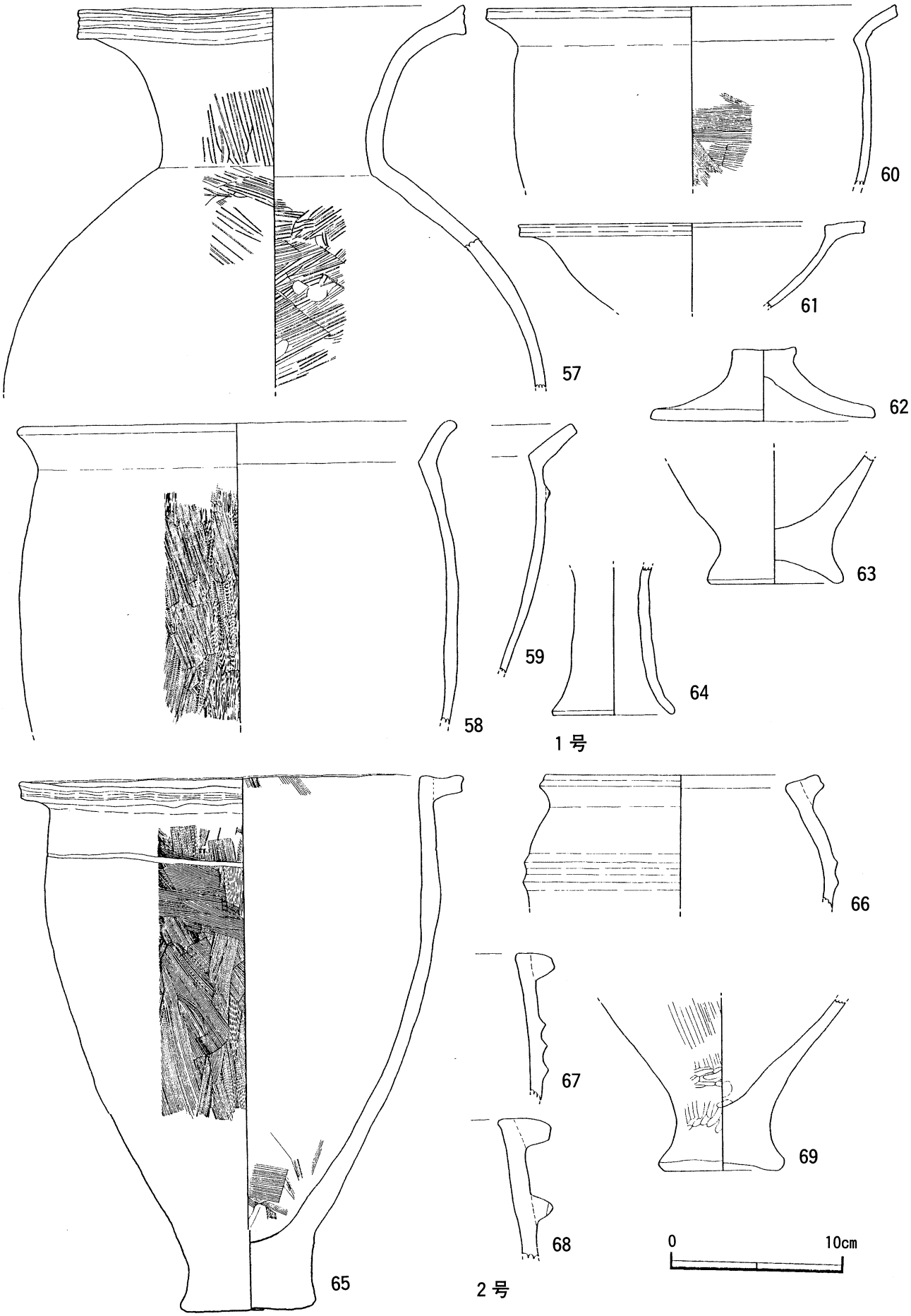
135は径9cmでヘラ切り底である。

136は径7.6cmの糸切り底で、墨書が見られる。

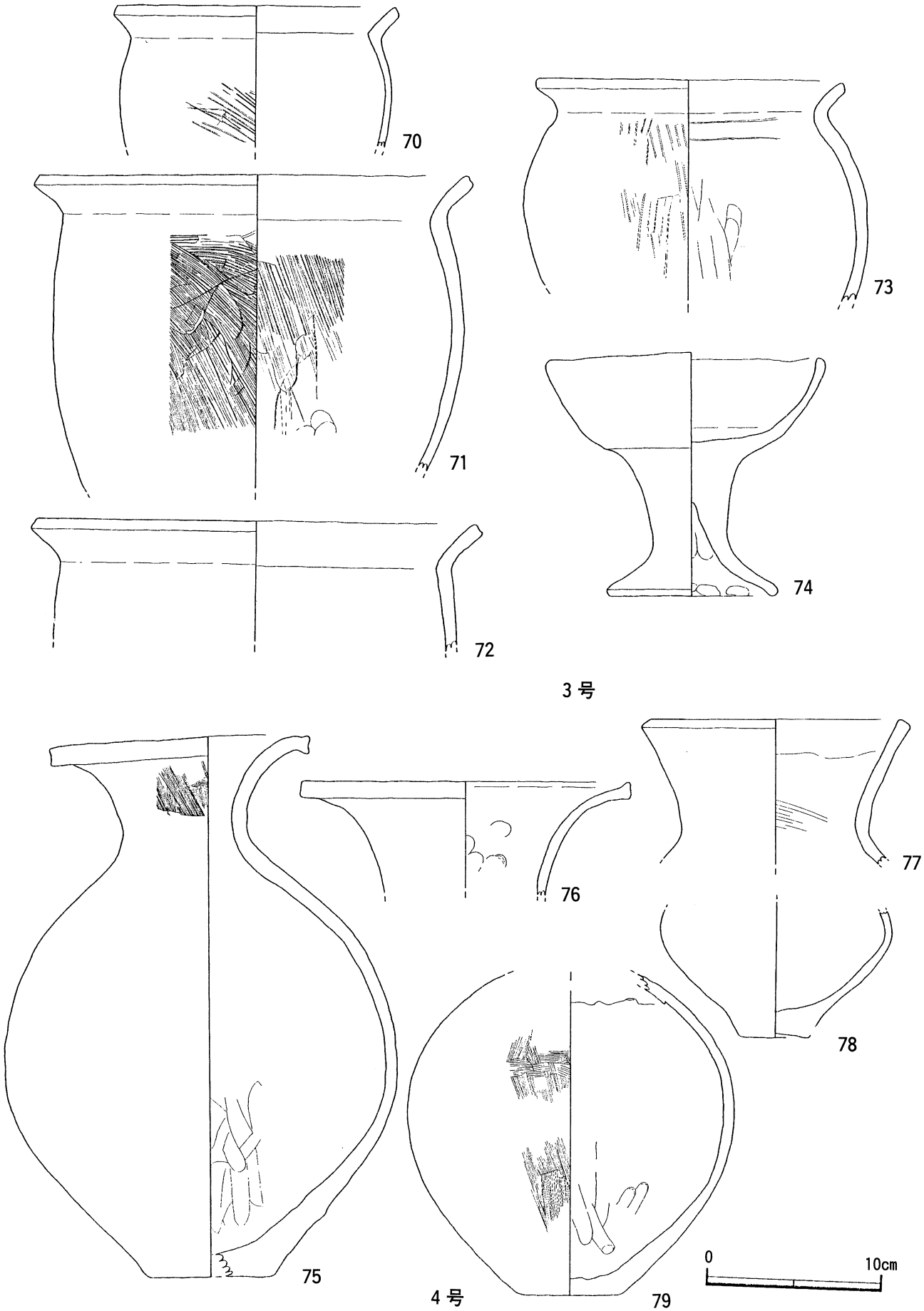
137・138は、表採品である。

137は太型の石斧であるが、基部を欠損し、刃部は不整形である。弥生時代のものと考えられる。

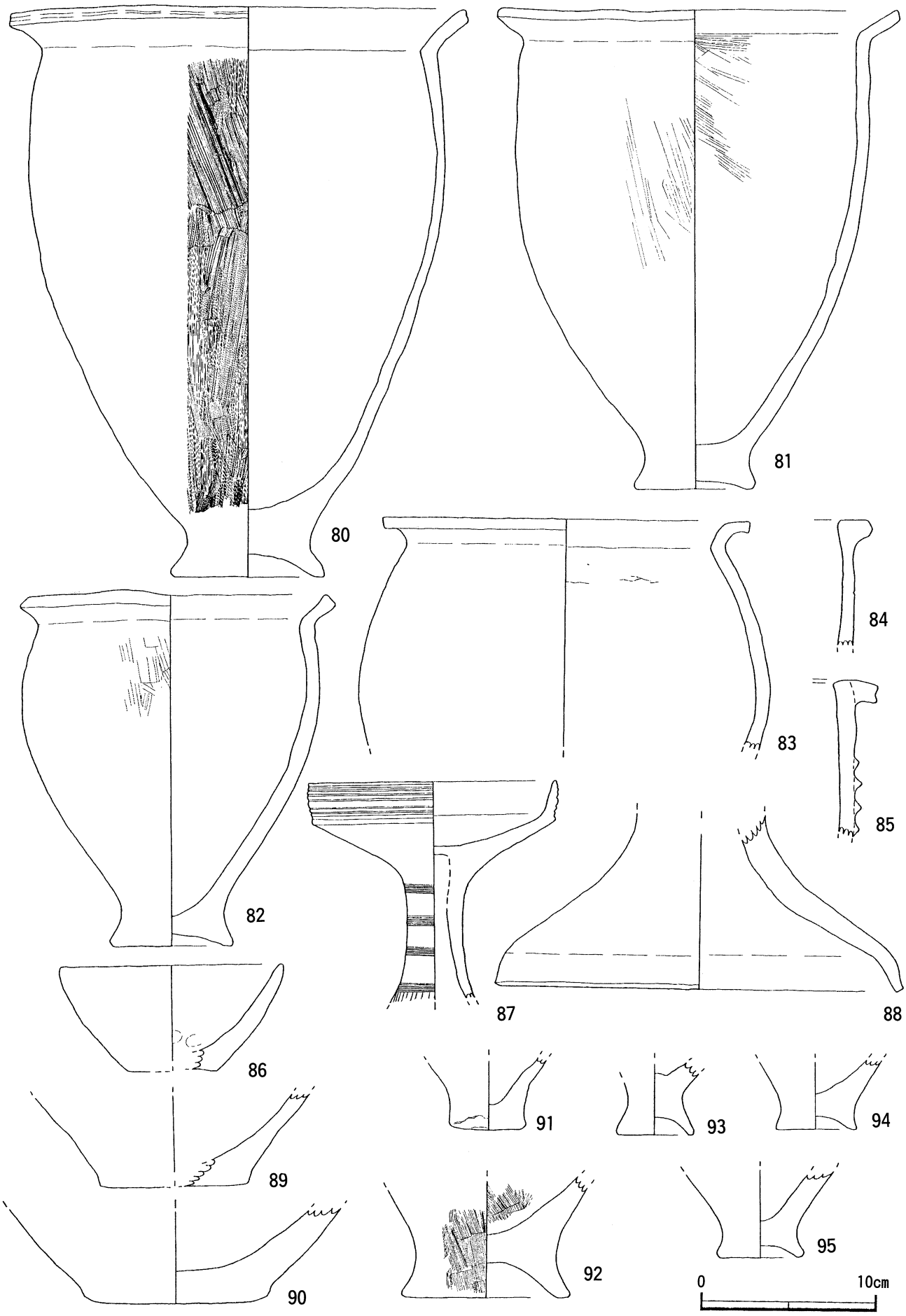
138は小型の勾玉で、偏平な形状をしており、穿孔を両側から施している。縄文時代のものと思われる。



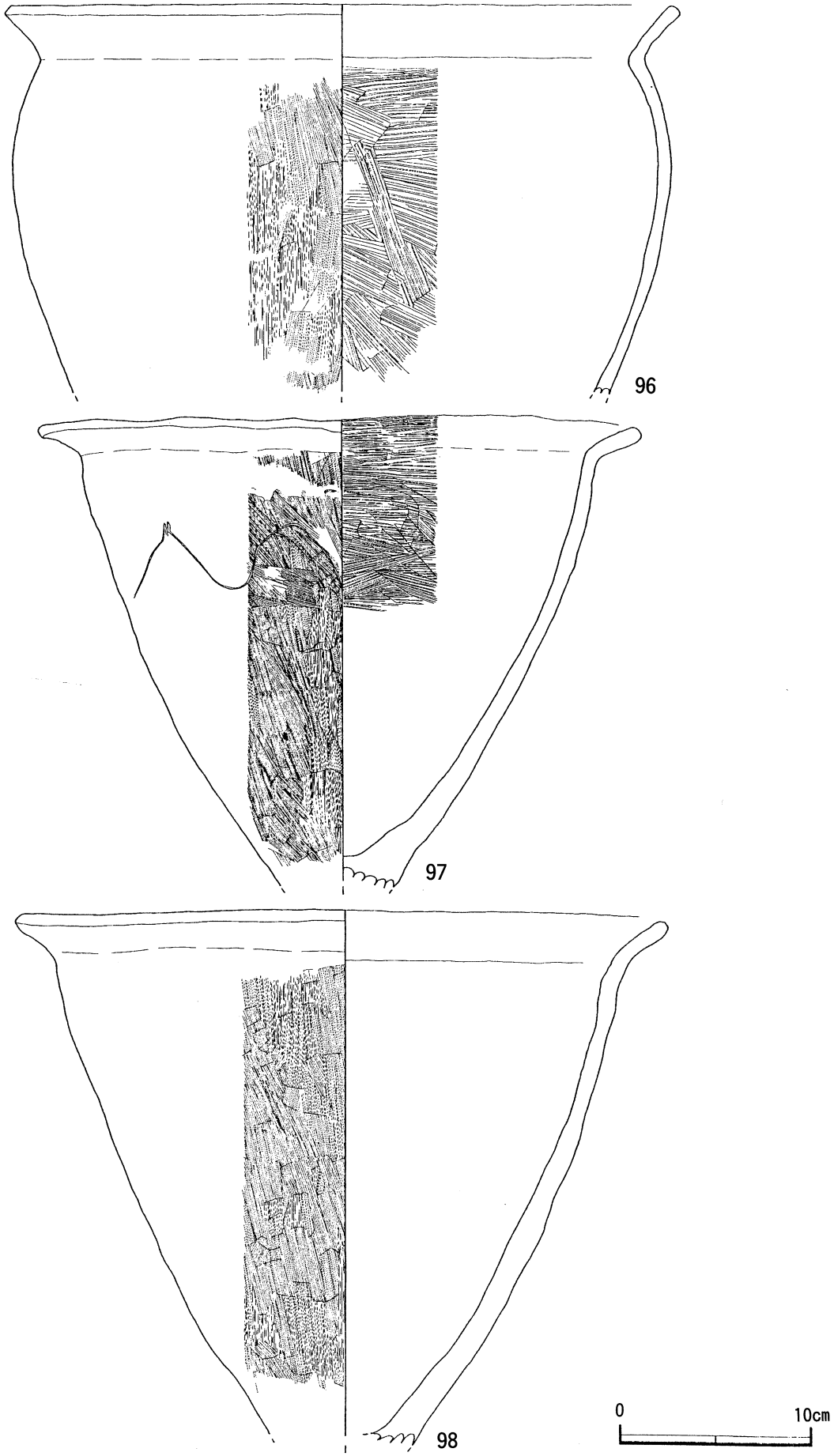
第14図　1・2号住居出土土器実測図



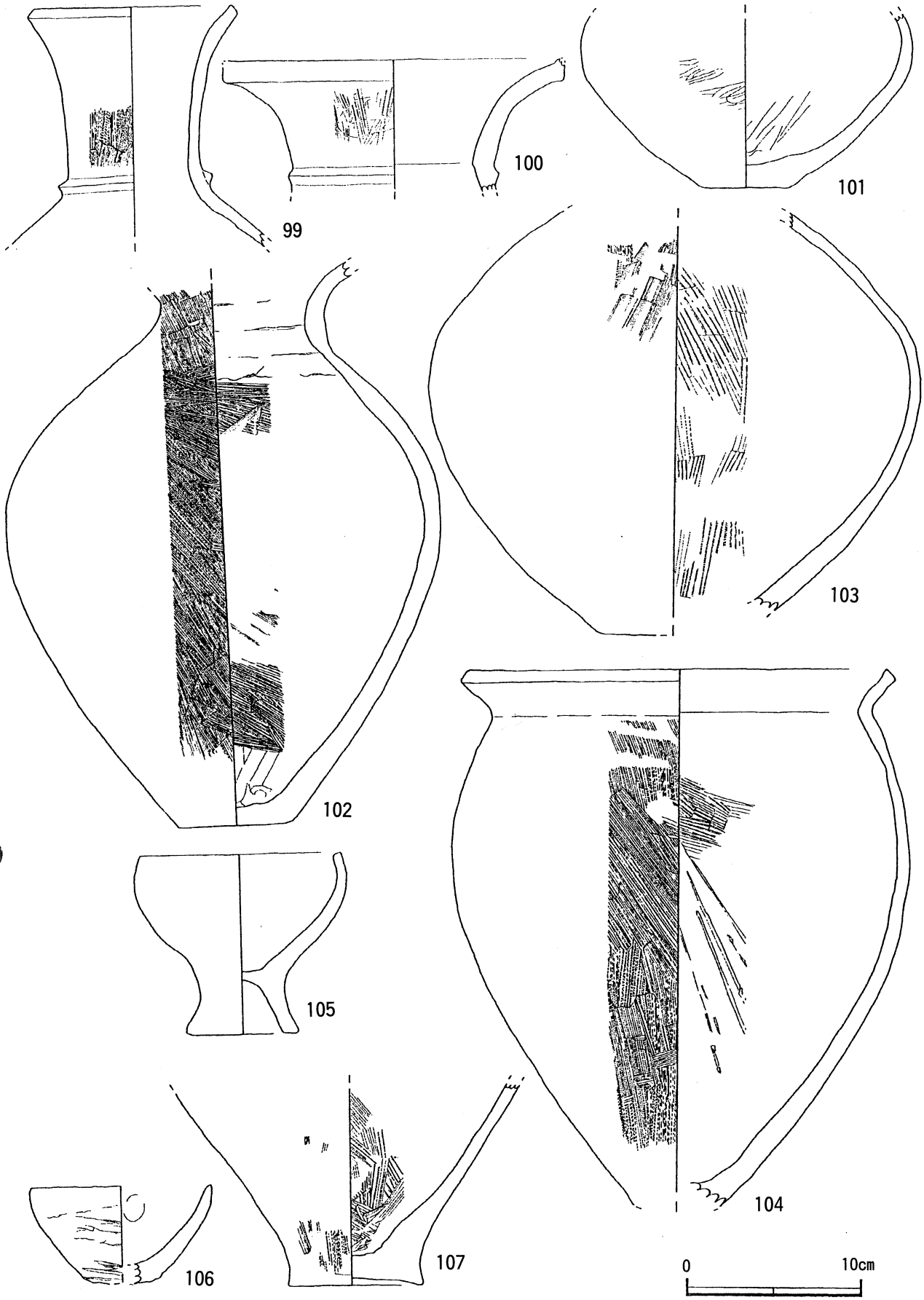
第15図　3・4号住居出土土器実測図



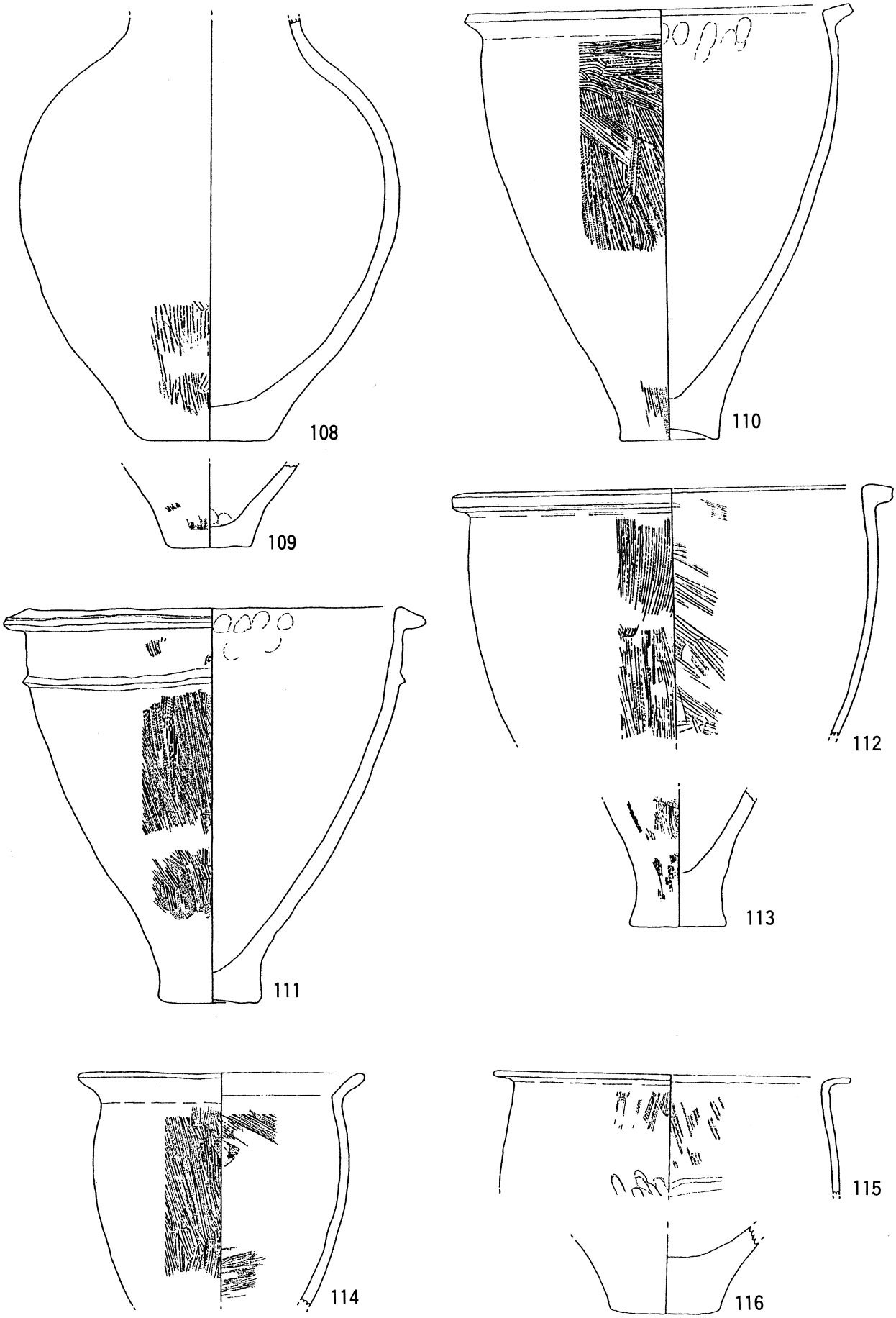
第16図　4号住居出土土器実測図



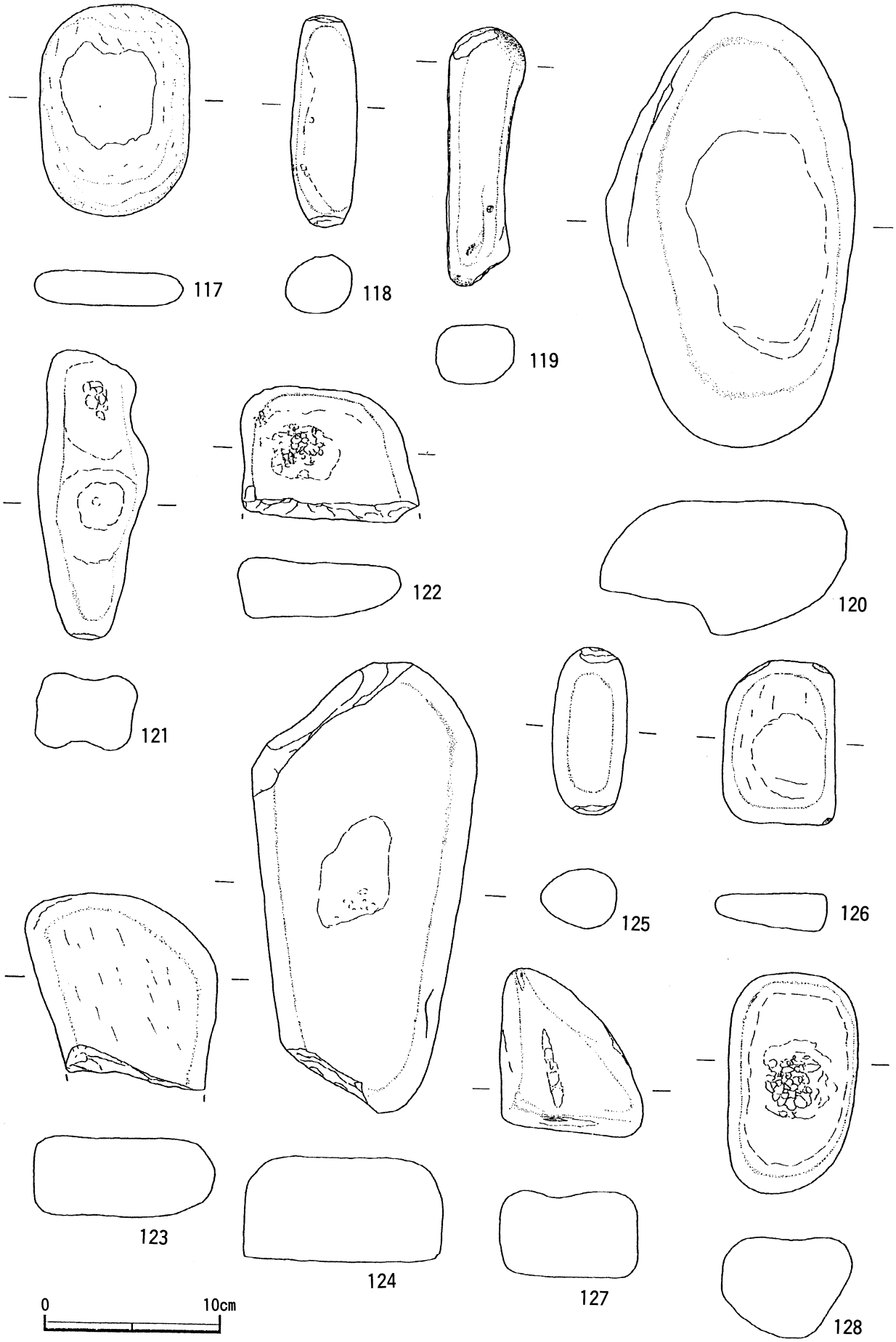
第17図　5号住居出土土器実測図



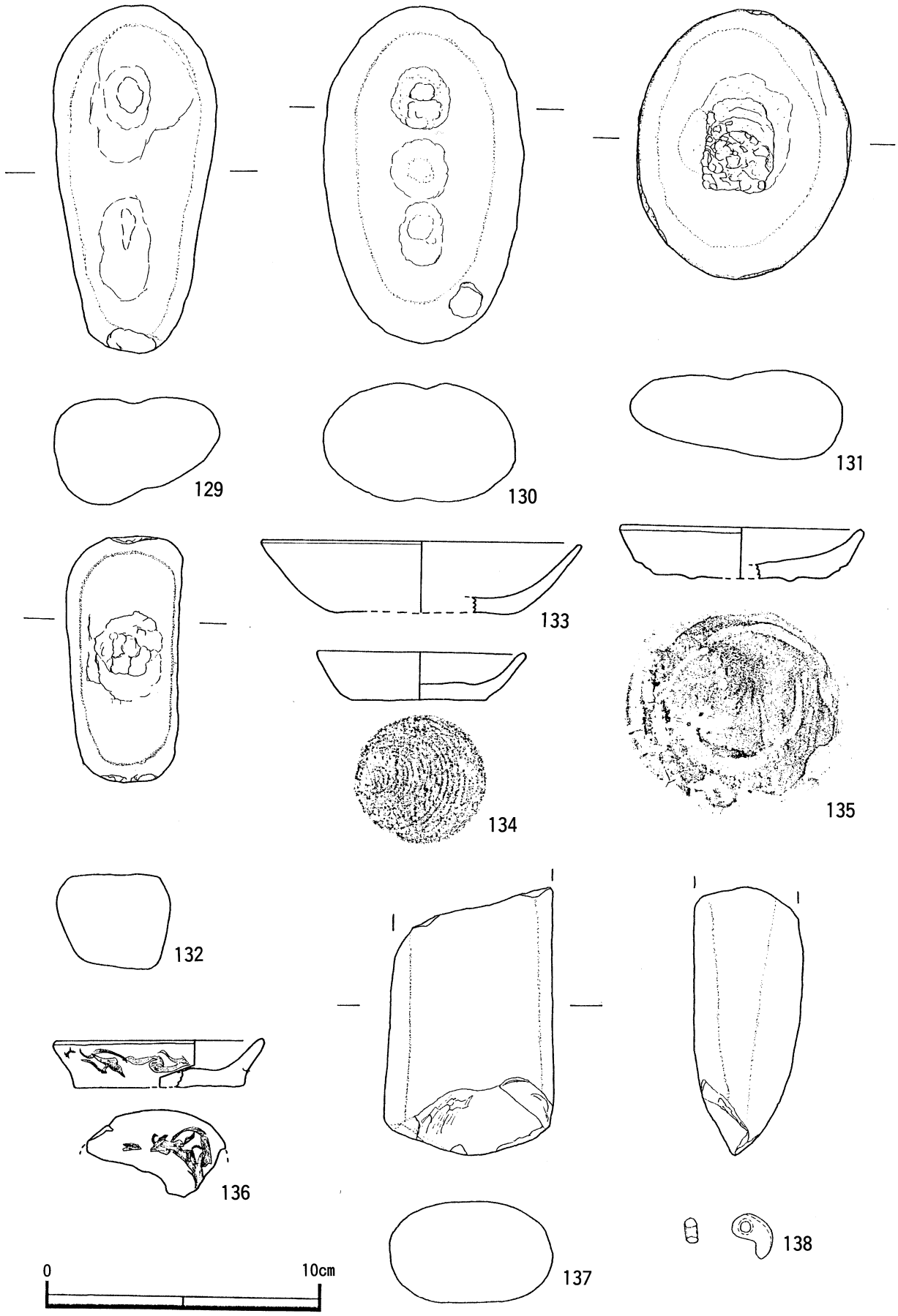
第18図　5号住居出土土器実測図



第19図　出土土器実測図



第20図　住居出土石器実測図



第21図　出土遺物実測図

6．小　結

車坂第１遺跡の縄文時代早期について特徴として言えることは、１．土器・礫の出土量が少なく、遺跡北側、東側の出土がほとんど見られない点、２．押型文土器の出土率がかなり高い点である。

１については、本遺跡が丘陵の南側斜面近くに位置しているうえ、東側には車坂城という中世山城があったということから、旧地形は尾根筋が本遺跡を取り巻くように北側に延びた窪地的な場所であったためと思われる。言い換えれば宮崎学園都市遺跡群、車坂・山下遺跡群の中で最も東南端の遺跡ということである。

２については押型文土器の一時的な使用か、継続的な使用かが問題となるが限られた資料では判断できなかった。

弥生時代について見ると、逆Ｌ字状の口縁を持つ甕等から中期中葉頃に利用が始まると思われる。住居としては花弁型住居、方形住居の２通りがあり、方形住居は大きさが全て異なっており、それぞれの住居の関係が問題となる。

各住居出土の遺物を見ると甕の口縁形態から中期中葉と後期の前葉頃の２時期に比定され、２号・４号住居からは中期中葉の土器片が出土している点と、２号・４号は共に小型であること、１号・３号・５号住居からは後期前半の土器が出土し、大型であることが留意される。土器片の出土のみで判断するのは危険だが、２号住居と３号住居が近接する事も考え合わせると、この住居間の大小の差は時期差に因るものと思われ、中期後葉から後期にかけて住居が大型化すると考えられる。また、住居間の規模の差が時期差でない場合は集落における住居規模の差が持つ意味が今後の課題となる。

いずれにしても、円形の花弁型住居と方形の住居が共存していることに変わり無い訳であり、間仕切を持つ住居と持たない住居の性格の差の解明も今後の課題である。

その他の時代については、遺構に伴わない遺物であるが、ヘラ切りや糸切り底の坏が出土し、中でも記載内容は判別出来ないが墨書された糸切り底の坏は、中世山城の車坂城との関係を想起させる資料と思われる。

余談ではあるが、本遺跡の調査は９月の一箇月に３週連続して台風に襲われ、その度毎に泥に埋没した遺構を作業員の皆様に掘り上げて頂いたのだが、その際に弥生時代や古墳時代等も台風が来ると家が埋まって使えなくなるだろうから、家の周囲にはかなりの盛土や溝切りが必要で有ったろうと感じ、何故それが検出出来ないか不思議に思った次第である。

第１表　土器観察表

番号	部位	調整	文様	色調	胎土	備考
1	胴部	内面 条痕	－	黄褐色	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 斜め条痕	－	〃		
2	口縁部	内面 ナデ	－	明褐色	4mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	〃		
3	口縁部	内面 斜め条痕	－	黄褐色	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	櫛状施文具による綾杉文	〃		
4	口縁部	内面 ヨコナデ	－	黄褐色	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	櫛状施文具による綾杉文	明褐色		
5	口縁部	内面 ヨコナデ	－	暗褐色	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	櫛状施文具による綾杉文	〃		
6	口縁部	内面 ナデ	－	暗褐色	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による流水文	〃		
7	口縁部	内面 ナデ	－	暗黄褐色	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による流水文	〃		
8	胴部	内面 ナデ	－	暗黄褐色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による流水文	〃		
9	胴部	内面 ナデ	－	暗黄橙色	0.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による流水文	暗橙色		
10	胴部	内面 ナデ	－	明黄褐色	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による格子文	橙色		
11	口縁部	内面 ヨコナデ	－	明褐色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	貝殻腹縁の刺突：綾杉文	暗褐色		
12	胴部	内面 ナデ	－	暗褐色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁の押引状	明赤褐色		
13	口縁部	内面 ナデ	－	暗褐色	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による綾杉文	〃		
14	口縁部	内面 ナデ	－	褐色	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による綾杉文	暗赤褐色		
15	胴部	内面 ナデ	－	暗赤褐色	4mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による綾杉文	〃		
16	口縁部	内面 ナデ	－	暗黄橙色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	楕円押型	〃		
17	口縁部	内面 ヨコナデ	楕円押型	褐色	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	〃	〃		
18	口縁部	内面 ナデ	楕円押型	黄褐色	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	楕円押型・口唇部に刻み	明赤褐色		
19	口縁部	内面 ナデ	楕円押型	褐色	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	〃	〃		
20	胴部	内面 ナデ	－	オリーブ褐色	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	楕円押型	赤褐色		
21	底部	内面 ナデ	－	黄褐色	2mm以下の砂粒を含む	網代底
		外面 〃	楕円押型	暗褐色		
22	口縁部	内面 ナデ	山形押型・口唇部に刻み	暗黄橙色	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	〃		
23	口縁部	内面 ヨコナデ	－	橙色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	山形押型	明黄褐色		
24	口縁部	内面 ナデ	山形押型	黄褐色	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 ヨコナデ	〃	〃		
25	胴部	内面 ナデ	－	暗黄橙色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	〃		
26	胴部	内面 ナデ	－	暗褐色	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	暗赤褐色		
27	口縁部	内面 ナデ	－	暗褐色	0.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	口唇部に刻み	〃		

番号	器種	調整	色調	胎土	備考
57	壷	内面 ナデ	褐色	2mm以下の砂粒を含む	口縁端に沈線
		外面 〃	淡褐色		
58	甕	内面 口縁部ナデ	褐色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ハケ	暗黄褐色		
59	甕	内面 ナデ	暗橙色	2mm以下の砂粒を含む	刻目貼付突帯
		外面 ハケ後ナデ	〃		
60	甕	内面 ハケ・ナデ	暗黄橙色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	〃		
61	高坏	内面 ナデ	暗橙色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	〃		
62	蓋	内面 ナデ	暗黄橙色	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	明黄褐色		
63	甕	内面 ナデ	灰褐色	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 ハケ後ナデ	暗黄橙色		
64	器台	内面 ナデ	灰褐色	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	黄灰褐色		
65	甕	内面 ハケ、口縁部ナデ	淡褐色	5mm以下の砂粒を含む	肩部に沈線
		外面 〃	〃		
66	甕(壷)	内面 ナデ	暗黄褐色	2mm以下の砂粒を含む	胴部に貼付突帯
		外面 〃	〃		
67	甕	内面 ナデ	灰褐色	2mm以下の砂粒を含む	貼付突帯3本
		外面 〃	暗黄橙色		
68	甕	内面 ナデ	明赤褐色	3mm以下の砂粒を含む	刻目貼付突帯
		外面 〃	〃		
69	甕	内面 丁寧なナデ	赤色	2mm以下の砂粒を含む	丹塗りか
		外面 荒いミガキ	暗赤色		
70	甕	内面 ナデ	暗黄橙色	3mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 ハケ、ナデ	〃		
71	甕	内面 ハケ、口縁部ナデ	淡褐色	3mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	〃		
72	甕	内面 ナデ	暗黄橙色	2mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 ハケ、ナデ	〃		
73	甕	内面 ナデ	褐色	3mm以下の砂粒を含む	全面スス付着
		外面 ハケ、ナデ	〃		
74	高坏	内面 ナデ	暗褐色	4mm以下の砂粒を多く含む	指頭痕有
		外面 〃	茶褐色		
75	壷	内面 ナデ	灰黒色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ハケ、ナデ	茶褐色		
76	壷	内面 ナデ	橙色	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	明赤褐色		
77	壷	内面 ハケ、ナデ	暗黄褐色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 不明	暗赤褐色		
78	壷	内面 ナデ	黄橙色	2mm以下の砂粒を多く含む	丹塗りか
		外面 ハケ、ナデ	暗赤色		
79	壷	内面 ナデ	暗褐色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ハケ、ナデ	〃		
80	甕	内面 ナデ	褐色	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 ハケ、口縁部ナデ	〃		
81	甕	内面 ハケ、口縁部ナデ	褐色	4mm以下の砂粒を含む	やや上底
		外面 〃	〃		
82	甕	内面 ナデ	淡褐色	4mm以下の砂粒を含む	やや上底
		外面 ハケ、口縁部ナデ	褐色		
83	甕	内面 ナデ	黄褐色	2mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	黒褐色		
84	甕	内面 ナデ	黄褐色	3mm以下の砂粒を含む	肩部に沈線
		外面 〃	赤褐色		

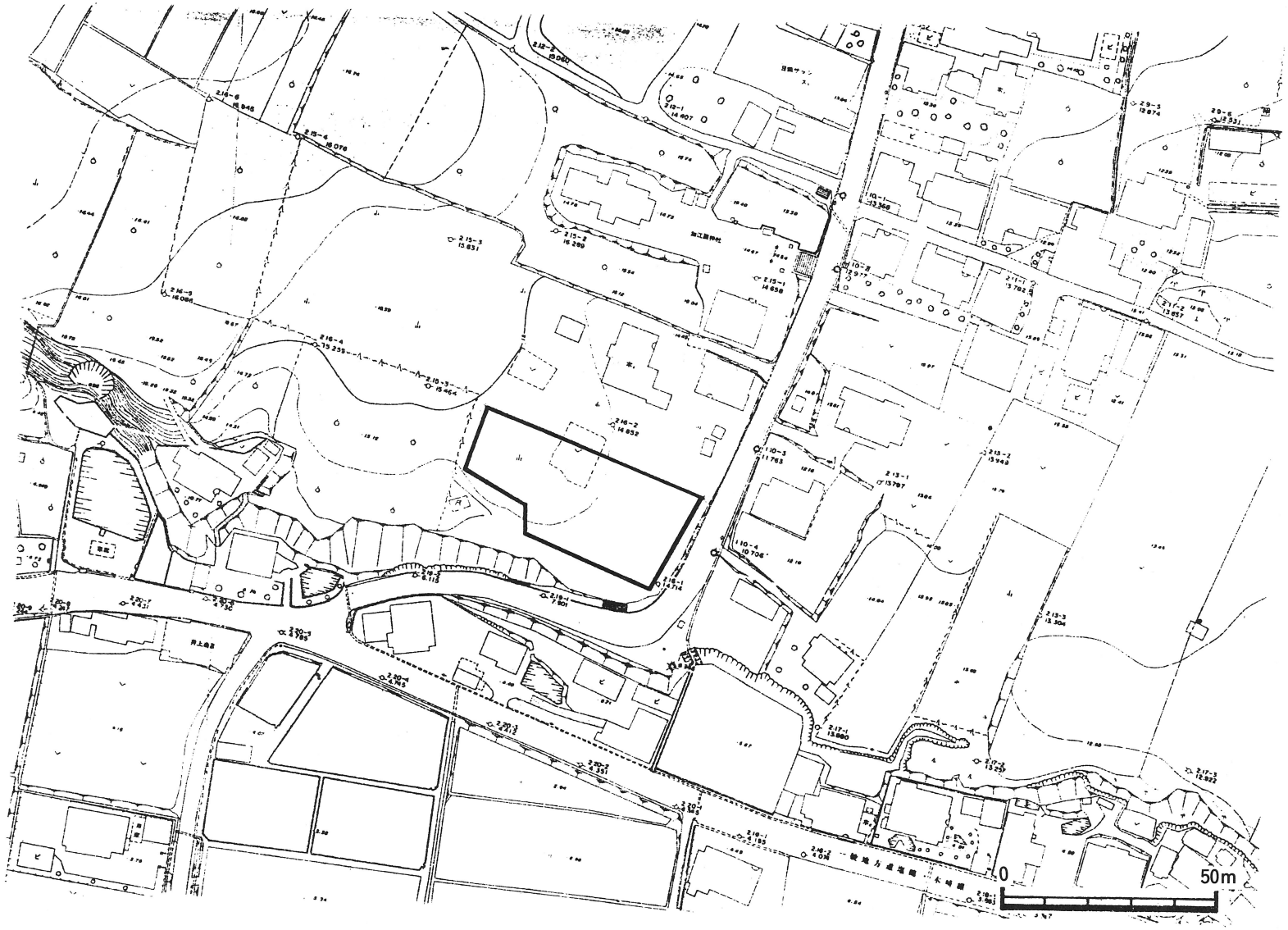
番号	器種	調整	色調	胎土	備考
85	甕	内面 ハケ、口縁部ナデ 外面 ナデ	暗橙色 黄橙色	2mm以下の砂粒を含む	貼付突帯4本
86	埦	内面 ナデ 外面 〃	暗赤褐色 〃	4mm以下の砂粒を含む	
87	高坏	内面 ナデ 外面 ナデ、研磨	明赤褐色 〃	4mm以下の砂粒を含む	脚部に沈線、刻み
88	高坏	内面 ナデ 外面 〃	暗橙色 〃	2mm以下の砂粒を含む	
89	壷	内面 ナデ 外面 〃	暗橙色 淡黒色	5mm以下の砂粒を含む	
90	壷	内面 ナデ 外面 〃	淡黒色 暗橙色	3mm以下の砂粒を含む	
91	壷	内面 ナデ 外面 〃	暗黄橙色 暗黄橙色	3mm以下の砂粒を含む	
92	甕	内面 ハケ 外面 ハケ、底部ナデ	褐色 黄橙色	3mm以下の砂粒を含む	
93	甕	内面 ナデ 外面 〃	暗褐色 〃	3mm以下の砂粒を含む	
94	甕	内面 ナデ 外面 〃	暗橙色 赤褐色	2mm以下の砂粒を含む	
95	甕	内面 ナデ 外面 〃	暗橙色 黄橙色	2mm以下の砂粒を含む	
96	甕	内面 ハケ、口縁部ナデ 外面 〃	褐色 〃	2mm以下の砂粒を含む	
97	甕	内面 ハケ 外面 ハケ、口縁部ナデ	褐色 暗褐色	4mm以下の砂粒を含む	山形沈線 スス付着
98	甕	内面 ナデ 外面 ハケ、口縁部ナデ	茶褐色 褐色	3mm以下の砂粒を含む	スス付着
99	壷	内面 ナデ 外面 ハケ、丁寧なナデ	暗橙色 〃	2mm以下の砂粒を含む	頸部突帯
100	壷	内面 ナデ 外面 〃	暗橙色 〃	4mm以下の砂粒を含む	頸部突帯
101	壷	内面 ナデ 外面 研磨	淡黒色 明黄褐色	2mm以下の砂粒を含む	
102	壷	内面 ハケ、ナデ 外面 ハケ	褐色 〃	2mm以下の砂粒を含む	スス付着
103	壷	内面 ハケ、ナデ 外面 〃	灰褐色 褐色	4mm以下の砂粒を含む	スス付着
104	甕	内面 ハケ、口縁部ナデ 外面 〃	褐色 〃	3mm以下の砂粒を含む	スス付着
105	台付鉢	内面 ナデ 外面 〃	暗黄褐色 〃	3mm以下の砂粒を含む	
106	埦	内面 ナデ 外面 〃	暗黄橙色 〃	3mm以下の砂粒を含む	
107	甕	内面 ハケ 外面 〃	暗橙色 赤褐色	3mm以下の砂粒を含む	
108	壷	内面 ナデ 外面 ハケ	茶褐色 〃	2mm以下の砂粒を含む	
109	壷	内面 ナデ 外面 ハケ、ナデ	暗黄橙色 暗褐色	2mm以下の砂粒を含む	
110	甕	内面 ナデ 外面 ハケ、口縁部ナデ	赤褐色 〃	3mm以下の砂粒を含む	
111	甕	内面 ナデ 外面 ハケ、口縁部ナデ	褐色 〃	4mm以下の砂粒を含む	貼付突帯
112	甕	内面 ハケ、口縁部ナデ 外面 〃	茶褐色 〃	2mm以下の砂粒を含む	スス付着

番号	器　種	調　　整	色　調	胎　　土	備　　考
113	甕	内面 不明	灰　褐　色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ハケ、ナデ	暗 赤 褐 色		
114	甕	内面 ハケ、ナデ、口縁部ナデ	暗 赤 褐 色	3mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面　　〃	暗　褐　色		
115	甕	内面 ハケ、ナデ	暗　橙　色	2mm以下の砂粒を含む	
		外面　　〃	暗　褐　色		
116	壷	内面 不明	赤　橙　色	1mm以下の砂粒を多量に含む	スス付着
		外面 丁寧なナデ	赤　褐　色		
133	坏	内面 ナデ	暗　橙　色	1mm以下の砂粒を含む	
		外面　〃	〃		
134	坏	内面 ナデ	橙　　色	2mm以下の砂粒を含む	糸切底
		外面　〃	〃		
135	坏	内面 ナデ	橙　　色	1mm以下の砂粒を含む	ヘラ切底
		外面　〃	〃		
136	坏	内面 ナデ	暗　橙　色	0.5mm以下の砂粒を含む	ヘラ切底 墨書有
		外面　〃	〃		

第２表　石器観察表

番号	器　種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重　量（g）	石　　材	備　　考
28	石　鏃	2.4	1.5+α	0.35	0.97	黒曜石	
29	石　鏃	1.55+α	1.55	0.35	0.57	黒曜石	
30	石　鏃	2.7	1.2	0.5	1.25	チャート	
31	石　鏃	1.8+α	1.85+α	0.4	1.15	チャート	
32	石　鏃	1.5	1.3	0.4	0.52	頁岩	
33	石　鏃	1.9+α	1.6	0.45	0.86	チャート	
34	石　鏃	1.9	1.7	0.45	0.91	チャート	
35	石　鏃	1.65	1.5	0.4	0.77	チャート	
36	石　鏃	1.75	1.65+α	0.35	0.52	チャート	
37	石　鏃	1.8+α	1.45+α	0.3	0.46	チャート	
38	石　鏃	2.05+α	1.2	0.2	0.44	チャート	
39	石　鏃	2.2+α	2.05	0.45	1.45	チャート	
40	石　鏃	3.9	2.55	0.3	2.58	チャート	
41	石　鏃	1.7+α	2.1	0.4	1.06	チャート	
42	石　鏃	1.7+α	0.8+α	0.3	0.47	黒曜石	
43	石　鏃	1.95+α	1.8+α	0.35	0.94	チャート	
44	石　鏃	2.4+α	1.55+α	0.45	1.11	チャート	
45	石　鏃	1.55+α	1.65+α	0.45	0.75	黒曜石	
46	石　鏃	3.0	1.6+α	0.35	1.29	チャート	
47	石　鏃	2.7	1.8	0.35	1.26	チャート	
48	石　鏃	2.0	1.7	0.3	0.66	チャート	
49	石　鏃	1.7	1.65	0.4	0.75	チャート	
50	石　鏃	1.25	1.25	0.2	0.2	黒曜石	
51	石　鏃	1.45	1.5	0.25	0.34	黒曜石	
52	石　鏃	2.95	1.45	0.4	1.41	チャート	
53	石　鏃	1.85	1.7	0.2	0.78	頁岩	
54	石　鏃	2.75+α	1.8	0.6	1.83	頁岩	槍先か
55	石　鏃	2.5	1.9	0.4	1.87	チャート	

番号	器　種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重　量（g）	石　　材	備　　考
56	石 鏃	2.85	1.8+α	0.6	2.89	チャート	
117	磨 石	11.9	8.4	1.95	330		
118	敲 石	12.0	3.7	3.3	200	砂岩	
119	敲 石	14.7	4.6	3.4	342	砂岩	
120	台 石	24.6	14.1	7.6		砂岩	
121	凹 石	16.3	5.8	4.3	555	砂岩	敲石兼用
122	台 石	7.5+α	9.4	3.5	350	砂岩	
123	台 石	11.1	10.3	4.5	868	砂岩	
124	台 石	25.5	11.5	6.1		砂岩	
125	敲 石	9.5	4.4	3.4	212		
126	磨 石	9.3	6.3	2.1	189		
127	凹 石	9.4	8.0	4.9	575	砂岩	
128	凹 石	12.4	7.4	5.7	839	砂岩	
129	敲 石	12.8	6.0	3.9	370	砂岩	凹石兼用
130	凹 石	12.4	7.0	4.3	530	砂岩	
131	凹 石	9.9	7.8	3.3	315	砂岩	敲石兼用
132	凹 石	10.5	4.2	3.5	210	砂岩	敲石兼用
137	石 斧	9.8	6.0	3.7	360		
138	勾 玉	1.7	0.9	4.6	0.15	ヒスイ	



第22図　車坂第２遺跡位置図

第３章　車坂第２遺跡の調査

１．調査の概要（第22図）

本遺跡は、車坂第１遺跡の東に隣接するが、西側を道路に切られ北側をアパートと民家に囲まれた狭い範囲である。また、地元の方の話では当遺跡地は、江戸時代から明治時代までお寺が在ったと云う事であり、その名残が南側斜面に見られ、廻国供養塔や墓石、小さな祠の中に木彫りの仏像が祀られており往時を偲ばせるものがあった。

調査は排土の搬出が不可能であったため調査区を２分割し東側を１区、西側を２区に設定した。更に、縄文時代の調査は北側に３グリッド、南側に２グリッドを設定した。東側の１区には試掘調査のグリッドが残っていたが、遺構を巧く外していた。

土層は南傾斜をしているために、遺跡南側の削平が進み、遺跡西側では赤ホヤ層まで耕作が入っており全体に遺構の残りは良くなかった。

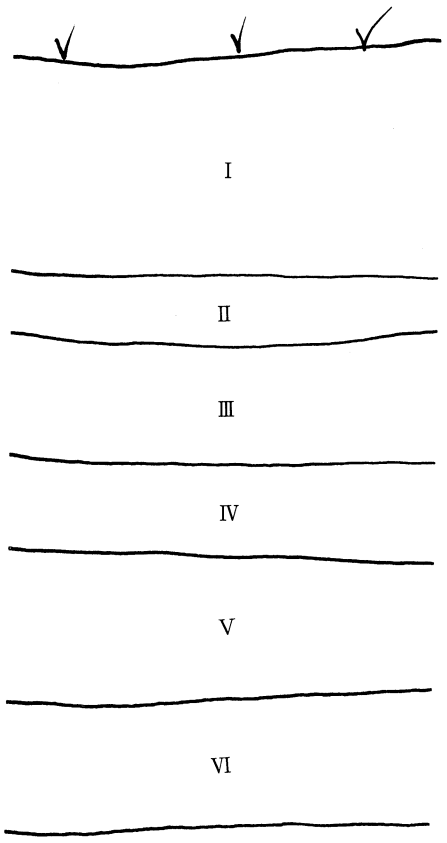
調査の結果、近世以降のお寺に係わると思われる溝状遺構、不明ＰＩＴ群、弥生時代の住居を４軒、縄文時代早期の土器、集石等を検出した。

２．層　位（第23図）

本遺跡の基本層序は、Ⅰ層　表土（耕作土）．Ⅱ層　黒色土．Ⅲ層　赤ホヤ層．Ⅳ層　黄褐色ローム層．Ⅴ層　黒褐色ローム層．Ⅵ層　黄白色ローム層である。

遺跡西側では赤ホヤ層と黒色土が耕作のため撹乱しているうえ、最も西側では黄褐色ローム層まで削平されていた。

遺跡南側では赤ホヤ層は検出されず、弥生時代の竪穴住居が表土直下の黒褐色ローム層で検出された。



第23図　土層図

3．縄文時代の遺物と遺構

1）遺　構

遺構としては集石が2基検出された。1基は石の密集度が弱く掘り込みを持たないもので、もう1基は石が密集し掘り込みを持ち、掘り込み底部に黒色土が見られるものである。

2）遺　物（第24図）

出土した縄文時代の遺物は土器と石器であり、調査区全面から検出された。

A．土　器（第25・26図）

出土した土器は全て縄文時代早期の土器であり、調整、文様、器形等から次のように分類される。

1類　条痕文土器類

条痕による調整を行うもので、口縁等の調整は不明である。　1～4

2類　ヘラ状施文具による文様を施すもの。

横長の平行文　5、6

3類　貝殻腹縁を口縁に強く刺突するもの。

口唇部に刻み、口縁部に綾杉状の刺突を施す　8

山形口縁で貝殻腹縁刺突を1列施した下に沈線を入れるもの　13

4類　下剝峰式土器類　貝殻腹縁の刺突により文様を施すもの。

口縁端に横位の刺突、胴部に綾杉状の刺突を施すもの　9～12

横位2列の刺突を施すもの　14～16

5類　吉田式土器類　貝殻腹縁で押引を施すもの。

押引が明瞭なもの　17

押引が浅目のもの　18

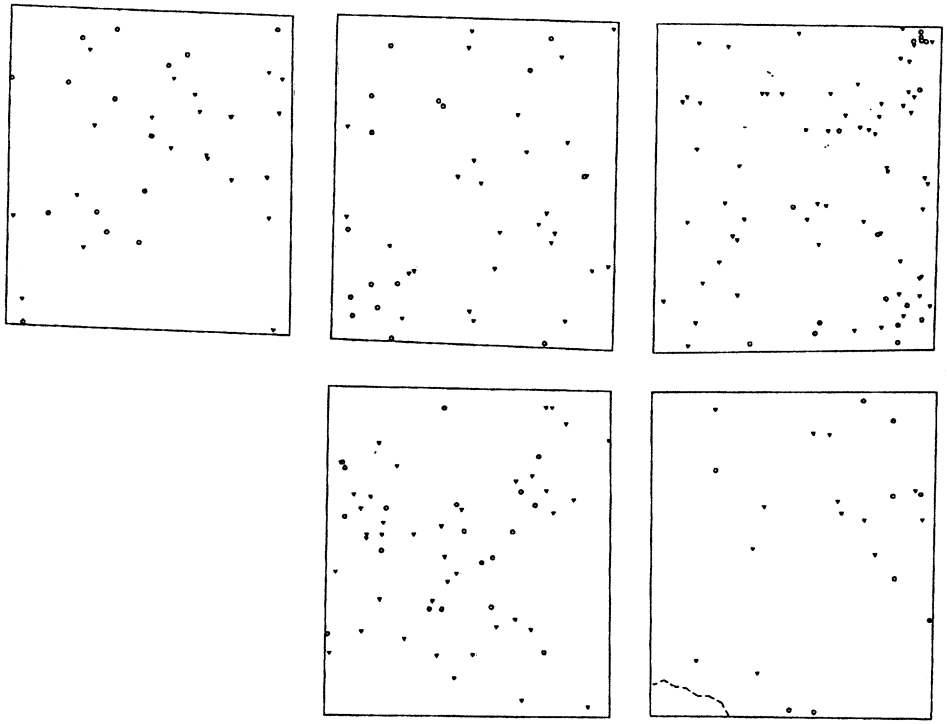
6類　手向山式土器類

凹線文を施すもの　7

7類　平栫式土器類

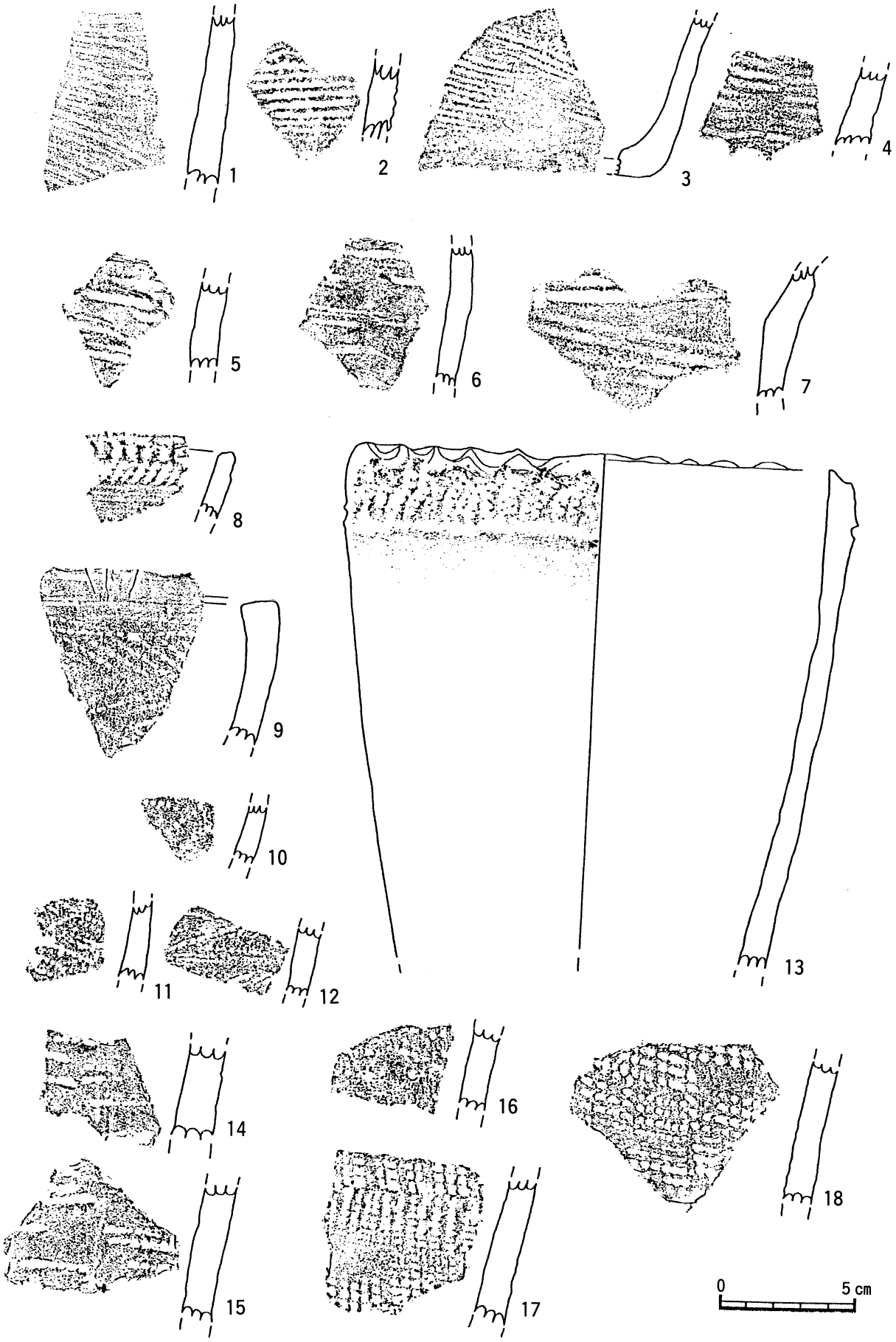
凹線状の沈線と列点文を施すもの　19、20

凹線状の沈線と撚糸文を施すもの　21～23

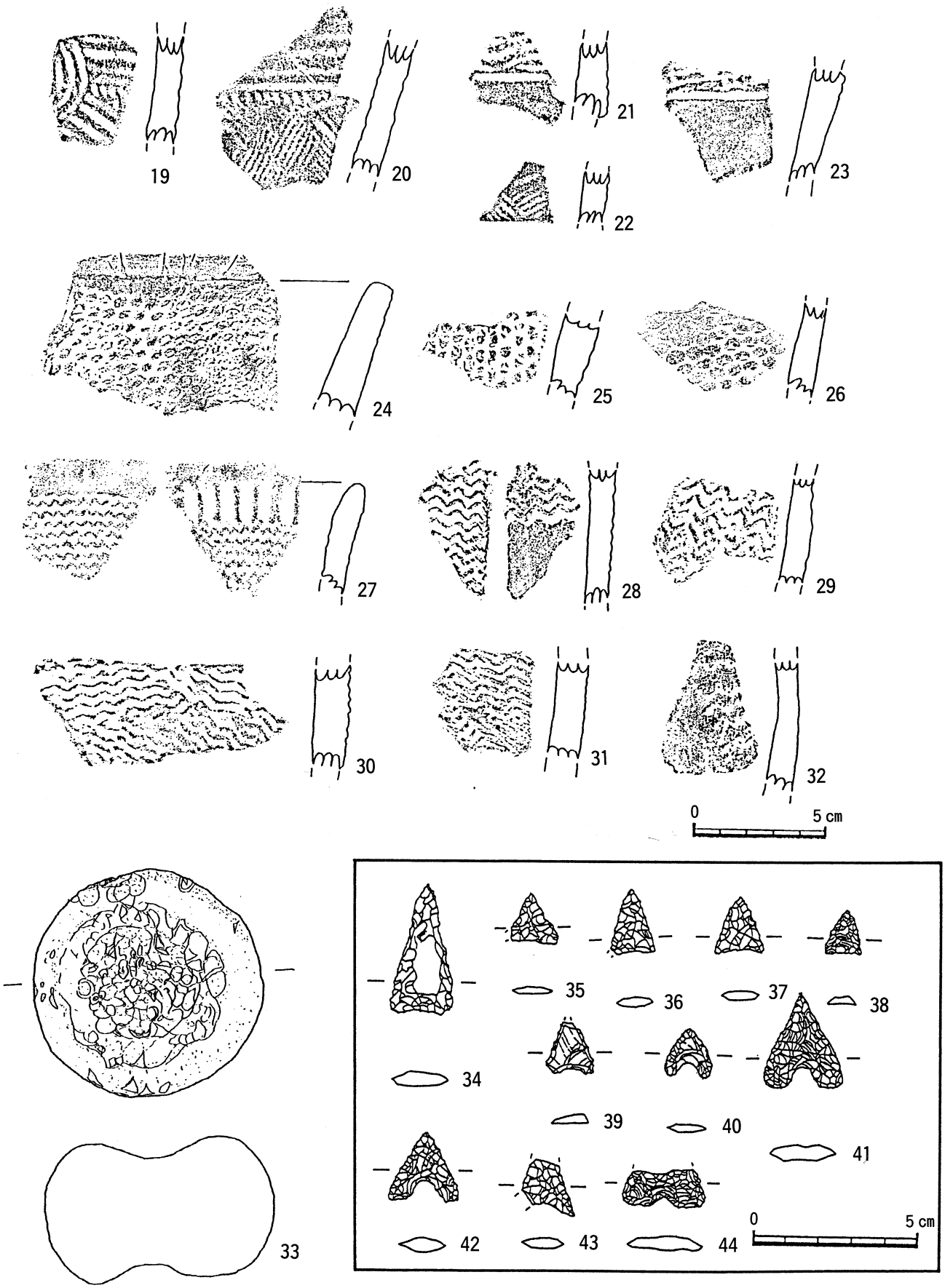


○土器
△石器

第24図　出土状況図



第25図　出土土器実測図



第26図　出土遺物実測図

8類　押型文土器

a　楕円押型　外面のみに施文し口縁端から内面はナデである　24、25

楕円形状の明瞭なものがある　26

b　山形押型　原体の形状により、山形が小さく鋭いもの　27、山形が丸みを帯びたもの　28、29、山形が帯状になるもの30、31の3種類に分けられる。また、外面口縁部下に無文帯を設けその下部に施文し、さらに、内面施文は、口唇部に竹管状の押圧文を施しその下部に施文するものがある。

9類　その他の土器

32は貝殻腹縁文を平行に施文するものである。

B　石　器（第26図）

凹石、石鏃が出土している。

33は凹石で両面をかなり使用し、敲石としても使用している。

石鏃は、平基式のもの　35～39、凹基式のもの　40～44が出土している。

比較すると平基式のものが小型で、凹基式のものは多様である。

4．弥生時代の遺構と遺物

1）遺　構（第27図）

弥生時代の遺構としては、竪穴住居が4軒検出された。

1号住居（第28図）

調査区南東の端で北側半分ほどを検出した。1辺約4m、壁の残存は約40cmで各辺の方向は方位と平行する。中央部に浅い黒変部が見られたが住居との関係は不明である。

柱穴は検出されなかった。

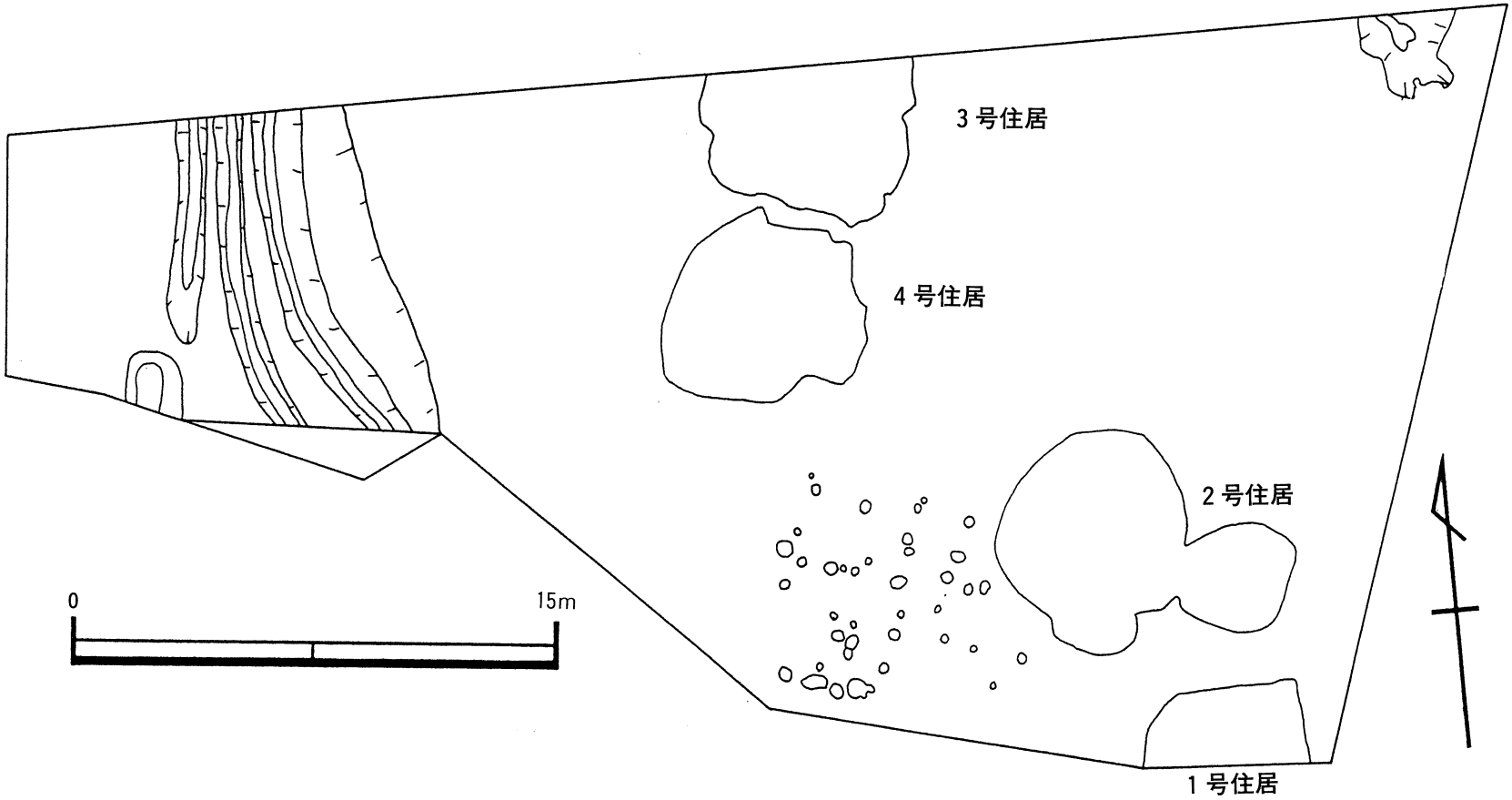
出土遺物は床面よりやや浮いた形で、壷・甕が出土している。

2号住居（第28図）

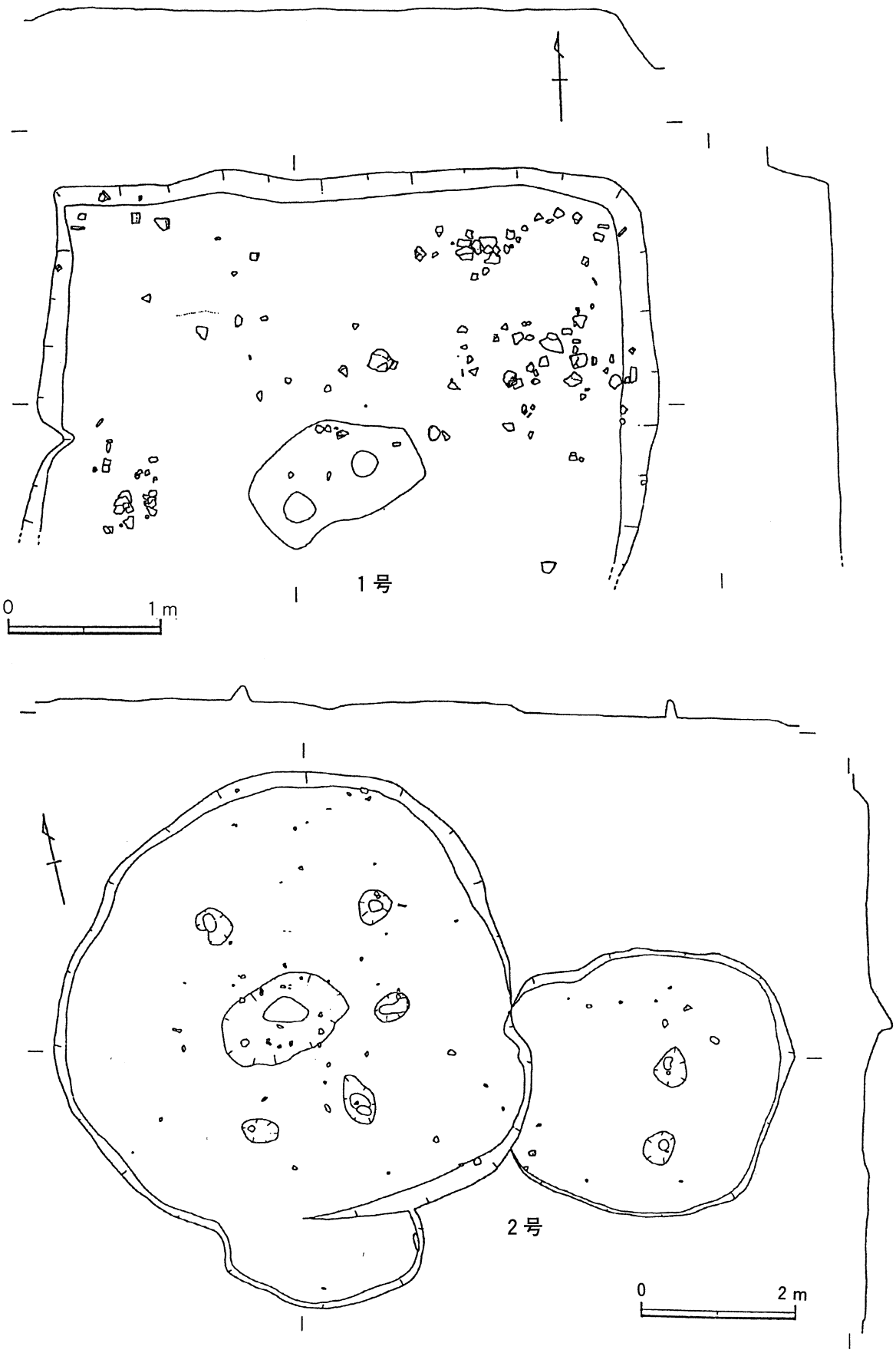
直径約6mの円形住居で、南部に南北1m、東西幅2.6mの間仕切状の突起が付く。また、南東部に径約3.5mの竪穴状遺構が切り合っている。両遺構共に壁の残存は20cm程しかなく先後関係はつかめなかった。

2号住居からは柱穴が5基と中央に1.5m、1.2m、0.3mの炉穴状のものが検出され、竪穴状遺構から柱穴が2基検出されている。2号住居と竪穴状遺構とは、セットとも考えられるが確証は得られなかった。

出土遺物は、細片化した土器と石斧片等である。

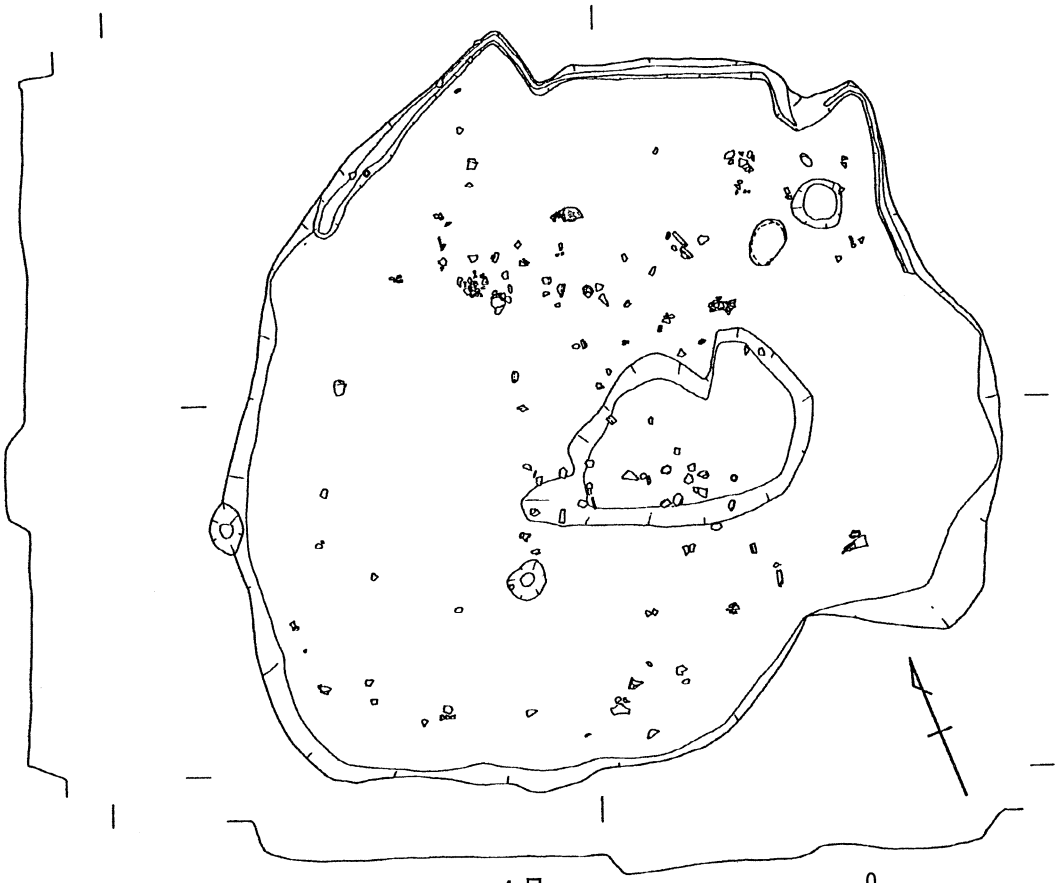


第27図　遺構配置図



第28図　1・2号住居実測図

3号



4号

0　2 m

第29図　3・4号住居実測図

3号住居（第29図）

調査区中央の北側で検出されたため、住居の北側3分の1は不明である。直径6.5m、壁の残存50cmの円状だが、南側を直線的にした円形と方形の折衷型の住居で、間仕切状の突起が3箇所に認められる。

柱穴は検出できなかった。

出土遺物は、壷、甕等が床面近くで検出された。

4号住居（第29図）

3号住居の南側約30cmに隣接する、径約6m、壁の残存30cmの不整な円形住居で、間仕切状の突起が3箇所に認められる。本住居の周辺は畑の耕作による撹乱が深くまで入っているため壁の形状はある程度変化しているが、南側が直線的で、北側が円形で間仕切を持つ形だと思われる。

中央やや東寄りに1.2m×2mの掘り込みが検出されたが、柱穴は検出されなかった。

遺物は、床面から浮いた形で壷、甕、鉢等が出土した。

2）遺　物

A　土　器（第30・31図）

弥生時代中期後葉から後期前半の土器である。

1号住居出土土器（第30図）

45～48は壷である。45は無頸壷で、口唇部及び3本の突帯に刻みを施す。46は肩部で3本の三角突帯を巡らすもの、47は胴部で幾何学文を沈線で施すもの、48も胴部で低い三角突帯を巡らすものである。

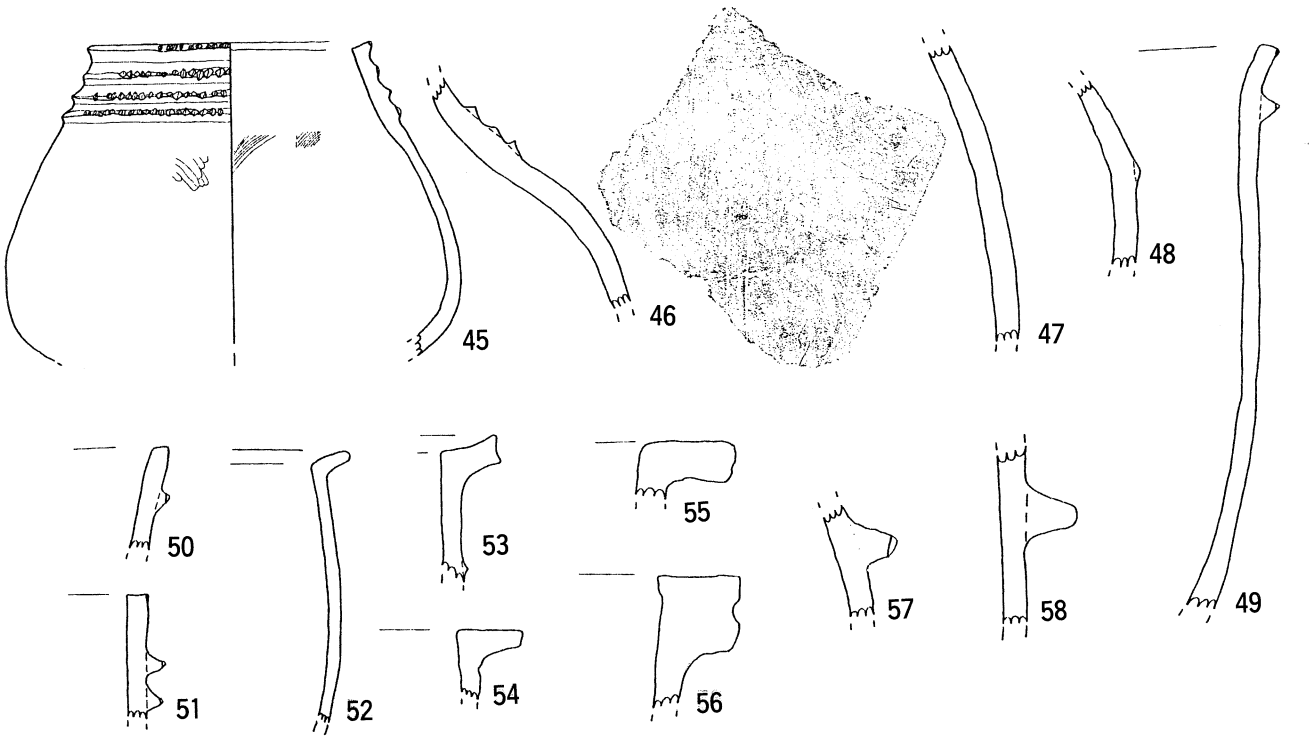
49～58は甕である。49～51は、僅かに外反する口縁で突帯を持つものである。49、51は口唇部と突帯に刻目を入れ、50は突帯に刻目を入れる。52はくの字外反するもので器壁は薄い。53～55は所謂逆L字状の口縁で、53はやや立ち上がるもの、54、55、56は平坦になるもので、56は分厚くした後に凹線を入れている。57、58は大型の突帯を持つもので、57は刻目を入れる。

3号住居出土土器

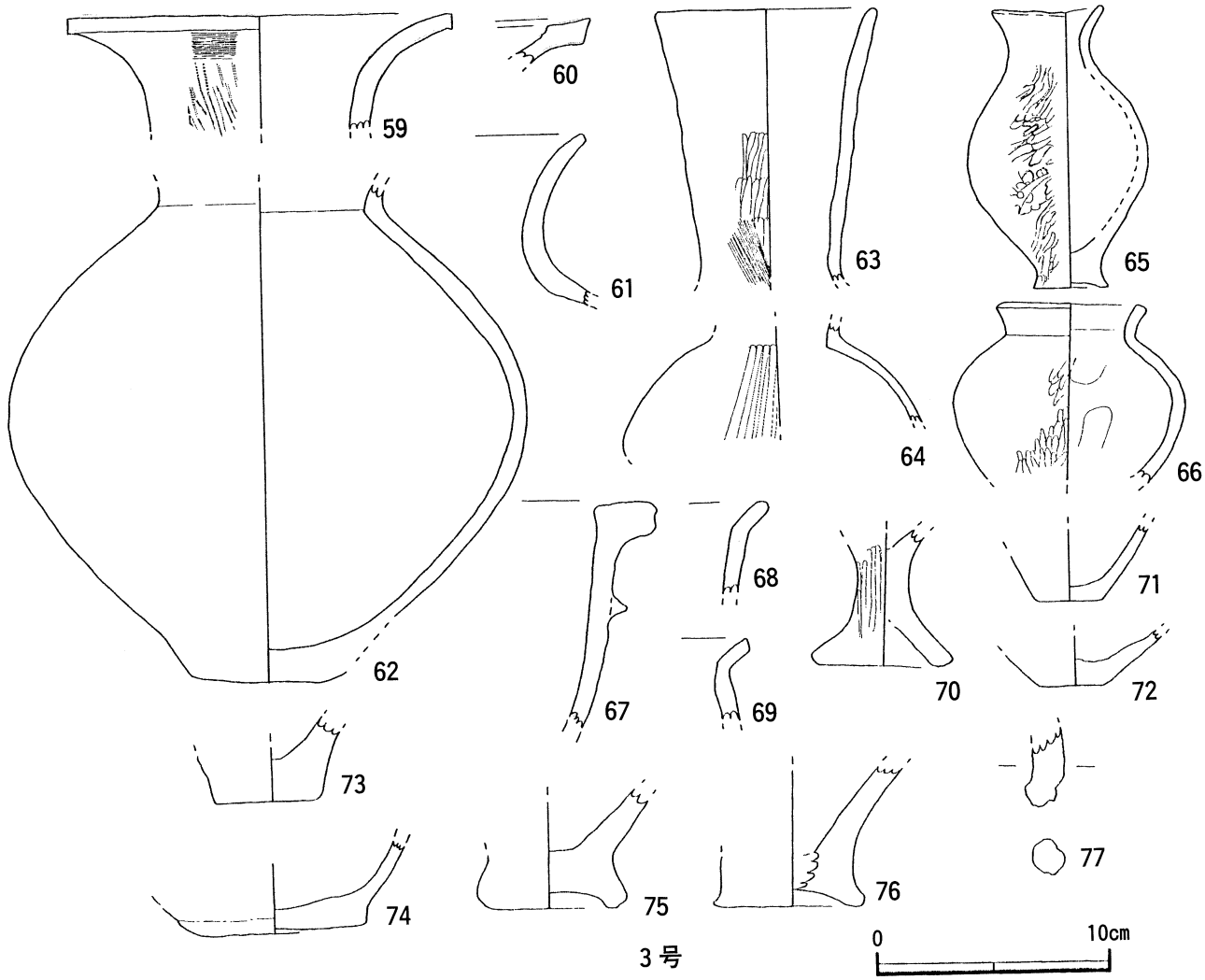
59～66は壷である。59、60はラッパ状に開く口縁で、61は大きく外反する口縁である。63、64は長頸壷である。65は口径4.5cm、高さ12cmの徳利形壷で丹塗りされている。66は口径6.5cm、胴部最大径10cmの短頸壷である。

67～69は甕の口縁で、67は逆L字状の口縁で三角突帯を持ち、68、69は短く外反するものである。

70は小型高坏の脚で丹塗りである。

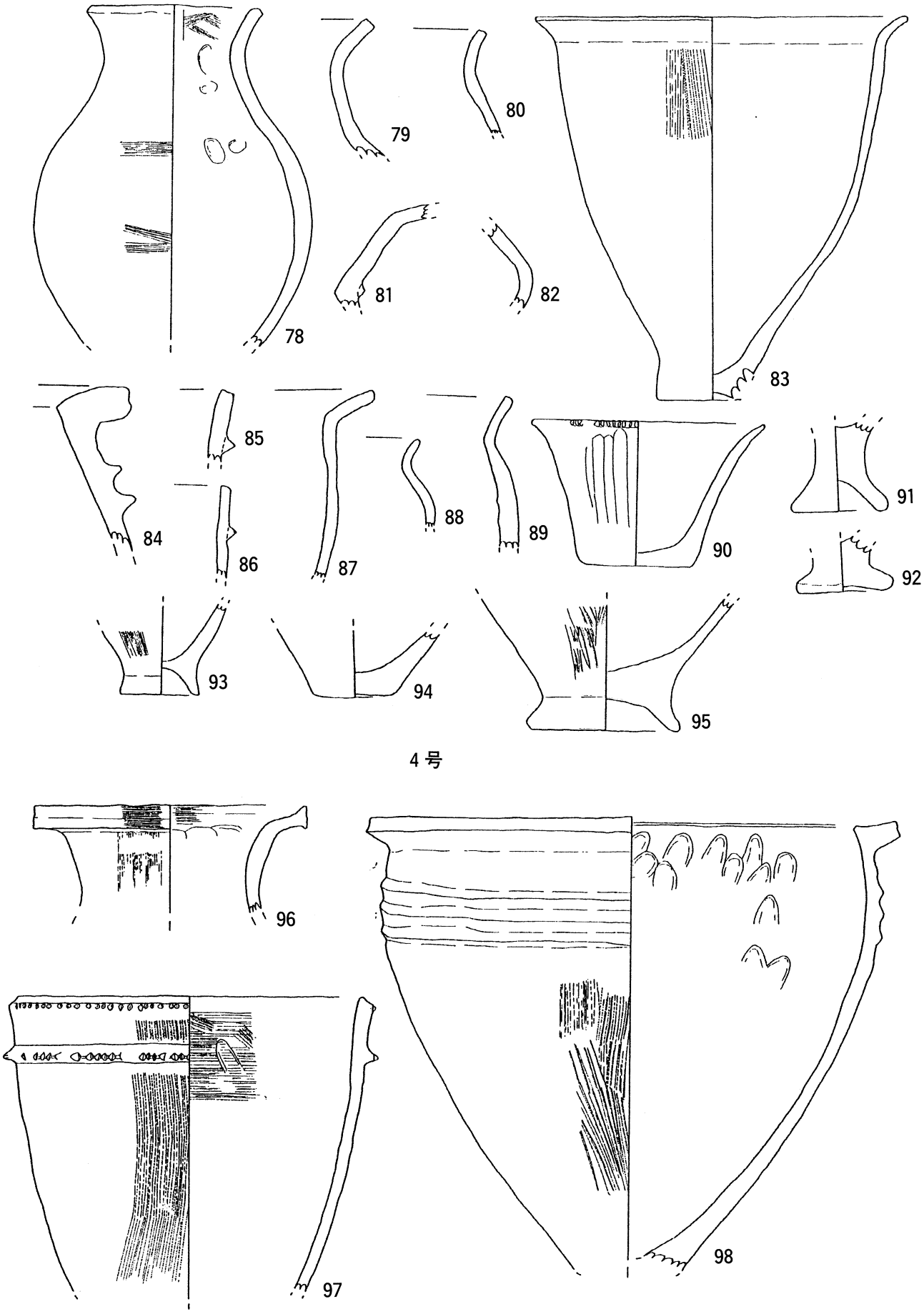


1号



3号

第30図　1・3号住居出土土器実測図



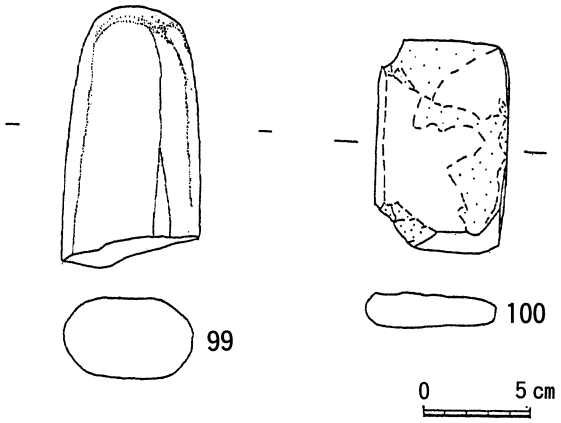
第31図　出土土器実測図

71～74は壷の底部で、71、72は小型壷の底部である。
75、76は甕の底部でやや上げ底である。
77は土製勾玉と思われるが欠損しているため確かではない。

４号住居出土土器（第31図）
78～82は壷で、78～80は緩やかに外反する口縁の長胴壷、81はラッパ状に開く口縁で、82は胴部である。
83～89は甕で、83、87～89はくの字外反する口縁、84は逆Ｌ字状の口縁で２本の三角突帯を持つもの、85、86は僅かに外に開く口縁と１本の突帯を持つものである。
90は口径13cm、高さ8cmの鉢の脚で口唇に刻目を持つ。
91、92は脚付き鉢の脚部と思われる。
93、94は壷の底部で93は上げ底である。
95は上げ底の甕の底部である。

Ｂ　石　器（第26･32図）
34は４号住居出土の打製石鏃で平基式である。
99は２号住居出土の太型磨製石斧で、刃部を欠損している。上面、下面共に平で摩耗しており、柄に差し込んだ痕跡と思われる。
100は偏平片刃石斧と思われるが、刃部の端を研磨して狭い面を作り出している点から、石庖丁への転用の途中とも考えられる。

５．その他の遺構と遺物（第31図）
１区の西南部にＰＩＴ群が検出されたが、その性格は判断できなかった。
２区の東に南北方向で西寄りに弧を描く溝状遺構が検出されたが茶碗等が出土する近世以降のものであった。
96～98はＰＩＴ出土遺物である。
96はラッパ状に開く口縁の端部を撫で上げるものである。
97は僅かに外に開く口縁と１本の突帯を持つもので、口唇部と突帯に刻目を施す。
98は逆Ｌ字状の口縁で、３本の低い三角突帯を持つものである。



第32図　２号住居出土石器実測図

6．小　結

車坂第２遺跡は狭い範囲の調査であったが、一定の成果が上げられた。

縄文時代では、出土遺物は全て早期のものであった。量的には少ないものであったが、貝殻腹縁文を口縁に綾杉状や連続刺突するもの、平栫式土器と車坂第１遺跡とは異なった土器群が出土し、桑ノ丸式等が出土していないこと、押型文土器が共に出土した点が注目され、台地上での土器分布の差により利用区域が追える可能性が有ると思われる。

特に、南九州在地系と云われる土器に偏差が見られ、押型文土器が共通して見られることは重要であろう。つまり２通りのことが考えられ、一つはそれぞれの土器が異なった時代に使用された場合、もう一つは押型文土器は使用され続けているが在地系の土器は時期的に変化して行った場合であり、土器分布差を丘陵利用の場所の変化と捉えるものである。ただし、層位による時期把握が出来なかった点に問題が有ることは留意しておく必要がある。しかし、平栫式土器の出現期における両遺跡の差は、重要と思われる。

弥生時代については４軒の住居を検出したが、１号が方形の平面形であることを除いて他の３軒が円形を基本とした平面形であることが特徴である。

出土土器から、１号住居は弥生時代中期後葉、３号住居は後期前半、４号住居は中期末～後期初頭頃に比定されよう。また、１号住居が１辺約４ｍ、２、３、４号住居が直径６ｍとその規模に大きな隔たりがあることは重要であろう。この差が住居の単なる時期差であれば、円形の間仕切を持つ住居の採用の原因が問題であり、この２形式が併行するならば異なる平面形を使用する目的や意味合いが不明である。

さらに、車坂第１遺跡で検出された円形間仕切住居は直径９ｍと本遺跡で検出された円形間仕切住居が６ｍであることに比べるとはるかに大型のものであり、方形住居についても車坂第１遺跡のものは１辺６ｍであり、本遺跡の１号住居は１辺４ｍとやはり車坂第１遺跡の住居が大型であることは注目される。

これらのことは、同じ円形間仕切住居間での規模の差、同じ方形住居間での規模の差、平面形の相違の意味、居住立地場所と住居の平面形の関係等幅広い問題を抱えており、一概には云えない問題であり、今後の課題である。

最後に、一箇月強の調査期間の内３分の１近くは雨の中で作業して頂いた作業員の皆様に厚く感謝申し上げます。

第3表　縄文土器観察表

番号	部位	調整	文様	色調	胎土	備考
1	胴部	内面 貝殻条痕		明赤褐	5mm以下の砂粒を多く含む	スス付着
		外面 〃		暗黄褐		
2	胴部	内面 ナデ		暗黄橙	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 貝殻条痕		〃		
3	底部	内面 ナデ		橙	微細な砂粒を含む	
		外面 貝殻条痕		暗橙		
4	胴部	内面 ナデ		暗褐	3.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 貝殻条痕		暗橙		
5	胴部	内面 ヘラナデ		暗褐	0.6mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 ナデ	ヘラ状施文具による沈線	暗黄褐		
6	胴部	内面 ナデ		暗黄橙	微細な砂粒を含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による沈線	暗橙		
7	胴部	内面 ナデ		暗橙	微細な砂粒を含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による沈線	暗黄橙		
8	口縁部	内面 ヨコナデ	口唇部に刻目	暗黄橙	微細な砂粒を含む	
		外面 貝殻条痕	貝殻腹縁による綾杉文	暗橙		
9	口縁部	内面 ナデ		暗褐	0.2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による刺突	〃		
10	胴部	内面 ナデ		黒褐	0.2mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	暗黄褐		
11	胴部	内面 ナデ		黄褐	1mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による刺突	暗橙		
12	胴部	内面 ヘラナデ		暗黄橙	0.2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 ナデ	貝殻腹縁による刺突	暗黄褐		
13	口縁部から胴部	内面 貝殻条痕後ナデ	口唇部に貝の押圧	明赤褐	3mm以下の砂粒を多く含む	スス付着
		外面 貝殻条痕	貝殻腹縁による刺突・沈線	〃		
14	胴部	内面 ナデ		灰黄褐	微細な砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による刺突	暗橙		
15	胴部	内面 ヘラ磨き		暗黄褐	微細な砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による刺突	明赤褐		
16	胴部	内面 ナデ		暗黄褐	0.4mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	灰褐		
17	胴部	内面 ヘラナデ		暗褐	0.2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 ナデ	貝殻腹縁による刺突	暗赤褐		
18	胴部	内面 ヘラナデ		暗褐	砂粒を多く含む	
		外面 ナデ	貝殻腹縁による刺突	〃		
19	胴部	内面 －		黄橙	1.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 －	沈線、列点文	橙		
20	胴部	内面 ナデ		淡黄	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 －	沈線、列点文、撚糸	黄		
21	胴部	内面 ナデ		黄橙	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	沈線、撚糸	〃		
22	胴部	内面 ナデ		黄橙	1.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	撚糸、沈線	〃		
23	胴部	内面 ナデ	沈線、撚糸	暗黄橙	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による刺突	橙		
24	口縁部	内面 ヨコナデ		明赤褐	0.2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 －	楕円押型	暗褐		
25	胴部	内面 ナデ		明赤褐	2.5mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 －	楕円押型	暗褐		
26	胴部	内面 ナデ		褐	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 －	楕円押型	明赤褐		
27	口縁部	内面 ナデ	楕円押型、ヘラの押圧	明黄褐	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	楕円押型	黄褐		
28	胴部	内面 ナデ	楕円押型	暗褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	〃	〃		

番号	部位	調整	文様	色調	胎土	備考
29	胴部	内面 ヘラナデ		褐	0.2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ―	楕円押型	赤褐		
30	胴部	内面 ナデ		暗黄	6mm以下の砂粒を含む	
		外面 ―	楕円押型	橙		
31	胴部	内面 ナデ		暗灰黄	微細な砂粒を含む	
		外面 ―	楕円押型	暗黄橙		
32	胴部	内面 ナデ		黒	砂粒を含む	スス付着
		外面 ―	貝殻腹縁による刺突	暗赤褐		

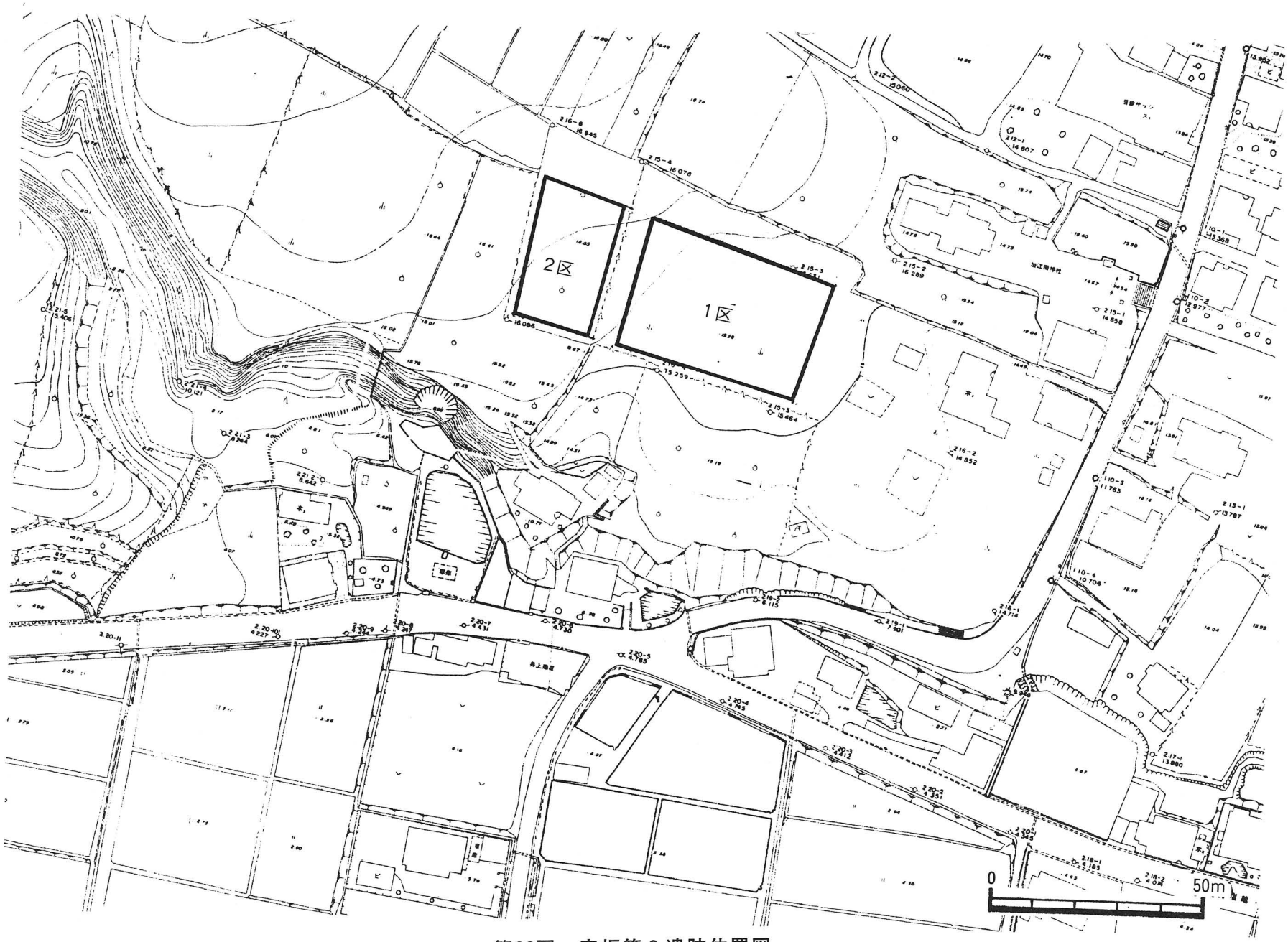
第4表　石器観察表

番号	器種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石材	備考
33	凹石	8.35	8.45	4.82	475	砂岩	敲石兼用
34	石鏃	4.0	1.9	0.5	3.04	頁岩	
35	石鏃	1.5	1.45	0.25	0.37	頁岩	
36	石鏃	2.0	1.4	0.35	0.66	頁岩	
37	石鏃	1.7	1.5	0.3	0.60	頁岩	
38	石鏃	1.4	1.15	0.3	0.31	黒曜石	
39	石鏃	1.55	1.4	0.3	0.72	チャート	
40	石鏃	1.5	1.4	0.25	0.45	チャート	
41	石鏃	2.8	2.4	0.55	2.56	チャート	
42	石鏃	2.15	2.15	0.5	1.24	チャート	
43	石鏃	1.7+α	1.6+α	0.35	0.64	頁岩	
44	石鏃	1.15+α	2.5	0.5	1.17	黒曜石	
99	石斧	10.6	5.4	3.5	371.25	安山岩	
100	石斧	8.8	5.5	1.5	135	頁岩	

第５表　弥生土器観察表

番号	器　種	調　　整	色　調	胎　　土	備　　考
45	壷	内面 ナデ、ハケ	暗　　橙	2.5mm以下の砂粒を多く含む	刻目突帯、丹塗り
		外面 研磨	〃		
46	壷	内面 ナデ	暗　　褐	3mm以下の砂粒を多く含む	貼り付け突帯
		外面 〃、研磨	暗　　橙		
47	壷	内面 研磨	暗　　褐	7mm以下の砂粒を多く含む	幾何学模様
		外面 〃	〃		
48	壷	内面 ナデ	赤　　橙	3mm以下の砂粒を多く含む	貼り付け突帯
		外面 〃	〃		
49	甕	内面 ナデ	灰　　褐	8mm以下の砂粒を多く含む	貼り付け突帯、刻目
		外面 ハケ	暗　黄　褐		
50	甕	内面 ナデ	灰　　褐	2mm以下の砂粒を多く含む	刻目
		外面 〃	暗　　褐		
51	甕	内面 ナデ	暗　黄　褐	3.5mm以下の砂粒を多く含む	貼り付け突帯、刻目
		外面 〃	〃		
52	甕	内面 ナデ	暗　黄　橙	微細な砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	暗　黄　褐		
53	甕	内面 ナデ	暗　　褐	3.5mm以下の砂粒を多く含む	スス付着
		外面 〃、ハケ	暗　赤　褐		
54	甕	内面 ナデ	橙	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	〃		
55	甕	内面 ナデ	暗　黄　橙	2.5mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	〃		
56	甕	内面 ナデ	黄　　橙	2.5mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	〃		
57	甕	内面 ナデ	明　赤　褐	3mm以下の砂粒を多く含む	刻目、貼り付け突帯
		外面 〃	〃		
58	甕	内面 ナデ	黄　　橙	0.3mm以下の砂粒を多く含む	貼り付け突帯
		外面 〃	暗　　橙		
59	壷	内面 ナデ	暗　　橙	4mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃、ハケ	〃		
60	壷	内面 ナデ	暗　　橙	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	〃		
61	壷	内面 ナデ	黄	0.5mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	暗　　橙		
62	壷	内面 ナデ	暗　　褐	6mm以下の砂粒を多く含む	スス付着
		外面 〃	暗　　橙		
63	長頸壷	内面 ナデ	橙	4mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃、ハケ、研磨	〃		
64	壷	内面 ナデ	黒　　褐	5mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃、研磨	暗　黄　橙		
65	壷	内面 ナデ	橙	4mm以下の砂粒を多く含む	丹塗り
		外面 〃、研磨	〃		
66	小型壷	内面 ナデ	暗　　橙	砂粒を多く含む	
		外面 〃	暗　黄　橙		
67	甕	内面 ナデ	赤　　橙	3mm以下の砂粒を多く含む	刻目
		外面 〃	〃		
68	甕	内面 ナデ	灰　　黄	砂粒を多く含む	
		外面 〃	暗　黄　橙		
69	甕	内面 ナデ	暗　　褐	砂粒を多く含む	スス付着
		外面 〃	暗　黄　褐		
70	高坏の脚	内面 ナデ	明　赤　褐	3mm以下の砂粒を多く含む	丹塗り
		外面 〃、研磨	赤		
71	小型壷	内面 丁寧なナデ	暗　黄　橙	砂粒を含む	
		外面 研磨	暗　黄　褐		
72	壷	内面 ナデ	暗　　橙	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 丁寧なナデ	橙		

番号	器種	調整	色調	胎土	備考
73	壷	内面 ナデ	暗橙	4mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	〃		
74	甕	内面 ナデ	暗橙	2.5mm以下の砂粒を多く含む	スス付着
		外面 〃	〃		
75	甕	内面 ナデ	褐灰	5mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	暗黄橙		
76	壷	内面 ナデ	黄橙	6mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	〃		
77	勾玉？	内面	暗橙	1.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	〃		
78	壷	内面 ナデ	暗橙	2mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	〃		
79	甕	内面 ナデ	黄橙	3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	〃		
80	壷	内面 ナデ	灰黄褐	砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	暗灰黄		
81	壷	内面 ナデ、ハケ	暗橙	3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃 、〃	〃		
82	壷	内面 ナデ	黒	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 丁寧なナデ	〃		
83	甕	内面 ナデ	暗黄橙	砂粒を多く含む	スス付着
		外面 ハケ後ナデ	〃		
84	甕	内面 ナデ	淡橙	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	〃		
85	甕	内面 ナデ	暗橙	5mm以下の砂粒を多く含む	刻目 貼り付け突帯
		外面 〃、ハケ	〃		
86	甕	内面 ナデ	暗褐	0.5mm以下の砂粒を含む	スス付着 貼り付け突帯
		外面 〃	〃		
87	甕	内面 ナデ	暗黄橙	砂粒を多く含む	スス付着
		外面 〃	〃		
88	甕	内面 ナデ	暗黄橙	砂粒を多く含む	
		外面 〃	暗橙		
89	甕	内面 ナデ	暗黄橙	微細な砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	暗褐灰		
90	鉢	内面 ナデ	黄橙	2.5mm以下の砂粒を多く含む	スス付着 刻目
		外面 〃	黄		
91	脚部	内面 丁寧なナデ	黒	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 ナデ	暗橙		
92	脚部	内面 ナデ	暗橙	4mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	〃		
93	壷	内面 ナデ	暗黄橙	2.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃、ハケ	〃		
94	壷	内面 ナデ	褐灰	3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	暗橙		
95	甕	内面 ナデ	灰褐	3.5mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 〃、ハケ	暗黄橙		
96	壷	内面 丁寧なナデ、ハケ	橙	2.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃 、〃	暗橙		
97	甕	内面 ナデ	暗褐	11mm以下の砂粒を含む	刻目 突帯
		外面 〃、ハケ	暗橙		
98	甕	内面 ナデ	暗褐	10mm以下の砂粒を含む	三角突帯 スス付着
		外面 〃	褐		



第33図　車坂第３遺跡位置図

第４章　車坂第３遺跡の調査

１．調査の概要（第33図）

本遺跡は車坂・山下遺跡群のほぼ中央に位置し、山下第１遺跡のある枝丘陵とは小さな入り込み谷を挟んだ本丘陵の南端部であり、畑や蜜柑園として利用されていた区域である。

発掘調査は、畑の区画に沿った形で調査区を分割し、東側の畑を第１区、西側の蜜柑園を第２区と設定した。

第１区では、北側３分の１には赤ホヤ層が残っているが、南に行くにつれて徐々に削平され、南端部では黄褐色ローム層が表土の下層であった。また、第２区では南に行くにつれて徐々に削平され、南端部では黄白色ローム層が表土の下層であった。全体としては、東西方向で西側が削平の度合いが高い傾向が見られた。

第１区では、赤ホヤ層上面で弥生時代の竪穴住居２軒、土坑２基、時期不明溝状遺構を検出した。また、赤ホヤ層下面では縄文時代早期の集石遺構を検出した。

第２区については、赤ホヤ層上面の北側で弥生時代の竪穴状遺構１基、中央部に溝状遺構を検出した。また、赤ホヤ層下面では縄文時代早期の集石遺構を検出した。
南ブロックは撹乱が激しく旧地形をとどめていなかった。

第１区、第２区共に弥生時代の遺構は調査区の北半分に寄っており、縄文時代の遺構や遺物は南半分に寄る傾向が見られた。特に縄文時代の散石は、南側の中央域に集中して１つの集石状態になっており、その間に石鏃や土器片が混在した状態であったことは、特記すべき点であろう。

２．層　位（第34図）

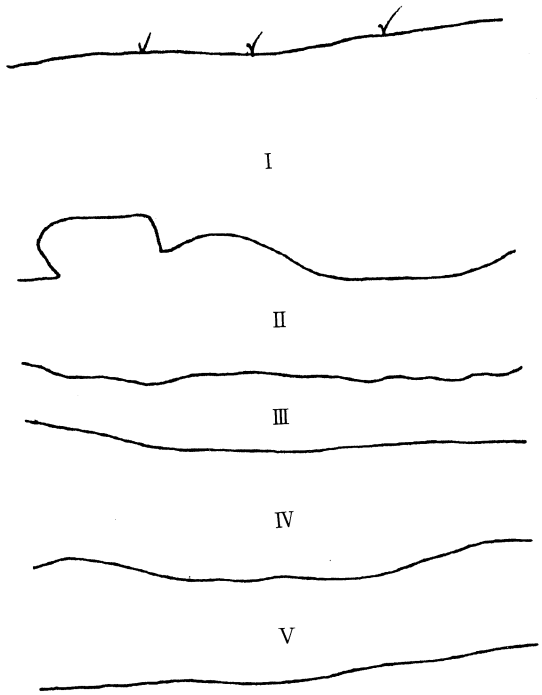
遺跡の基本層序は、Ⅰ層　表土（耕作土）．Ⅱ層　赤ホヤ層．Ⅲ層　黄白色ローム層．Ⅳ層　黒褐色ローム層．Ⅴ層　黄褐色ローム層である。

本来は、赤ホヤ層の上に黒色土層があったものと思われるが、削平及び耕作によりなくなっている。

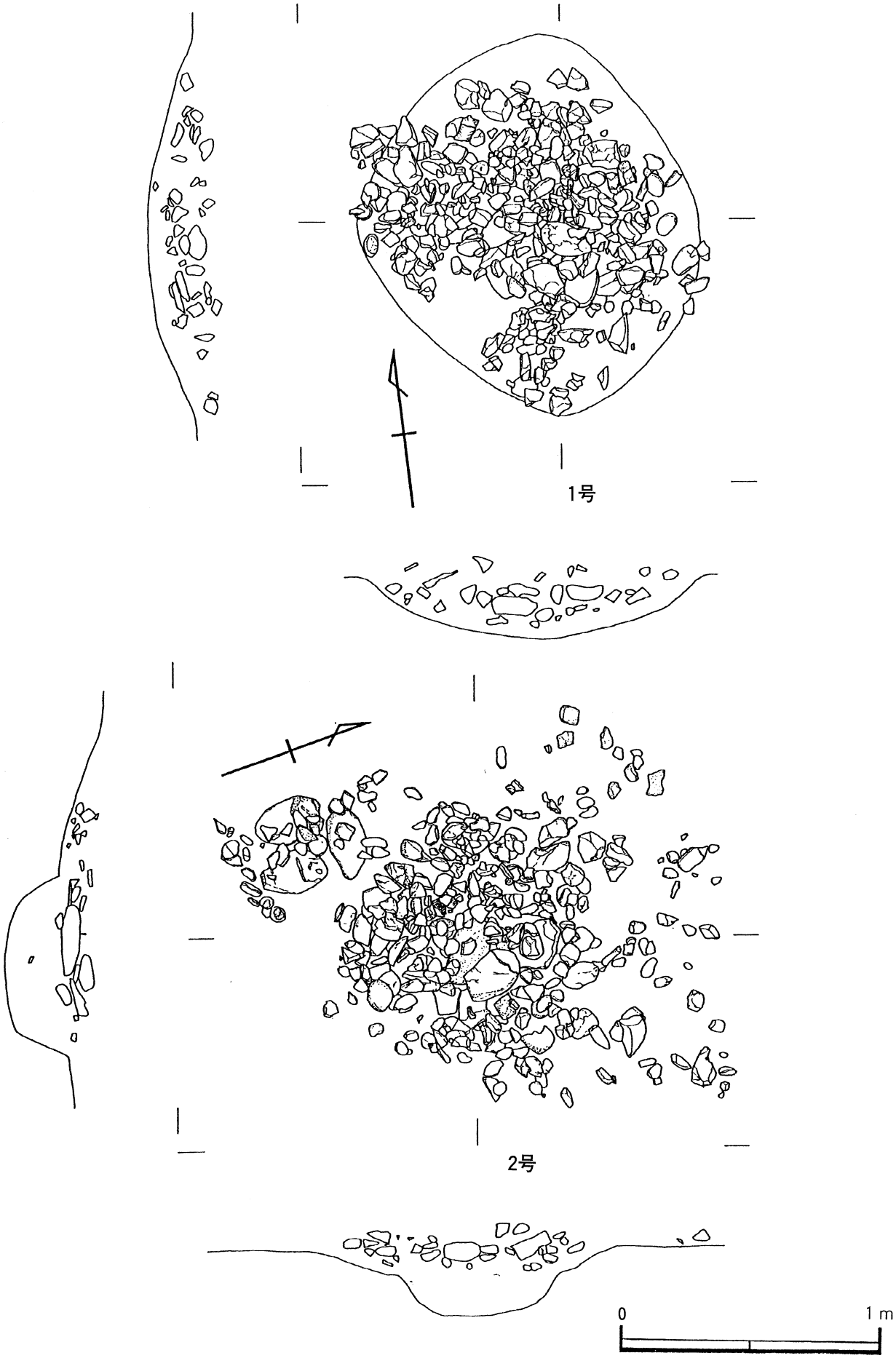
溝状遺構の埋土は黒色土と表土の撹乱状態であり、弥生時代の遺構埋土は淡黒色土であった。

弥生時代の住居は第Ⅲ層まで掘り込んである。

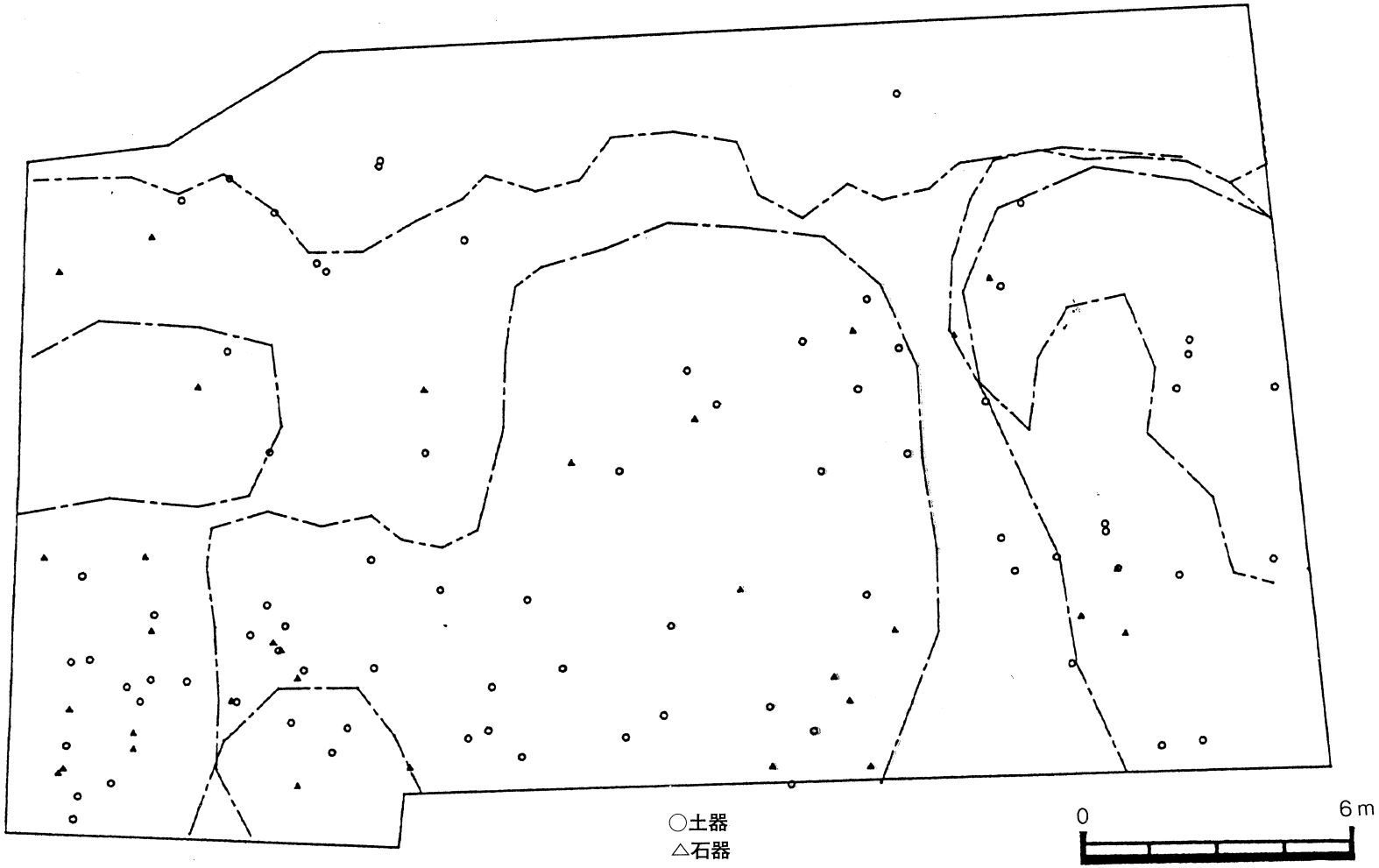
縄文時代早期の遺物は、Ⅳ、Ⅴ層で検出され、集石遺構は、Ⅴ層に掘り込みがみられる。



第34図　土層図



第35図　1・2号集石遺構実測図



第36図　1区出土状況図

3．縄文時代の遺構と遺物

1）遺　構（第35図）

縄文時代の遺構としては集石遺構が検出された。

第1区の集石遺構検出時の特徴は、土器包含層の第1面と第2面では石が比較的密集した散石状態であり、礫の大小、焼礫と通常の礫の混在、円礫と破砕礫の混在が面的に厚く広がっており、土の黒変部や礫の集中部が判別出来なかった点である。そこで礫群の厚みを計るために入れたトレンチの断面により集石を検出した次第である。このトレンチにより、集石の掘り込みの上部に約40cmの礫が堆積していること、また、礫の全体量に対してトレンチの断面で検出された集石の数が少ないことも判明した。

第2区の集石遺構の検出時の特徴は第1区とは異なり、土器包含層と同一面で集石遺構が確認される点である。つまり、散石の間に石の集中した部分や黒変した土の部分が看取され、比較的容易に遺構検出されるものである。このことは2区の削平が深くまで及んでいることとも関係あると思われるが、そのことを差し引いても礫の出土量はかなり少ないものであり、1区との状況の差が示唆的である。

集石には大きく2種類のものが見られた。

1類は、円形に円礫や破砕礫が見られるもの

2類は、不正形な状態で礫が集まっているもの（層をなす）

1類の規模は、直径約1m～1.5m、深さ約50cm程度である。2類は云うなれば遺跡南半分全てが該当し、その中の一部というものではない。

このうち、1類はスリバチ状の掘り込みを有し、掘り込み内に礫が隙間なく充填されており、内部の礫の状態により2種類に区分できる。1種は拳大の円礫や破砕礫が掘り込み底部まで一様に詰まっているもの、2種は掘り込み底部30cm程の台石状の平たい石を置きその上に拳大の円礫や破砕礫が詰まっているものである。

2種では掘り込み等は検出出来なかったため、当初集石が作られた後は単なる礫捨て場となったとも考えられるが、一部には30cm程の台石状の平たい石が見られたことから、1類の集石が次々に作られては破壊された跡とも考えられる。

2）遺　物（第36～51図）

出土した縄文時代の遺物は土器と石鏃を主とした石器類であり、概ね両調査区南半分から検出された。

1区では2類の集石（礫層）に混じり合う形で各種土器や石鏃、剝片、チップが出土している。特に調査区西側で石鏃が多く出土している。

2区では調査区南東部から大量の土器及び石鏃の出土見られ、それと共に多量の剝片、チップが検出された。

A．土　器

1区と2区の土器と集石の関係を見るために別々に図示を行う。

1区出土土器（36～41図）

出土した土器は全て縄文時代早期の土器であり、調整、文様、器形等から次のように分類される。

1類　貝殻条痕土器類　貝殻条痕による調整を行う土器である　1～5

1は横方向の条痕の後に縦方向の条痕を施し、文様を意識した構成となっている。

2類　桑ノ丸式土器類　口縁端を平に仕上げ、内外面をナデた後に櫛状施文具（貝殻か）による文様を施すもの。6～26

綾杉状の施文をするもの　6～16

横方向の施文をするもの　18～20

円弧状の施文をするもの　21、22

縦方向の施文をするもの　23～26

文様形態では以上の様に区分できるが、縦方向の綾杉状の文様　7、17　文様の密集したもの　8～10　櫛状施文と沈線の組合せ　17　等の変化がみられる。

3類　下剝峰式土器類

a　口縁端を平に仕上げ、内外面をナデた後に貝殻腹縁の深い刺突により文様を施すもの。

綾杉状の施文をするもの　27、29、30、32、34～39

綾杉状の施文の中に横方向の刺突を施すもの　28、31、33

b　口縁端を平に仕上げ、内外面をナデた後に貝殻腹縁の刺突による列点文を施すもの。

横方向の列点を施文するもの　40～45

綾杉状の列点文と横方向の列点文を組み合わせるもの　46～49

綾杉状の列点を施文するもの　50～53

47の上部には貝殻腹縁の押引が施されている。

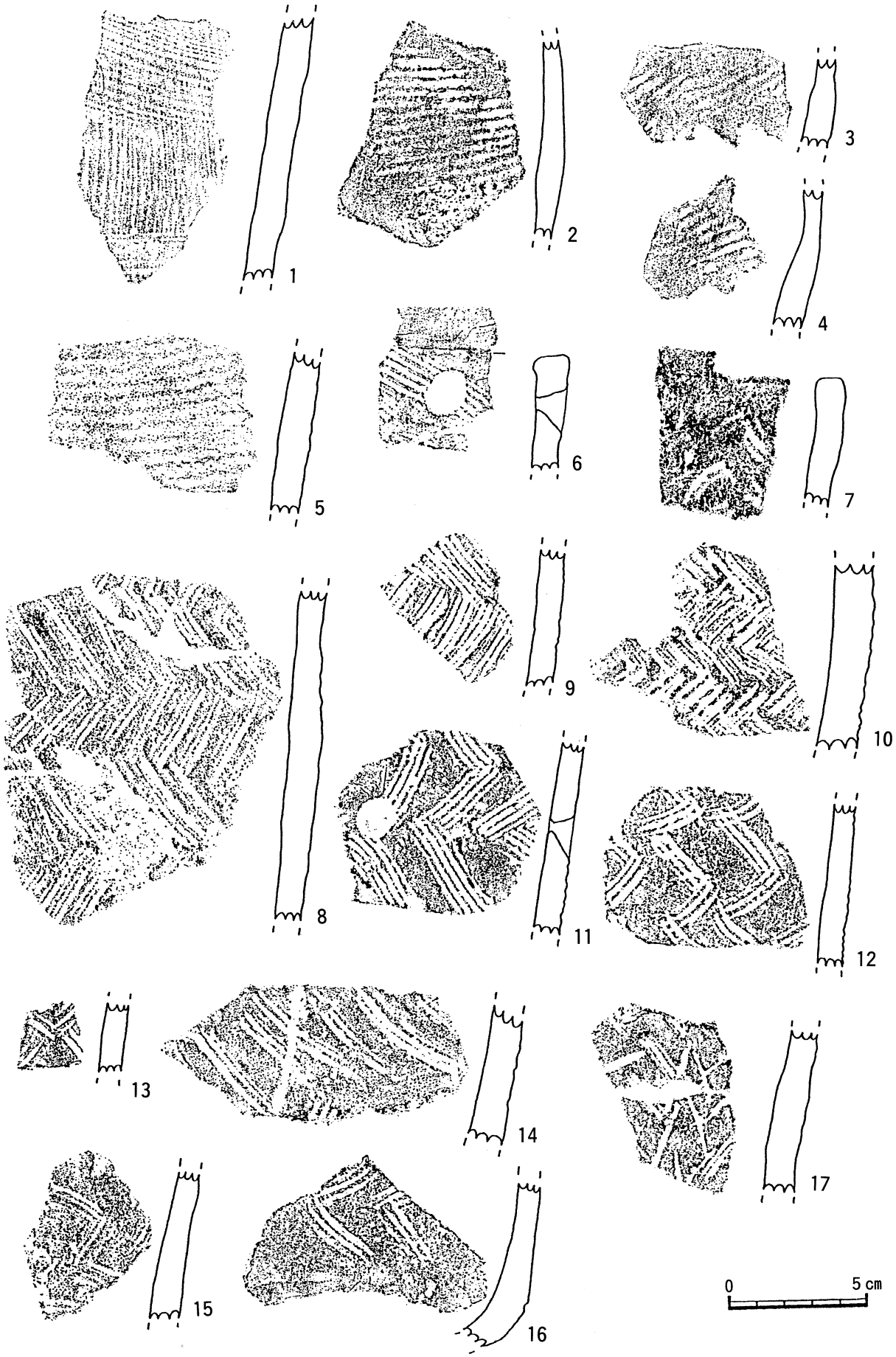
4類　貝殻腹縁の押引を施すもの　54～56

3類土器の一部になる可能性もある。

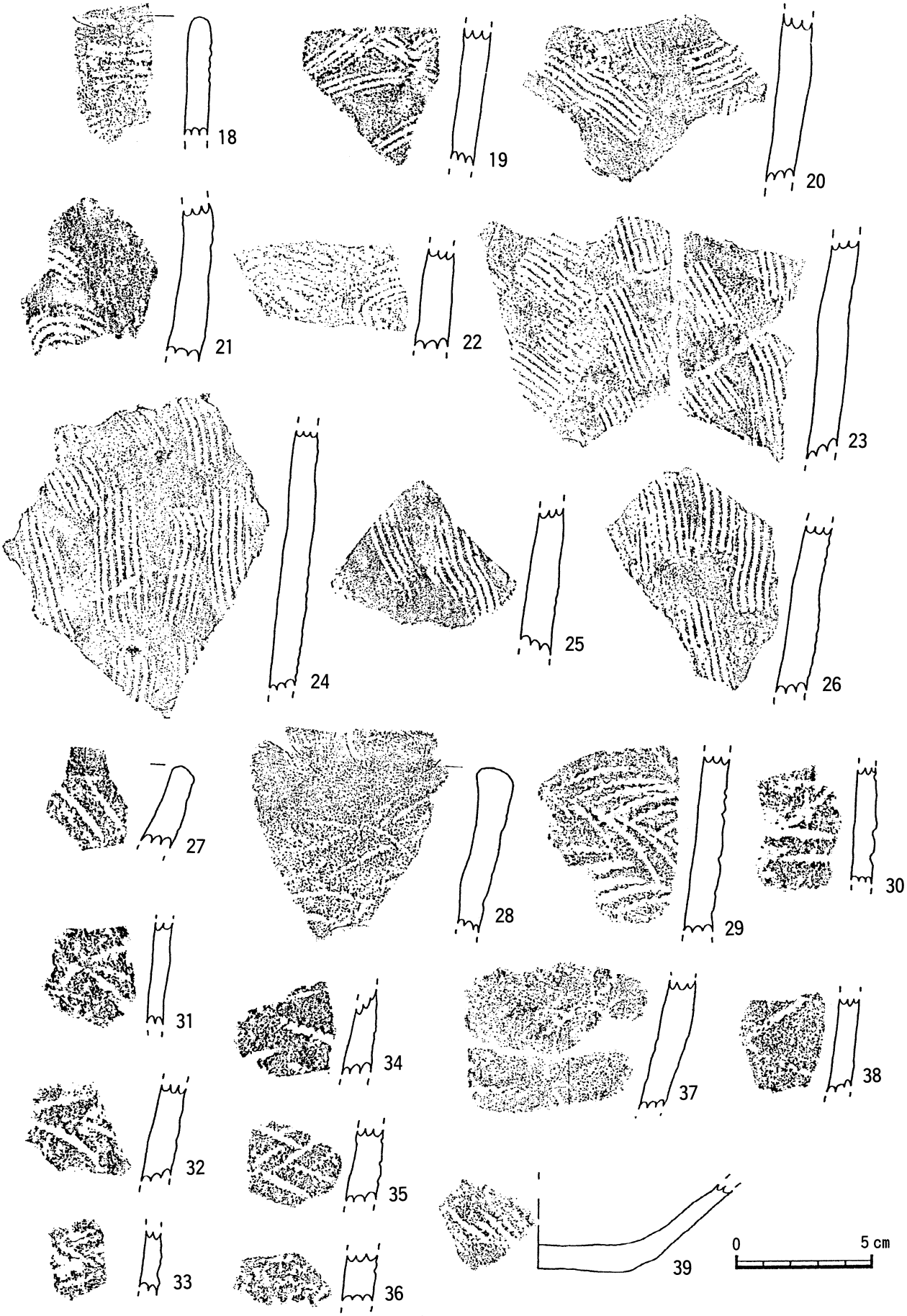
5類　ヘラ状工具による施文を施すもの

斜めの沈線を入れるもの　57、59、60

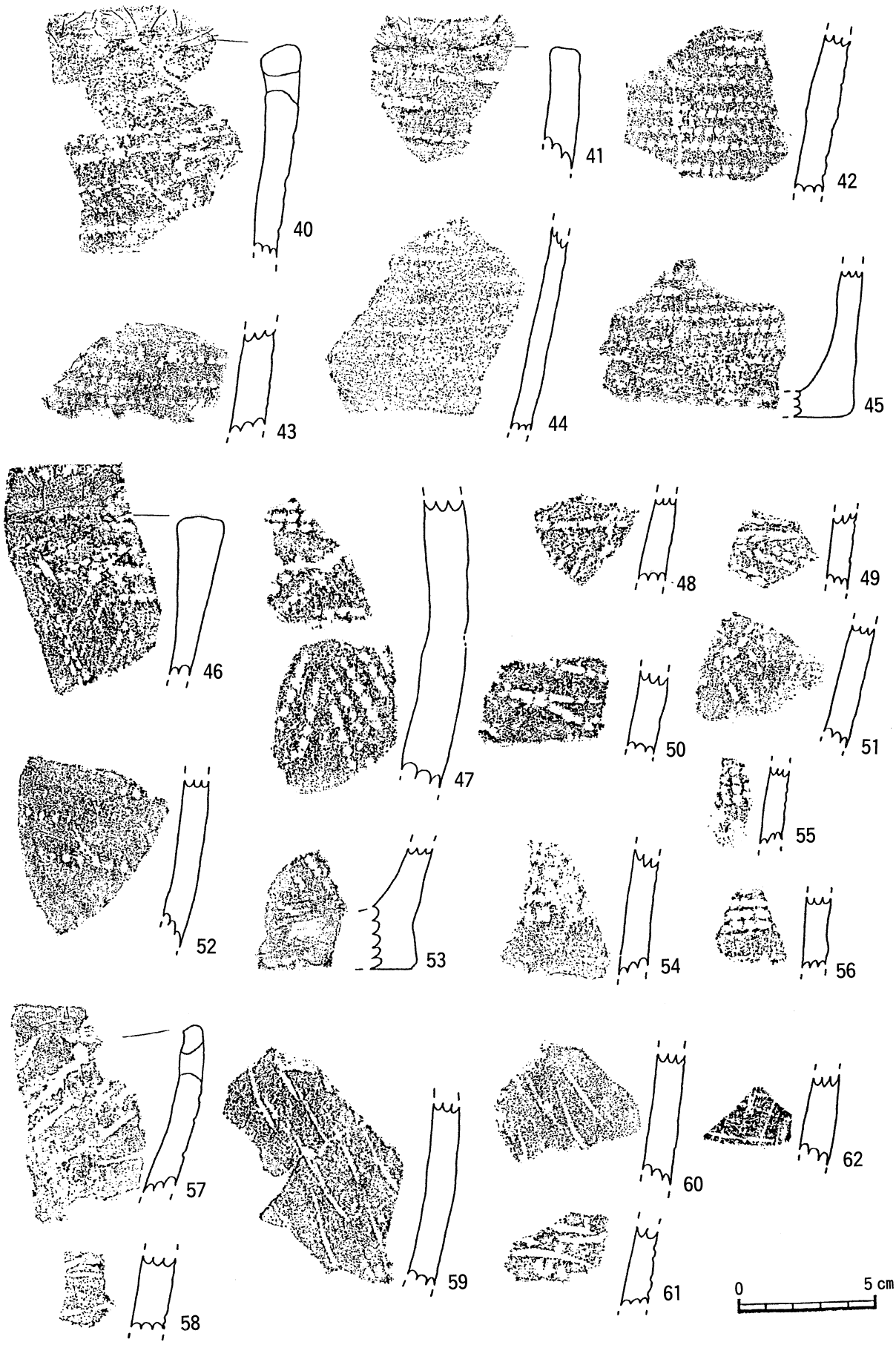
横の沈線を入れるもの　58、61



第37図　出土土器実測図



第38図　出土土器実測図



第39図　出土土器実測図

格子状の沈線を入れるもの　62

57、62は貝殻腹縁の可能性がある。

6類　押型文土器

a　山形押型

山形押型を外面に施し、内面の口縁部下にヘラ状の押圧を入れその下に山形押型を入れるもの　63、64

山形押型を外面に施すが2cm程の無文帯を口縁部に残し、内面の口縁部下にヘラ状の押圧を入れその下に山形押型を入れるもの　65

山形押型を外面に施すが2cm程の無文帯を口縁部に残すもの　66、67

山形押型を外面に施すが2cm程の無文帯を口縁部に残し、口唇部に刻目を持つもの　68

山形押型を外面に施し口縁端を平にする　69

また原体の形状により、山形が鋭いもの　71～73、山形が丸みを帯びたもの　70、74～76、山形が帯状になるもの　77～79、山形が極小さいもの　90の4種に分けられる。78、79は網代底である。

b　格子目押型　80、81

c　楕円押型　82～89

原体の楕円の大きさにより、楕円が大型のもの　82～85、楕円が中型のもの　87、楕円が小型のもの　86、88、89に分類される。

86は、細かな楕円押型を外面に施し口縁端を平にするものである。

7類　その他の土器

91は貝殻腹縁の刺突で縦方向に入れる吉田式土器類と思われる。

92、93は貝殻腹縁の押引である。

94、95は櫛状施文具による押引と思われる。

2区出土土器（第42～48図）

出土した土器は全て縄文時代早期の土器であり、調整、文様、器形等から次のように分類される。

1類　貝殻条痕土器類　貝殻条痕による調整を行う土器である　96～101

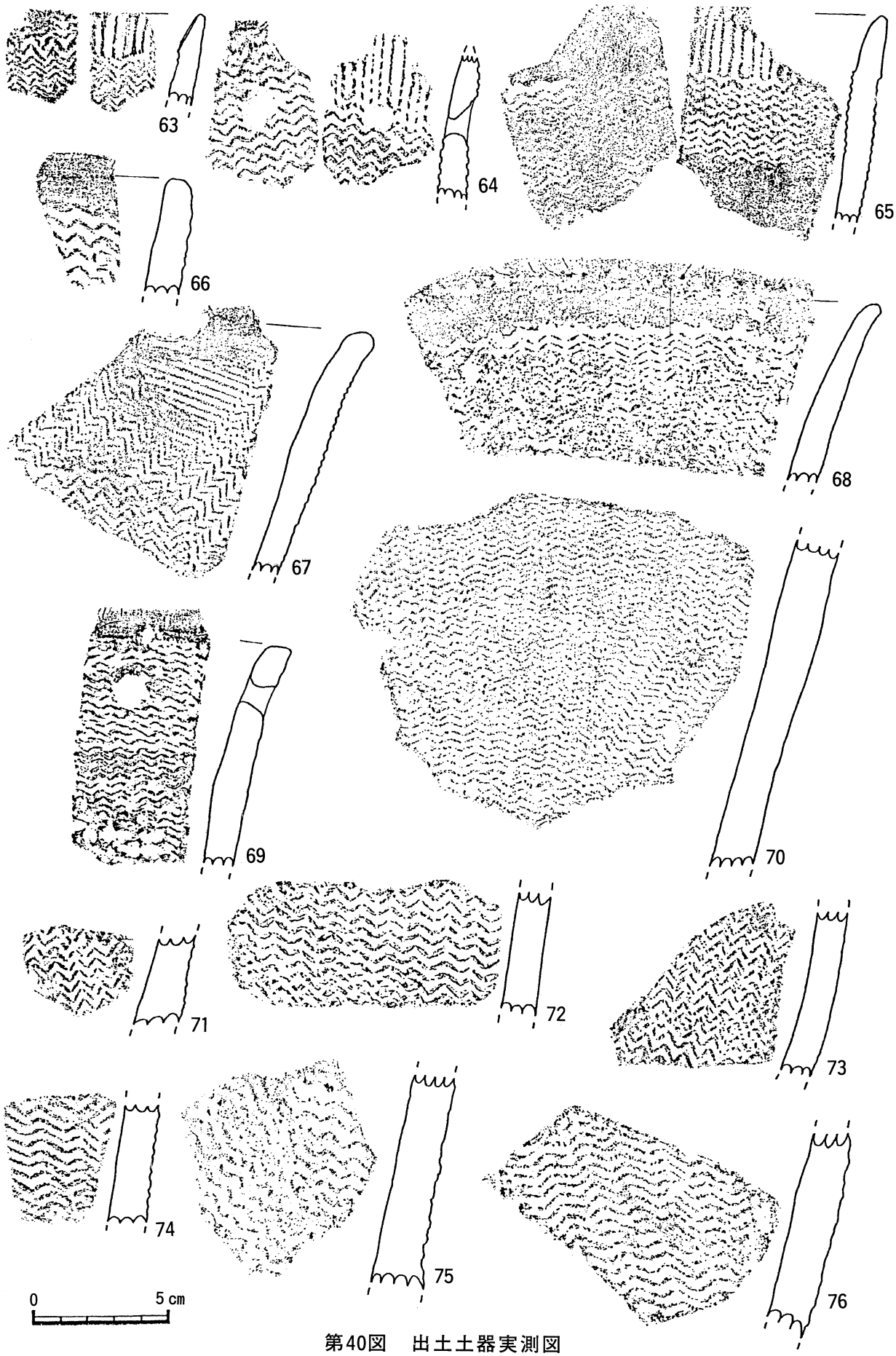
横方向の条痕であるもの　96～99、102、104

条痕が交差するもの　100、101

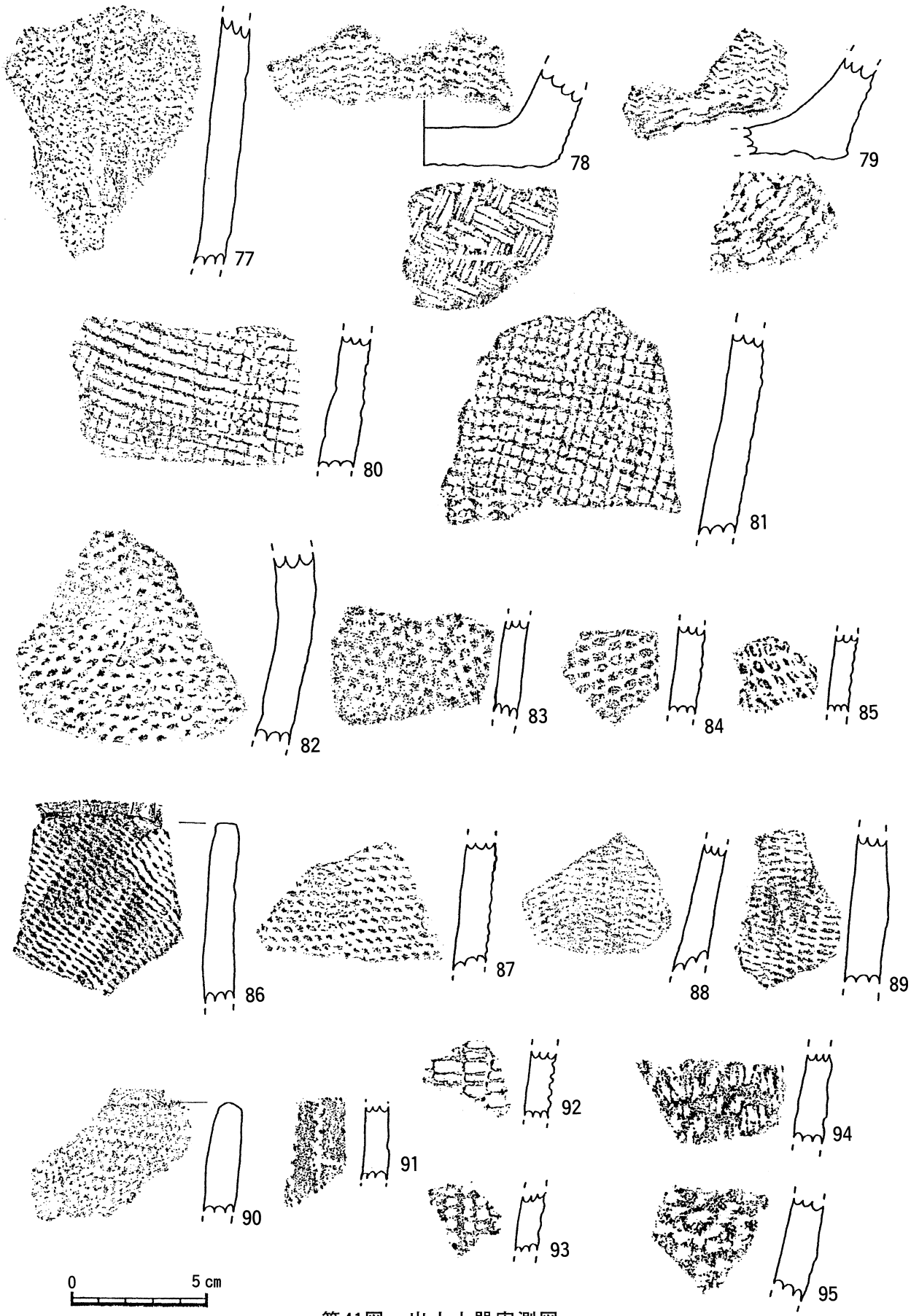
貝殻の背を連続押圧するもの　103

条痕を縦方向に間隔を空け施すもの　105

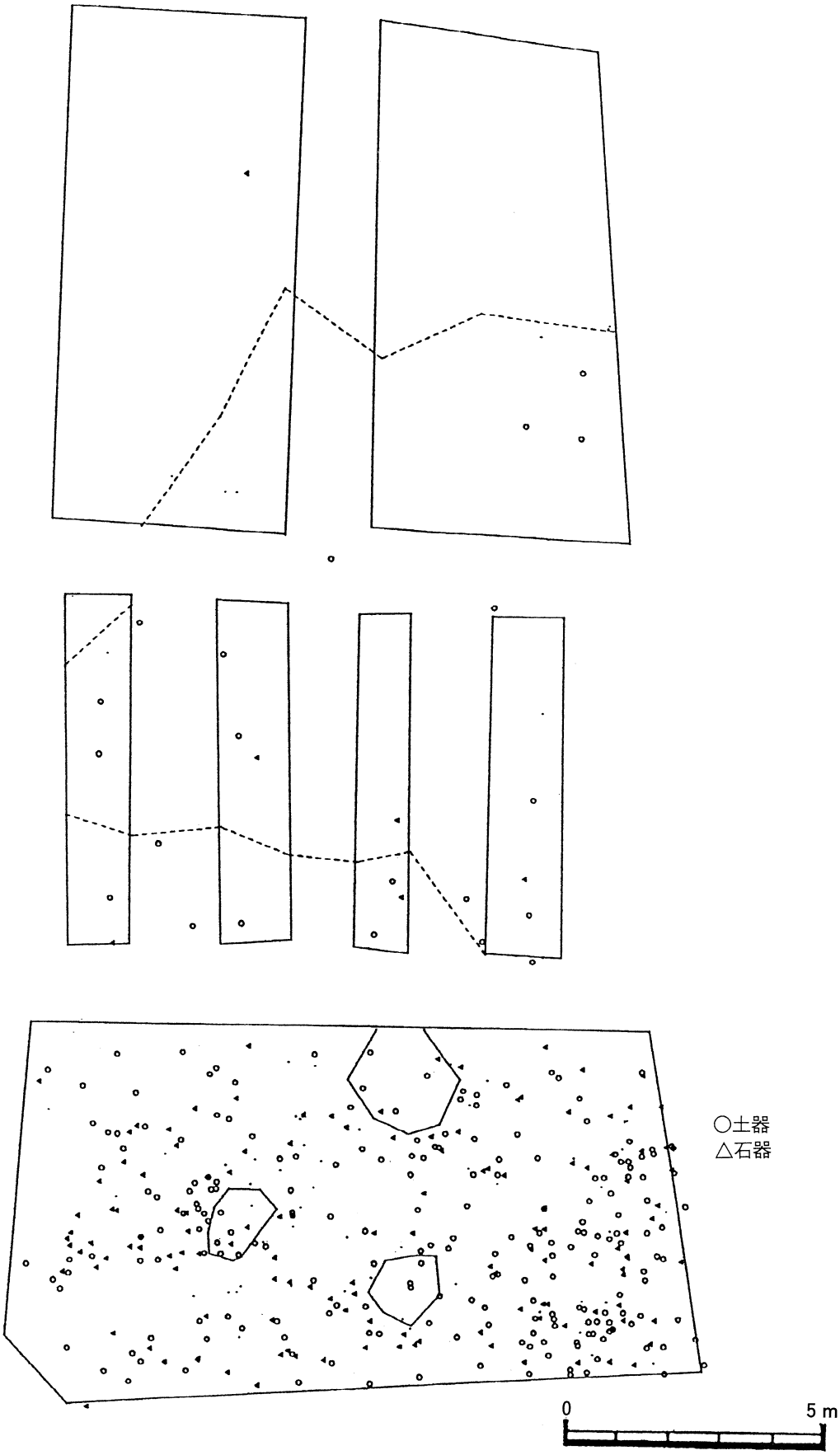
2類　桑ノ丸式土器類　口縁端を平に仕上げ、内外面をナデた後に櫛状施文具（貝殻か）によ



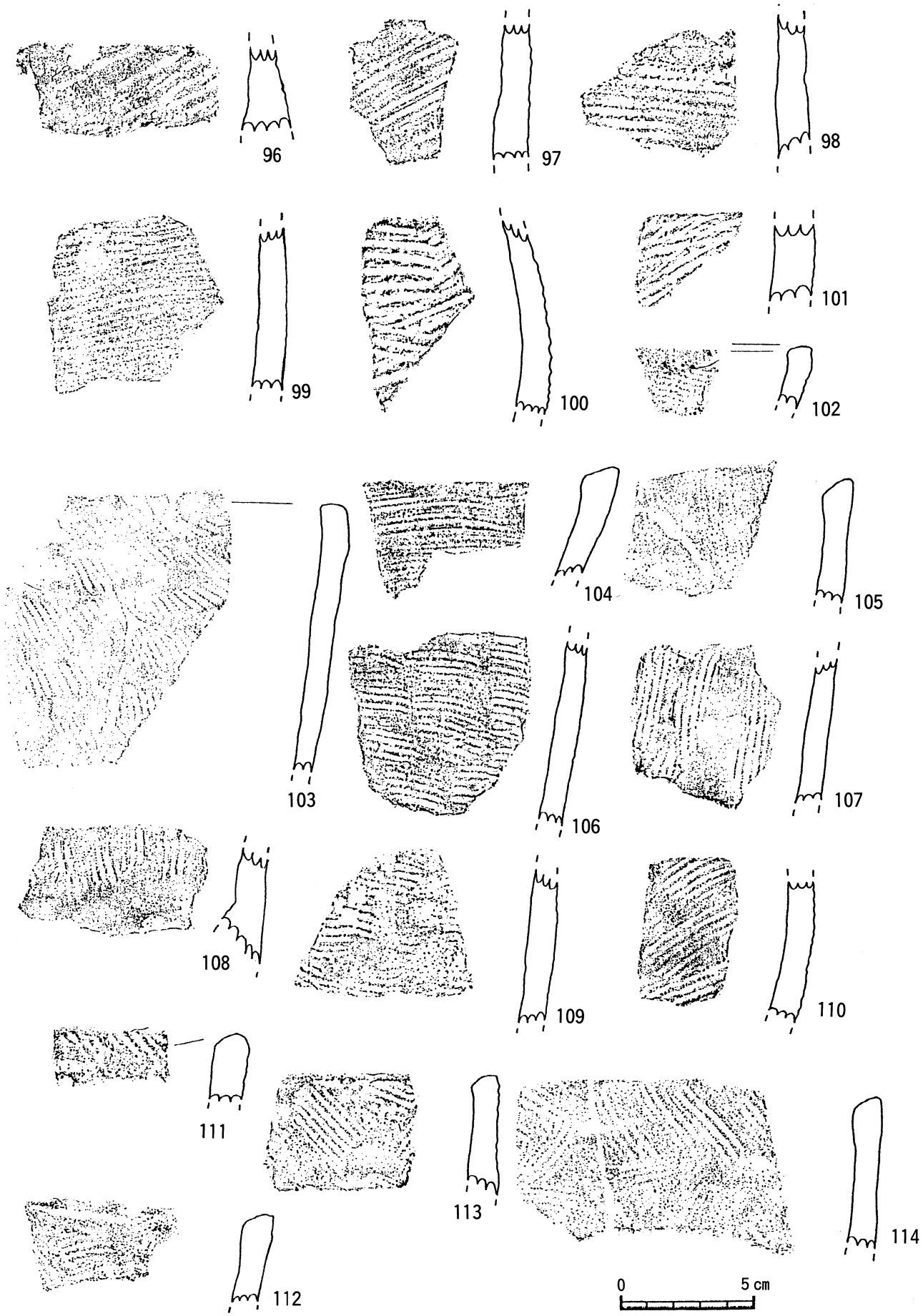
第40図　出土土器実測図



第41図　出土土器実測図



第42図　2区出土状況図



第43図　出土土器実測図

る文様を施すもの。106～136

横方向の施文をするもの　106～109

縦方向の施文をするもの　107、108

斜めの施文をするもの　110

綾杉状の施文をするもの　111～122

流水文状の施文をするもの　123～129

円弧状の施文をするもの　130～133

浅く引掻いた様な施文をするもの　134～136

文様形態では以上の様に区分でき、文様の密集したもの　106、109、115、116がみられる。

3類　下剝峰式土器類

a　口縁端を平に仕上げ、内外面をナデた後に貝殻腹縁の深い刺突により文様を施すもの

口縁端に横方向に刺突し、その下に綾杉状の施文をするもの　137、139

綾杉状の施文をするもの　138、140～143、145、146

綾杉状の施文の中に縦方向の刺突を施すもの　147

綾杉状の施文の下に横方向の沈線を施すもの　144

横方向の施文をするもの　148～150

151は底部である。

b　口縁端を平に仕上げ、内外面をナデた後に貝殻腹縁の刺突による列点文を施すもの

綾杉状の列点文と横方向の列点文を組み合わせるもの　152～154

綾杉状の列点を施文するもの　155～163

156、160はa類とb類の中間的な施文である。

4類　貝殻腹縁の押引を施すもの

164は綾杉状貝殻列点文を口縁部に施文し、その下部に貝殻腹縁の押引と条痕の入れ混じった文様帯を入れ、更にその下部に貝殻腹縁の列点文を施すものである。

193～196は器面全体に押引を施すものだが、196の底部には刻線が見られない。

5類　ヘラ状工具による施文を施すもの

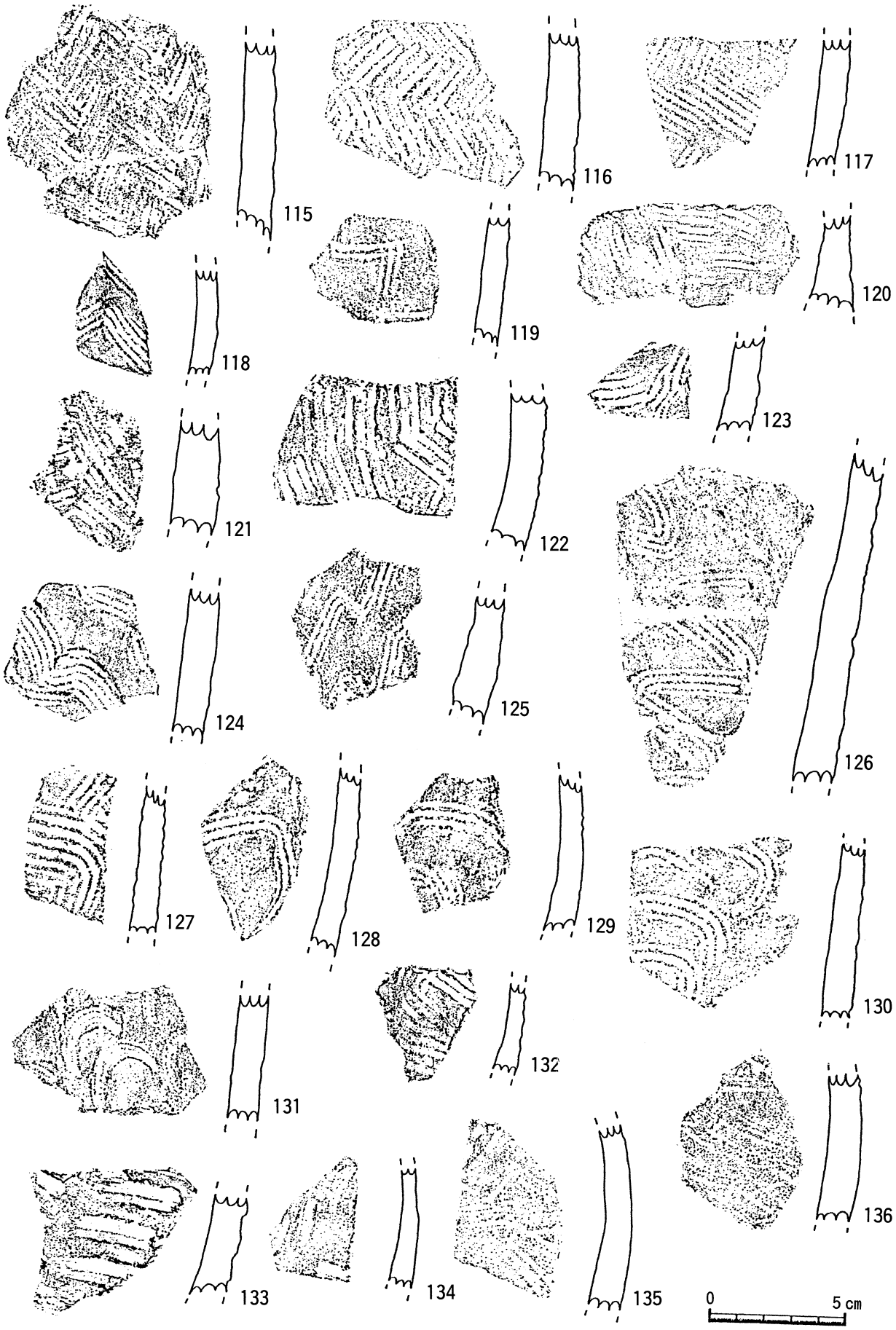
横と斜めの沈線を入れるもの　200

横の沈線を入れるもの　201、204

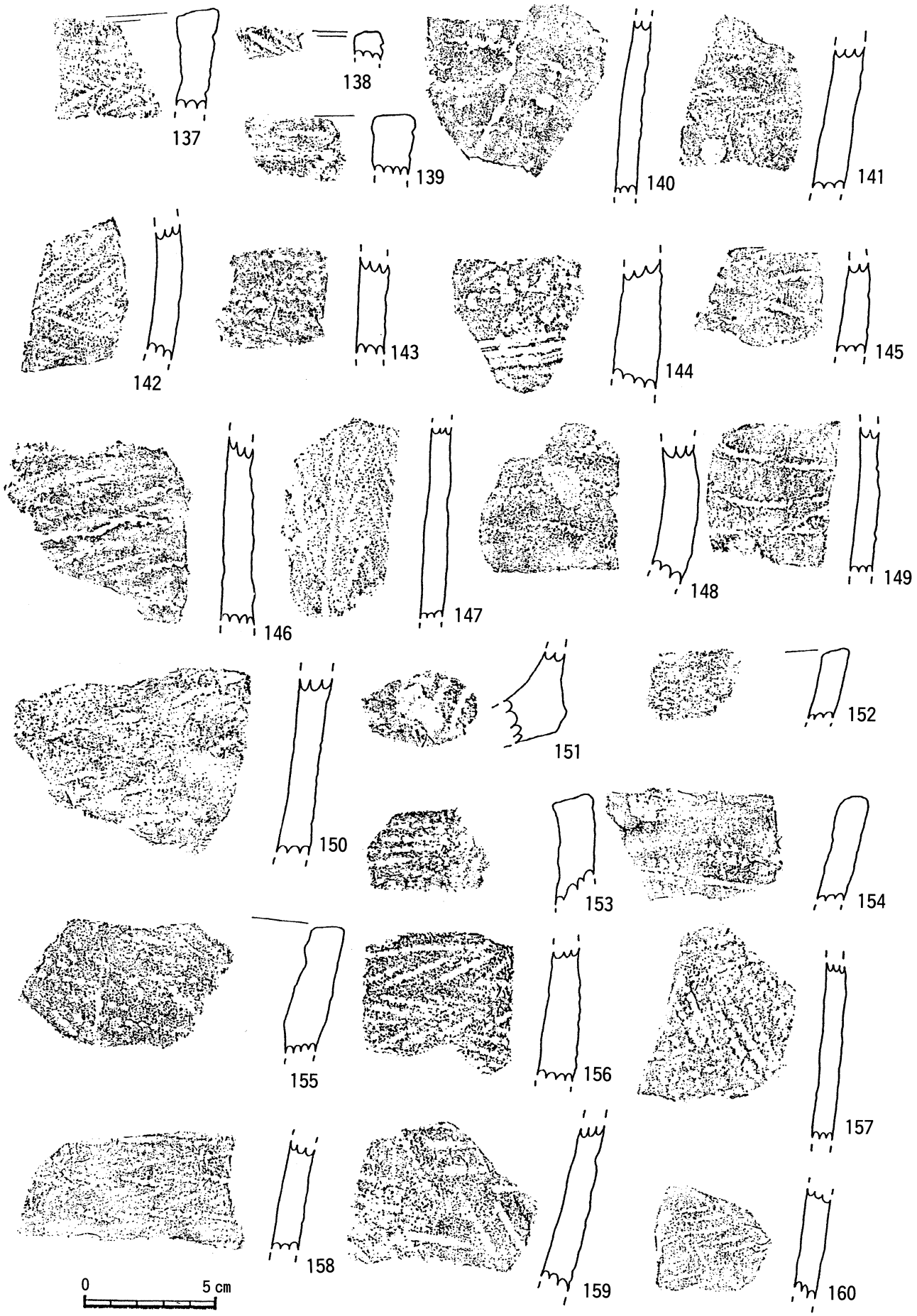
格子状の沈線を入れるもの　199

綾杉状の沈線を入れるもの　202、203、205

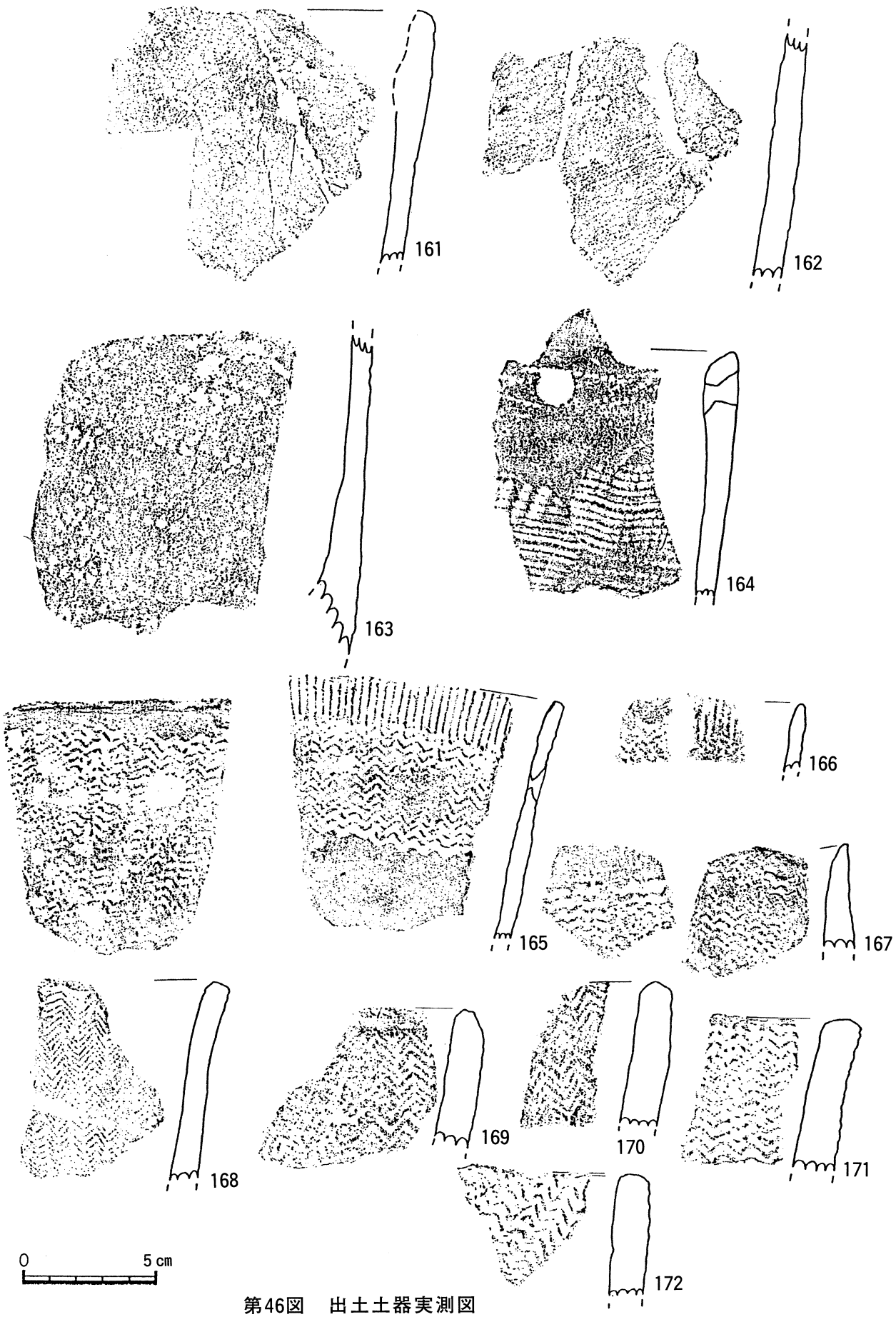
199～201、204は貝殻腹縁の可能性がある。



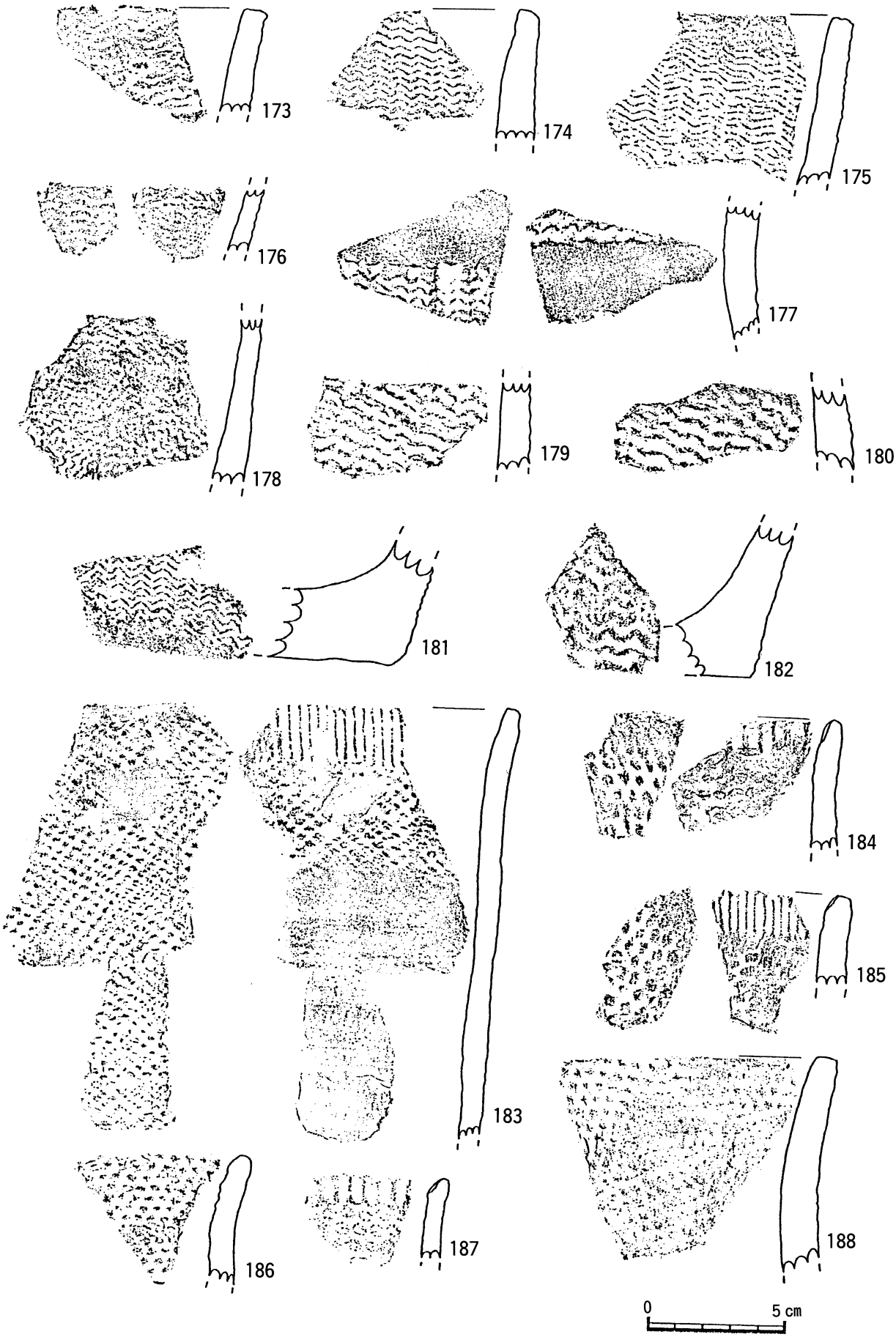
第44図　出土土器実測図



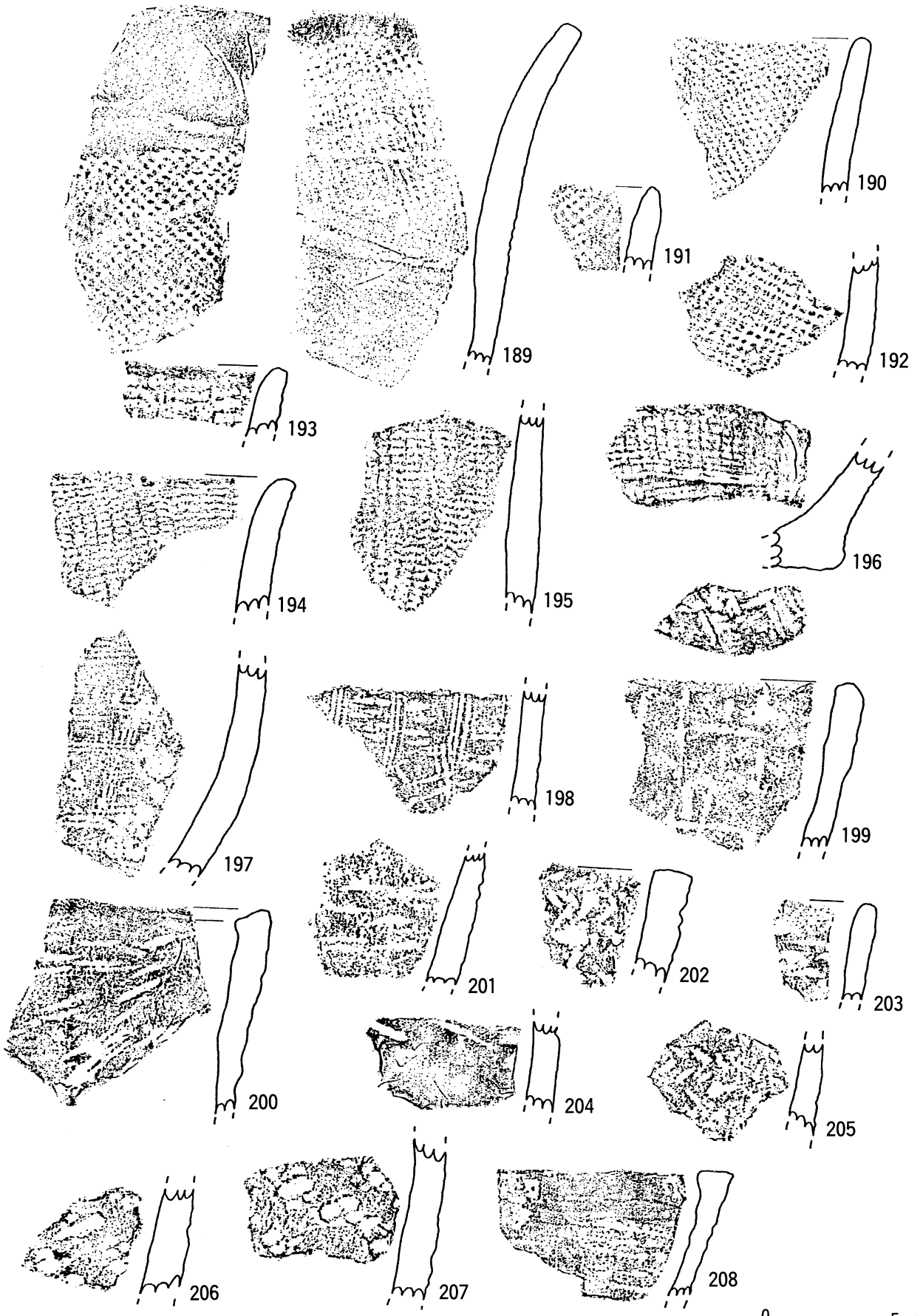
第45図　出土土器実測図



第46図　出土土器実測図



第47図　出土土器実測図



第48図　出土土器実測図

6類　押型文土器

a　山形押型　165～182

山形押型を外面に施すが1cm程の無文帯を口縁部に残し、内面の口縁部下にヘラ状の押圧を入れその下に山形押型を入れるもの　165～167

山形押型を外面に施すが1cm程の無文帯を口縁部に残すもの　169

山形押型を外面に施し口縁部を平にするもの　168、170～175

口縁部に幅広く無文帯を残すもの　177

また原体の形状により、山形が鋭いもの　168～170、山形が丸みを帯びたもの　165～167、172、山形が帯状になるもの　173～176、178～180の3種に分けられる。181、182は、底部である。

b　楕円押型　183～192

楕円押型を外面に施すが1cm程の無文帯を口縁部に残し、内面の口縁部下にヘラ状の押圧を入れその下に楕円押型を入れるもの　183～185

楕円押型を内面に施すもの　186、187　187は口縁部に押圧を持つ

楕円押型を外面全体に施し口縁端を平にするもの　188、190、191

外面は口縁部下に5cm程の無文帯を残し、内面は7cm程に楕円押型を入れるもの　189

原体の楕円の大きさにより、楕円が大型のもの　184、185、187、楕円が中型のもの　183、186、188、楕円が小型のもの　189～192に分類される。

7類　その他の土器

197は横方向の条痕の後に縦の条痕を1列入れるものである。

198は櫛状施文具による縦線とヘラ状工具による横線の組合せである。

206、207は棒状工具による連続刺突と思われる。

208は条痕を荒くナデたものである。

B．石　器（第49～51図）

石器は、石鏃、凹石、有孔石器等が出土している。

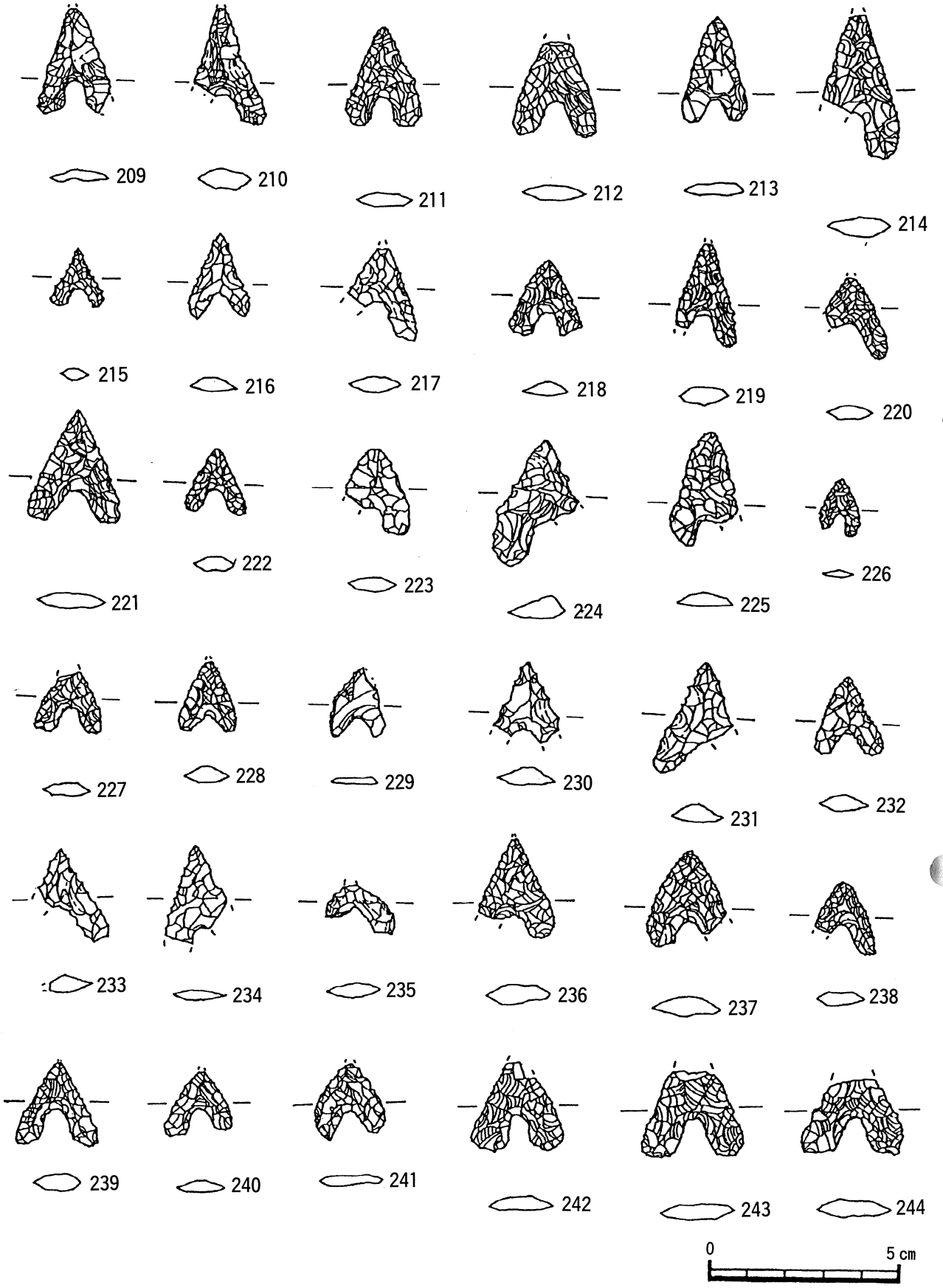
石鏃は両調査区から出土しているが、圧倒的に2区の出土量が1区の出土量を上回っている。使用石材は、黒曜石、チャート、頁岩等多種である。

凹基鏃　209～276、平基鏃　277～280、所謂トロトロ石器　281～287が有る。大きさは1cm～4cm大と多様である。

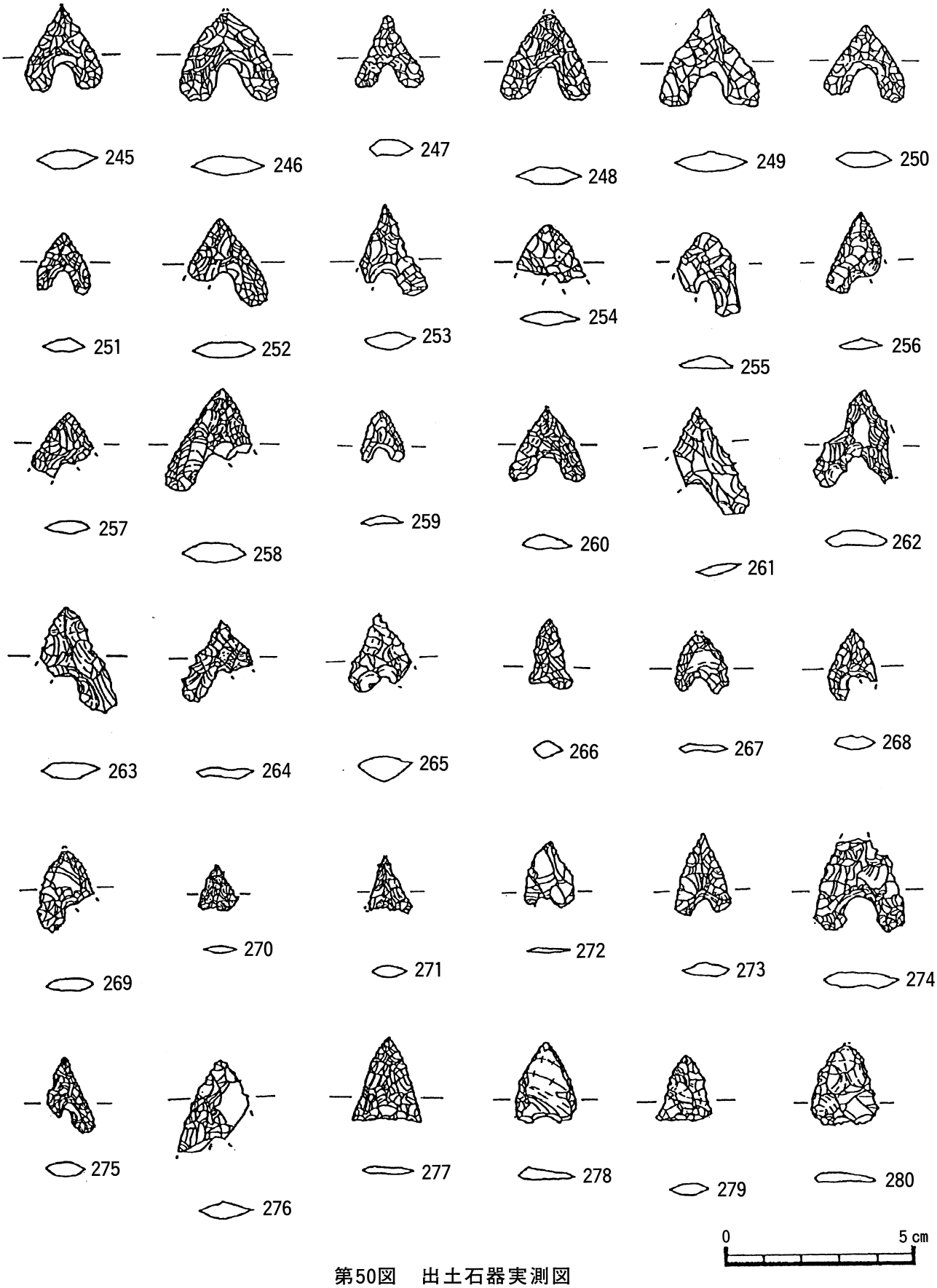
凹石は、円若しくは楕円で中央に窪みを持ち、側面に敲打痕を持つもの　288、側面に擦痕を持つもの　289、290とがある。

有孔石器　291　2区の集石近くで出土したが、上下両面は研磨状となっているが側面はやや荒れた状態である。錘としての使用が考えられる。

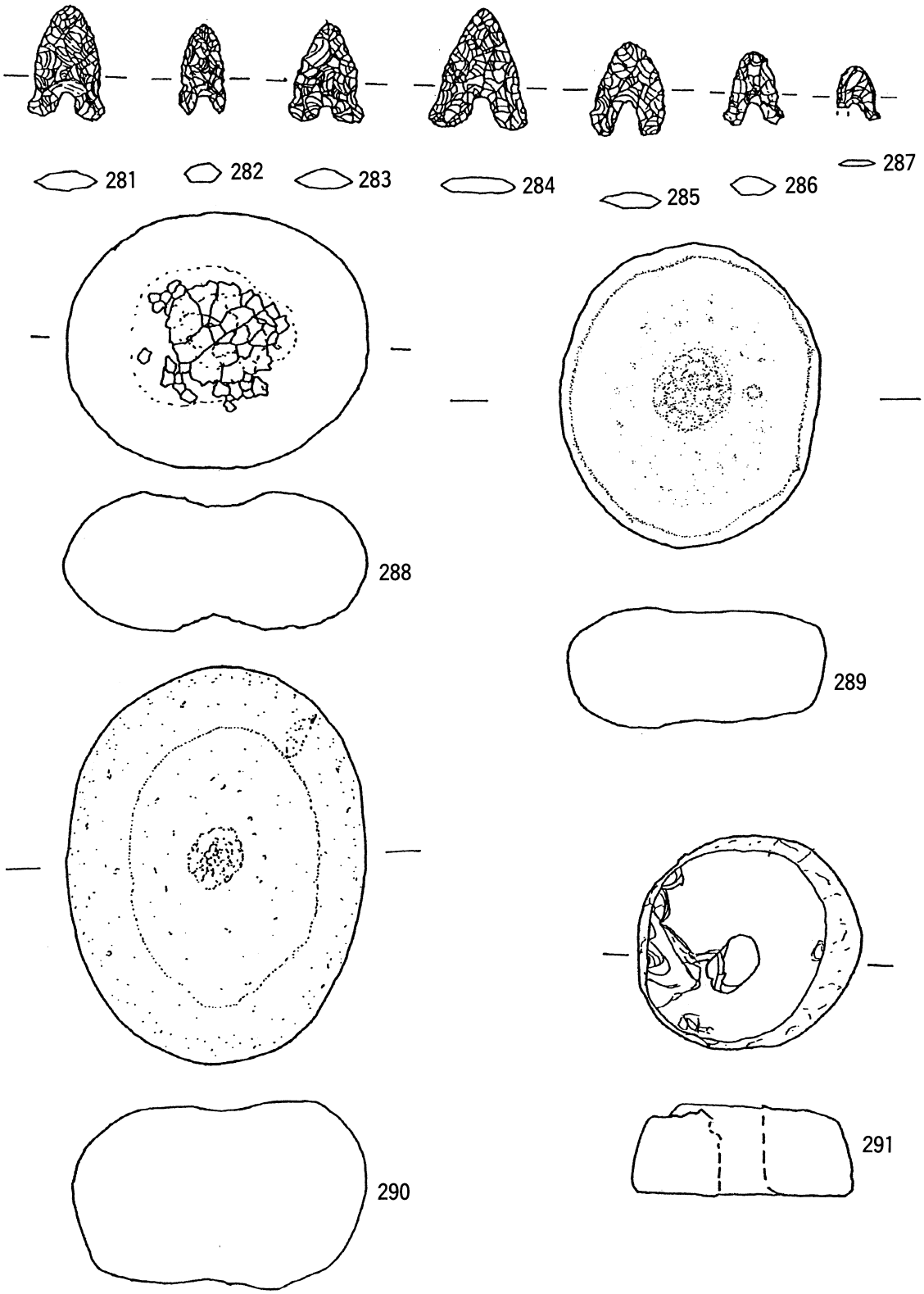
その他、剝片、チップ等は多数出土しているが、掲載はしていない。



第49図　出土石器実測図

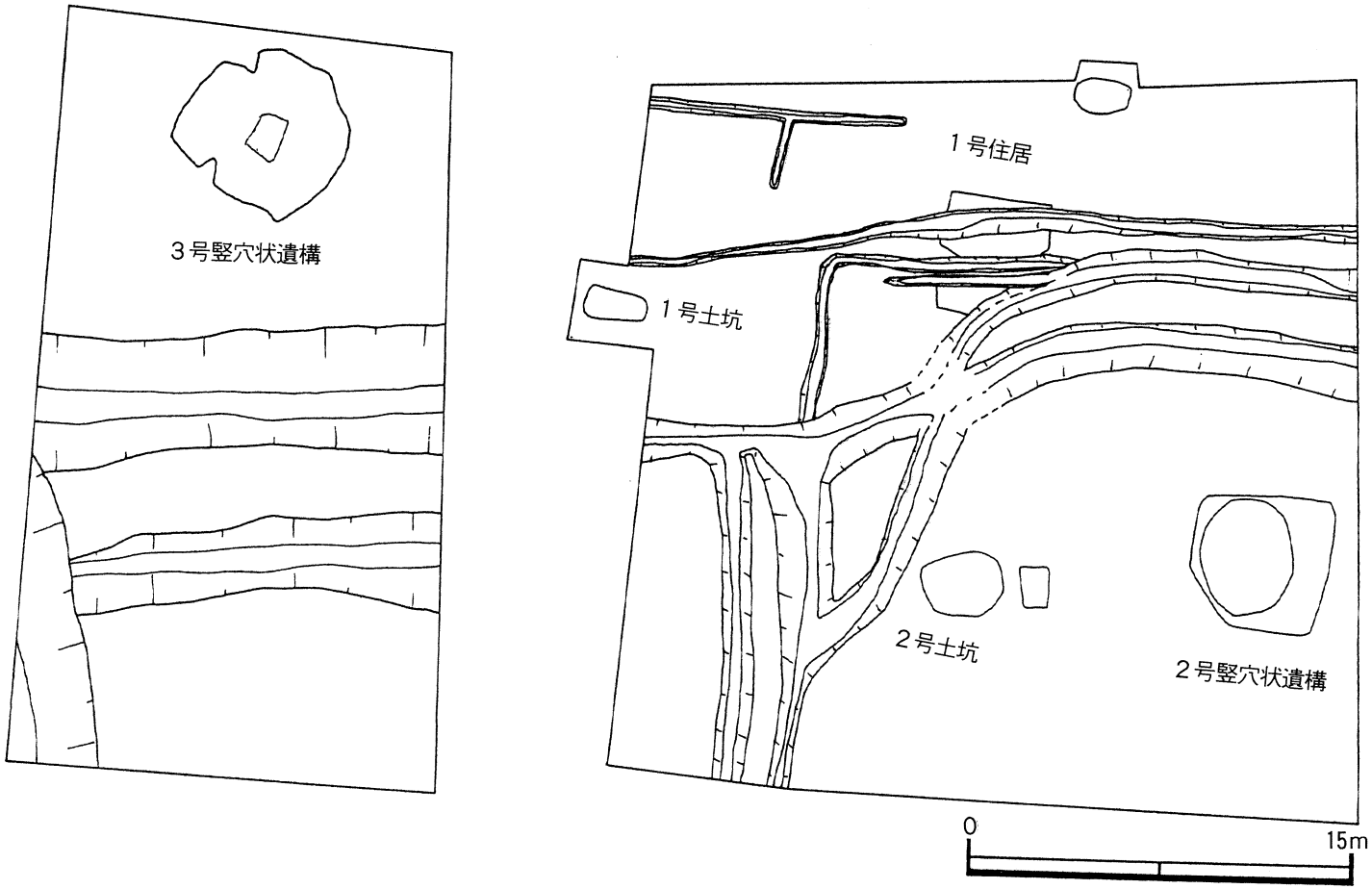


第50図　出土石器実測図



第51図　出土石器実測図

0　5 cm



第52図　遺構配置図

4．弥生時代の遺構と遺物

1）遺　構（第52図）

弥生時代の遺構としては、第1区から竪穴住居が2軒、土坑が2基、第2区から竪穴状遺構が1基、溝状遺構が検出されている。

1号竪穴住居（第53図）

4.4m×4.7mの方形の竪穴住居で深さ約20cmを残し、長軸が磁北方向からやや東に振っている。南東部を近世以降の溝によって切り飛ばされたうえ、東西方向の溝3条によって中央部も切られている。

東西両辺の中央部に突起があることから、方形の間仕切住居であることが判明した。

遺物は、床面から浮いた形で検出され、壷・甕・高坏・土製勾玉が出土した。

柱穴は検出出来なかった。

2号竪穴状遺構（第53図）

5.4m×5.3mの不整な方形の竪穴状遺構で深さ約20cmを残し、長軸が磁北方向からやや東に振っている。

遺構の南3分の2は5m×4m、深さ約40cmの楕円形のスリバチ状となっているが、セクションから切り合い関係はつかめなかったため、同一遺構として扱っている。

遺物は、床面からやや浮いた形で検出され、壷と甕が出土した。

柱穴は検出出来なかった。

3号竪穴状遺構（第54図）

直径5.6mの円形の竪穴状遺構で深さ約10cmを残し、数箇所に間仕切状の突起の痕跡と思われる部分が見られ、円形の間仕切住居の可能性が高い。

遺物は、床面からやや浮いた形で検出され、壷・甕・高坏等が出土した。

柱穴は検出出来なかった。

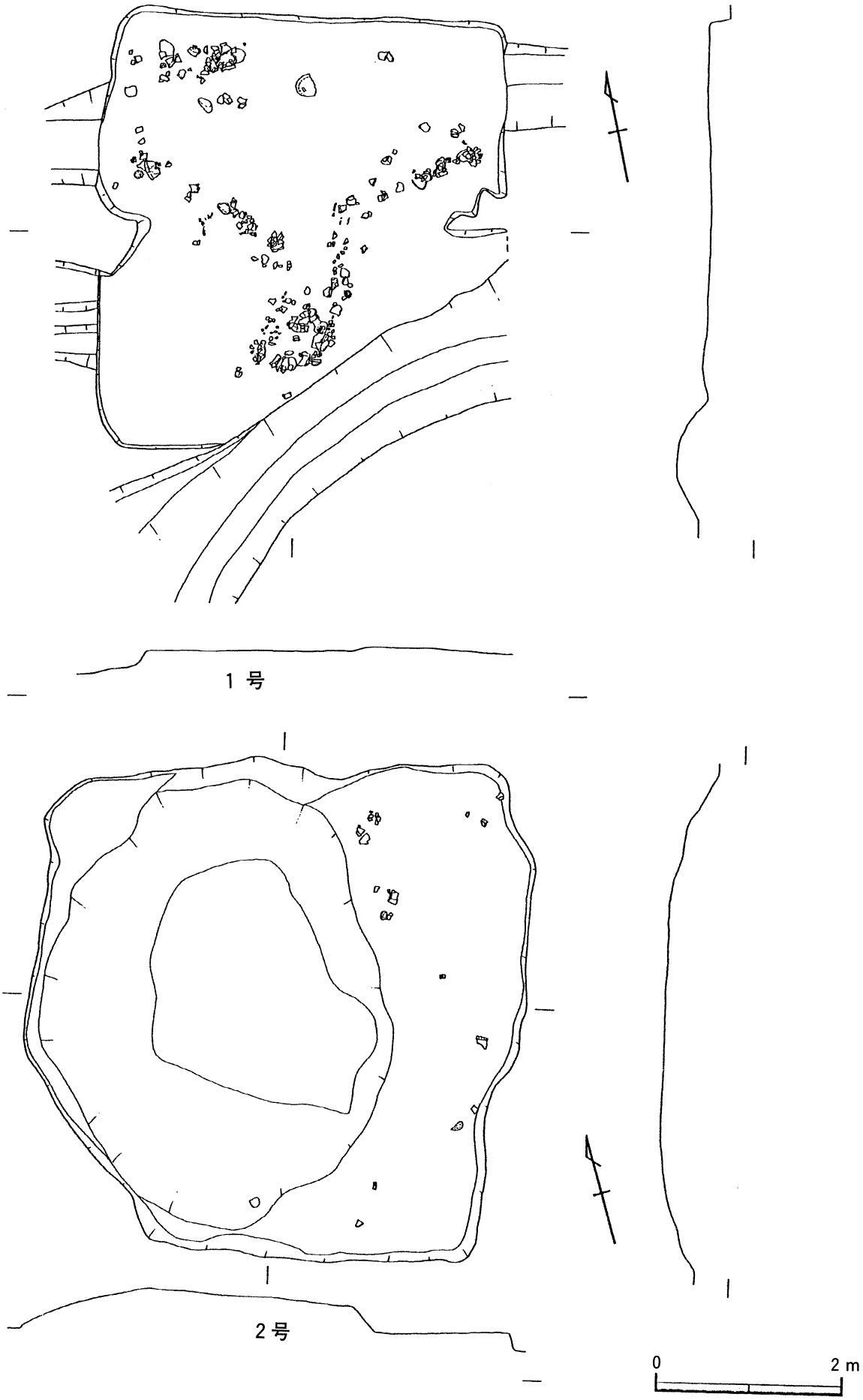
1号土坑（第54図）

2.5m×1.3mの長楕円形で東から西に向かって傾斜しており、東側50cmの所で10cmの段が見られる。

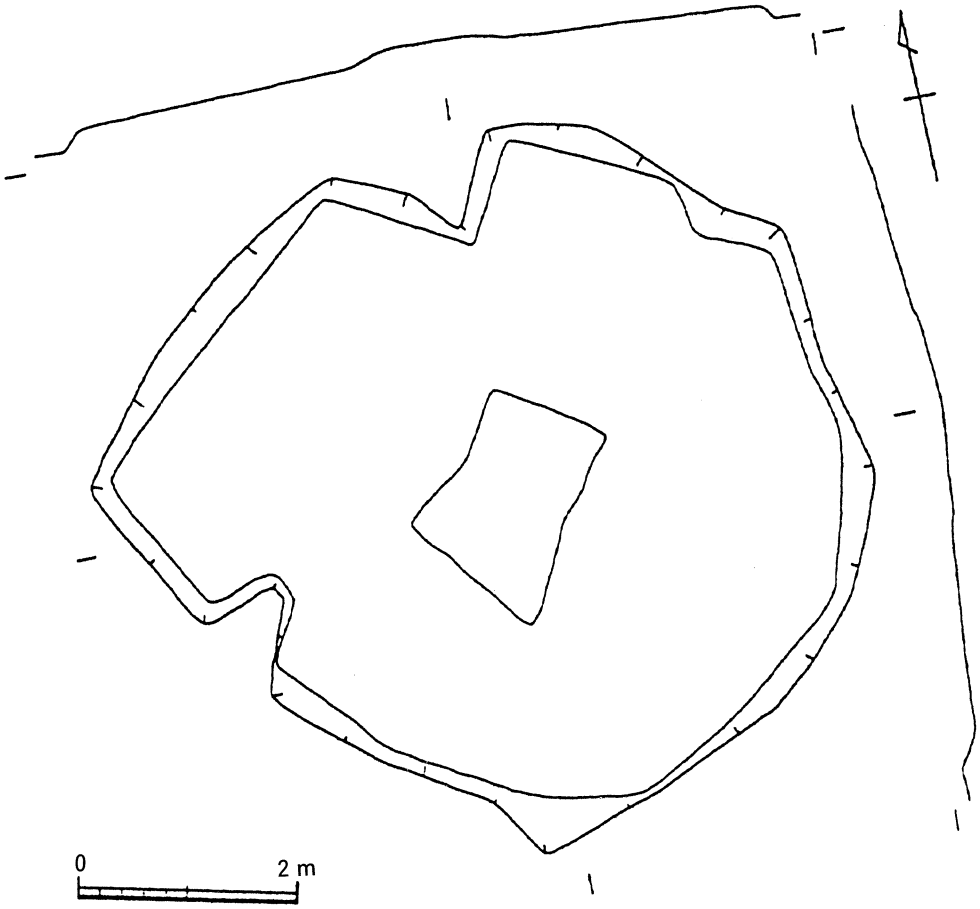
土坑内には2m×0.7mの範囲に土器片を敷き詰めた形になっており、床面から10cm～20cm浮いた位置で東側の段の上端の高さに揃っている。土器は全て破片で使用されており、中心部は平坦に、側部はやや高くして壁を意識した様に感じられる。

土器敷きの上部を使用したのか、土器を覆いにしたのかは不明であり、単なる貯蔵穴の陥没の可能性もある。

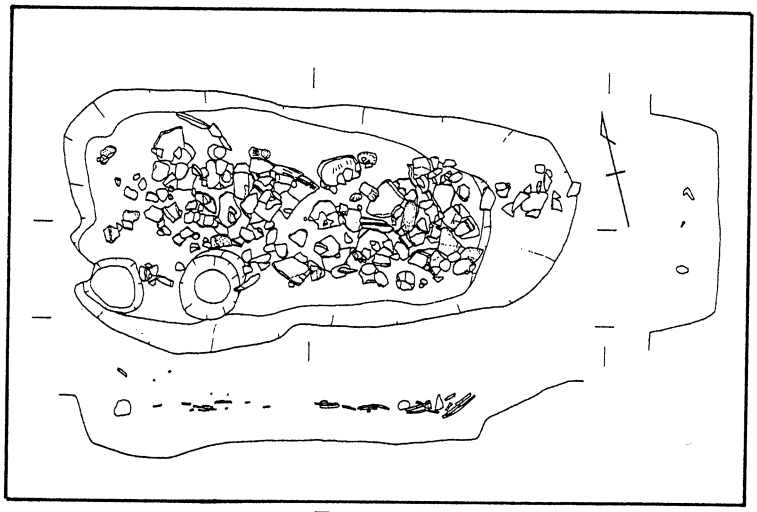
器種としては、壷・甕が出土した。



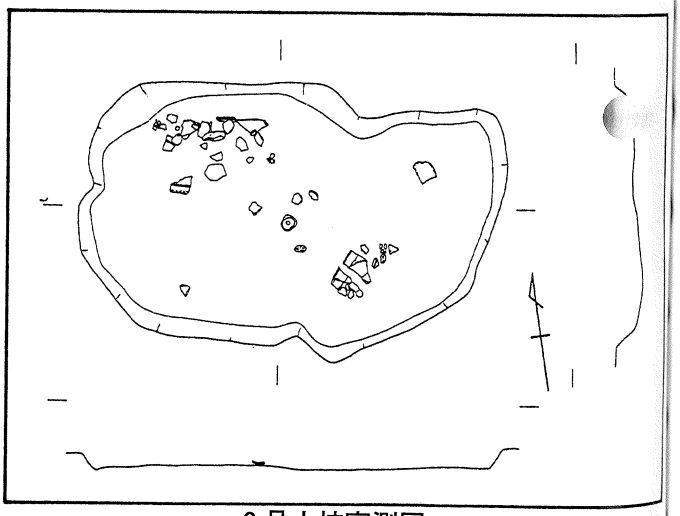
第53図　1号住居、2号竪穴状遺構実測図



3 号竪穴状遺構



1 号土坑実測図



2 号土坑実測図

0 1 m

0 1 m

第54図　3 号竪穴状遺構、1・2 号土坑実測図

２号土坑（第54図）

2.1m×1.3mの不整楕円形で北から南に向かってやや傾斜しており、約10cmの深さを残す。東側1.5m×0.8mの長楕円形と西側1.3m×1.3mの隅丸方形の土坑の切り合いにも思えるが確認出来なかった。

遺物は、床面からやや浮いた形で甕が検出された。

２）遺　物

Ａ．土　器（第55～60図）

竪穴住居出土土器が後期の土器、土坑出土土器は中期後葉の土器中心である。

１号竪穴住居出土土器（第55・56図）

292～294は短頸壷で、292は内面に明瞭にハケ目を残し、293は肩に沈線を入れ小さな平底である。295、296は長頸壷で胴部より頸部が長く、296は２条のヘラ書き文を持つ。297は直行気味の口縁を持つ壷で、298は口縁端をナデ付けて平坦面を作る壷である。299～301は甕で、口縁がくの字外反するもので屈曲部の稜は明瞭ではなく、299は長胴化している。302～304は高坏で、302は口縁部と体部の境に段を持ち強く外反するもの、303、304は脚で裾の開きが短いものである。305は器台で裾の開きは緩やかで円形透かしを入れる。306～310は甕のハの字に開く底部で310を除き上げ底である。311は土製勾玉で尾を欠損し直径1.4cm、残存長4cmである。

２号竪穴状遺構出土土器（第56図）

312～316は甕で、312～314はくの字外反する口縁で、屈曲部の稜はそれぞれである。315、316は上げ底の底部である。

３号竪穴状遺構出土土器（第57図）

317は短頸壷で丸底に近い平底、318は異様に長い頸部を持ち、319は口唇部に刻目を持つ長頸壷である。320は器台で３段の沈線と２段の円形透かしを施す。321は壷の胴部で研磨されている。

１号土坑出土土器（第57・58図）

322～325は壷である。322は口縁部を折曲げ沈線を施し、324は波状文を施し、325は突帯を２条巡らす。326～331は甕である。326、327は逆Ｌ字状口縁で、328～331は直線的に延びる口縁のもので刻目突帯を１乃至２条持つものである。332～334は壷の底部である。335～337は甕の底部で、336、337は外開きで上げ底である。

2号土坑出土土器（第58図）

338は刻目突帯を持つ甕の口縁部、339は逆L字状の口縁に突帯を持つものである。340は甕の底部で指頭痕が明瞭である。

5．その他の遺構と遺物

1）遺　構

1区、2区共に溝状遺構が検出され、1区では4条の溝状遺構が、2区では2条の溝状遺構が検出された。

1区

1号溝　幅5mの大型溝状遺構が調査区東側から中央で直角に曲がり南に向かって行く。この溝は東側では深さ約60cm程あるが、南では痕跡状にしか検出されなかった。また内部は、幅2mの溝が2条並行した形となっており、北寄りの溝がより深いものであった。

2号溝　1号溝の北側にある、東西方向に延びる幅50cmの溝で、1号住居を切る形で検出された。

3号溝　1号住居の西側で直角に曲がる幅50cmの溝で、東側は1号住居を切った後に1号溝と、南側も1号溝と切り合う溝である。

4号溝　調査区南西部で1号溝と切り合い北側すぐに直角に西に曲がる幅3mの溝で2区にそのまま延びるものである。

2区

4号溝－2　1区から続く溝で西向きに延びている。

5号溝　4号溝の南側で東西に延びる幅2mの溝である。2区東側の部分が幅4m程で落ち込んでおり、その部分で土器が集中的に出土することから竪穴住居を破壊した可能性がある。

2）遺　物（第59・60図）

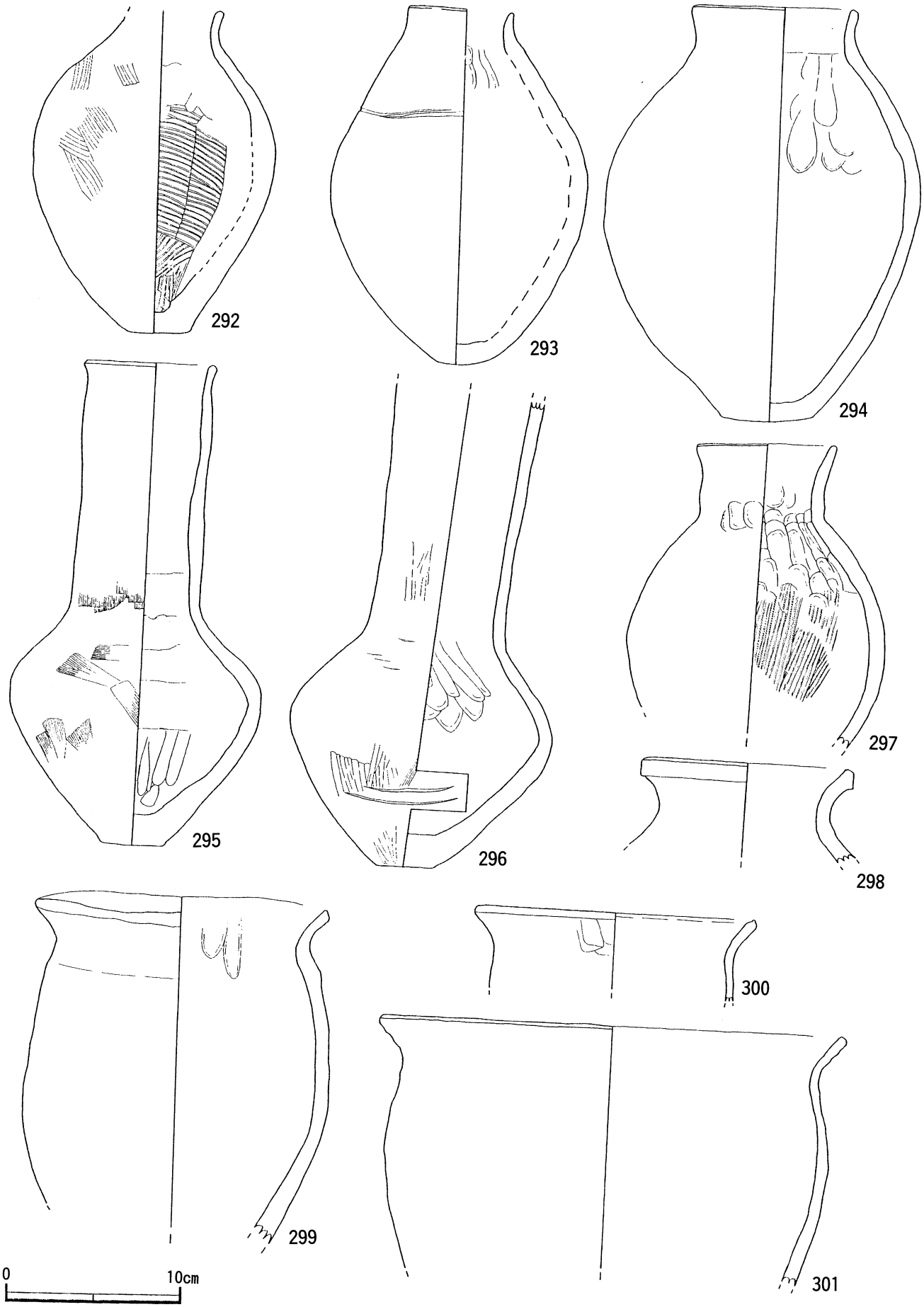
1区の溝状遺構は撹乱状態であり、押型文土器、弥生土器片、陶磁器類まで幅広く出土している。

5号溝出土遺物

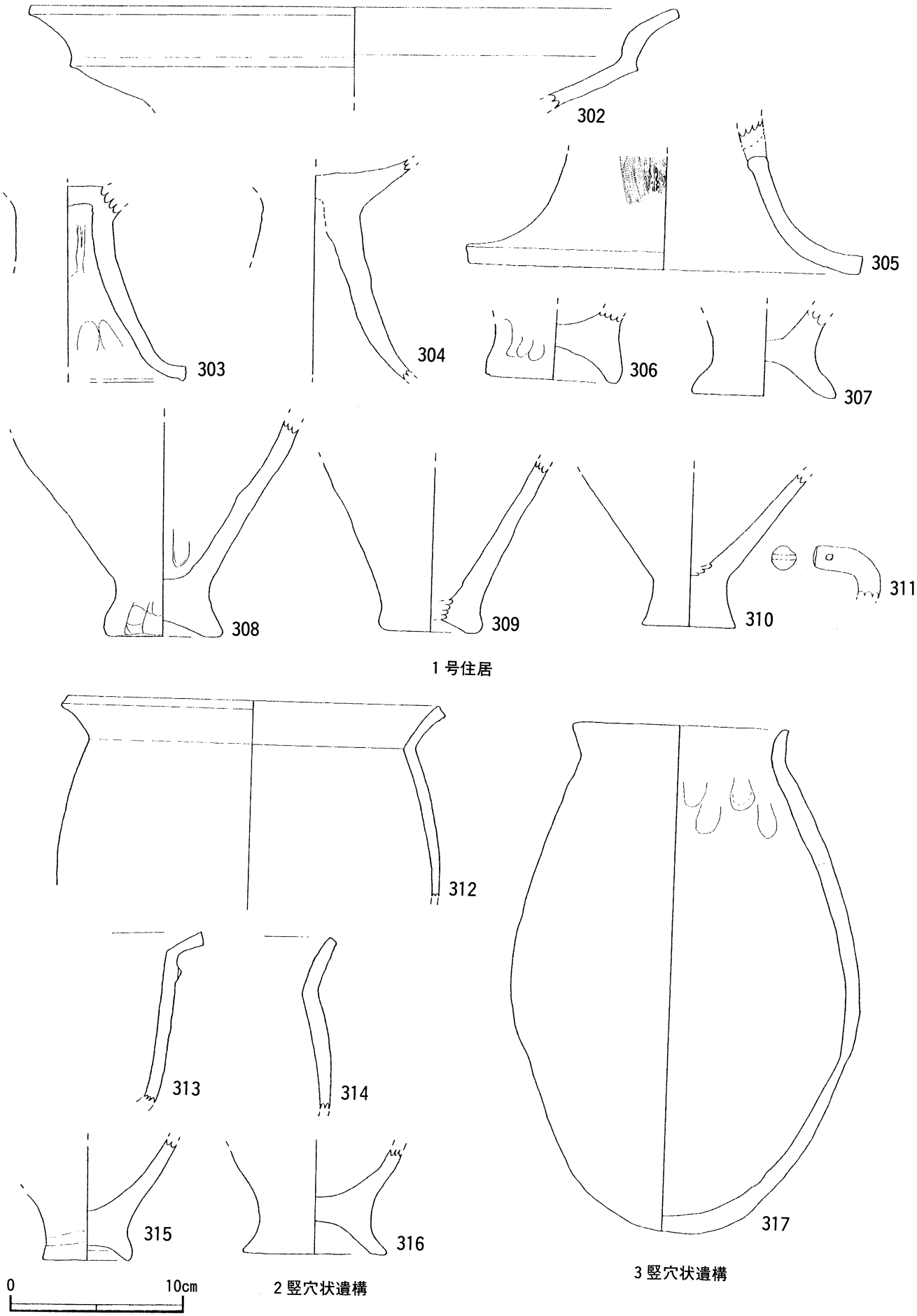
全て2区の落ち込み状部分の出土である。

341は口縁が強くくの字外反する短頸壷で、342は三角突帯を持ち、343は薄い刻目突帯を持つ壷の胴部である。344～351は甕である。344、345、354、355はくの字外反する口縁で刻目突帯を持つもの。346～348、352、353はくの字外反する口縁で屈曲部に稜を持つもの。349は直行する口縁で刻目突帯、350は緩やかに口縁が外反するものである。356、357は高坏の脚部である。358～361は壷の底部である。

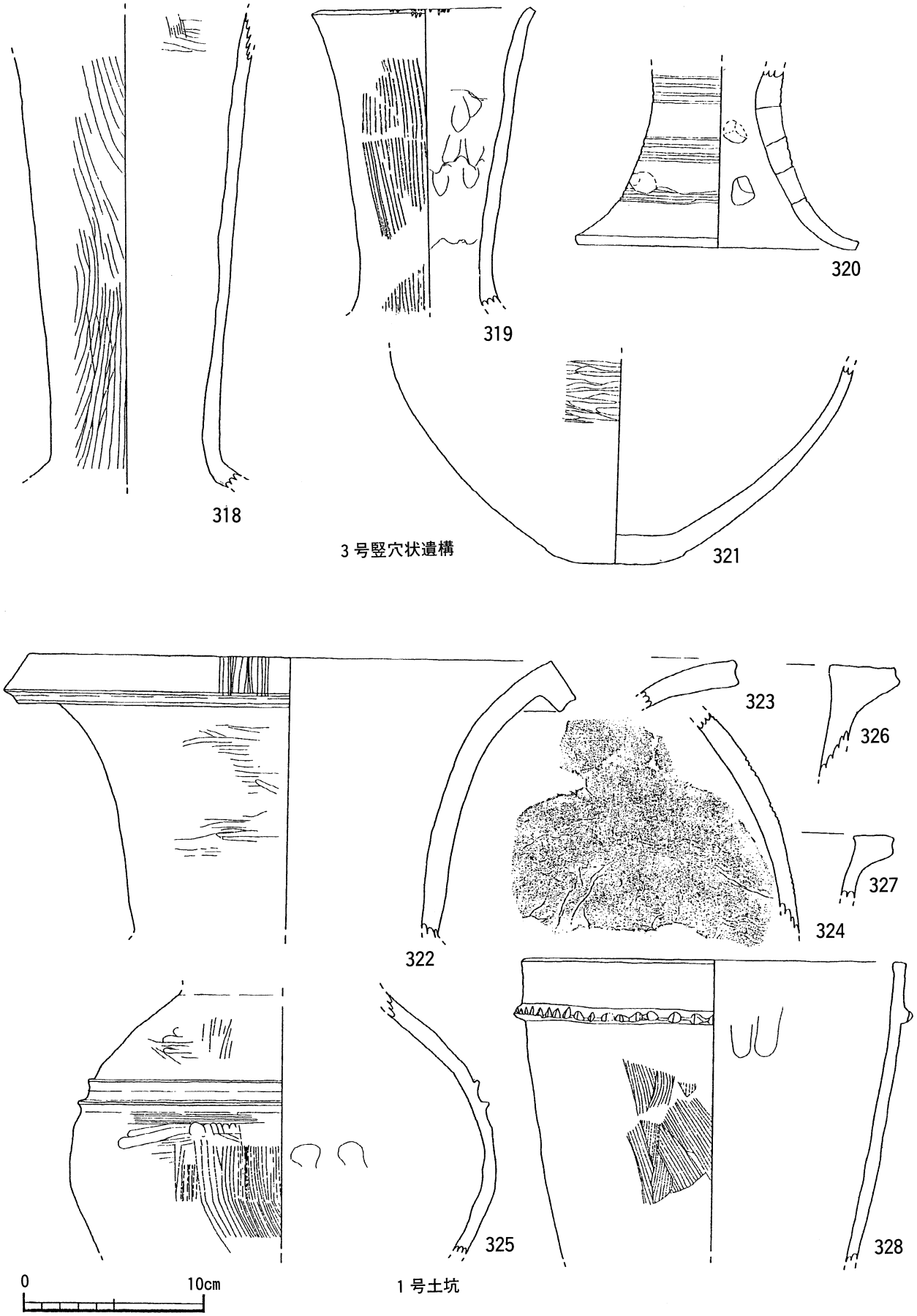
362、363は直行する口縁の甕の底部である。364～367はハの字に開く甕の底部で上げ底である。



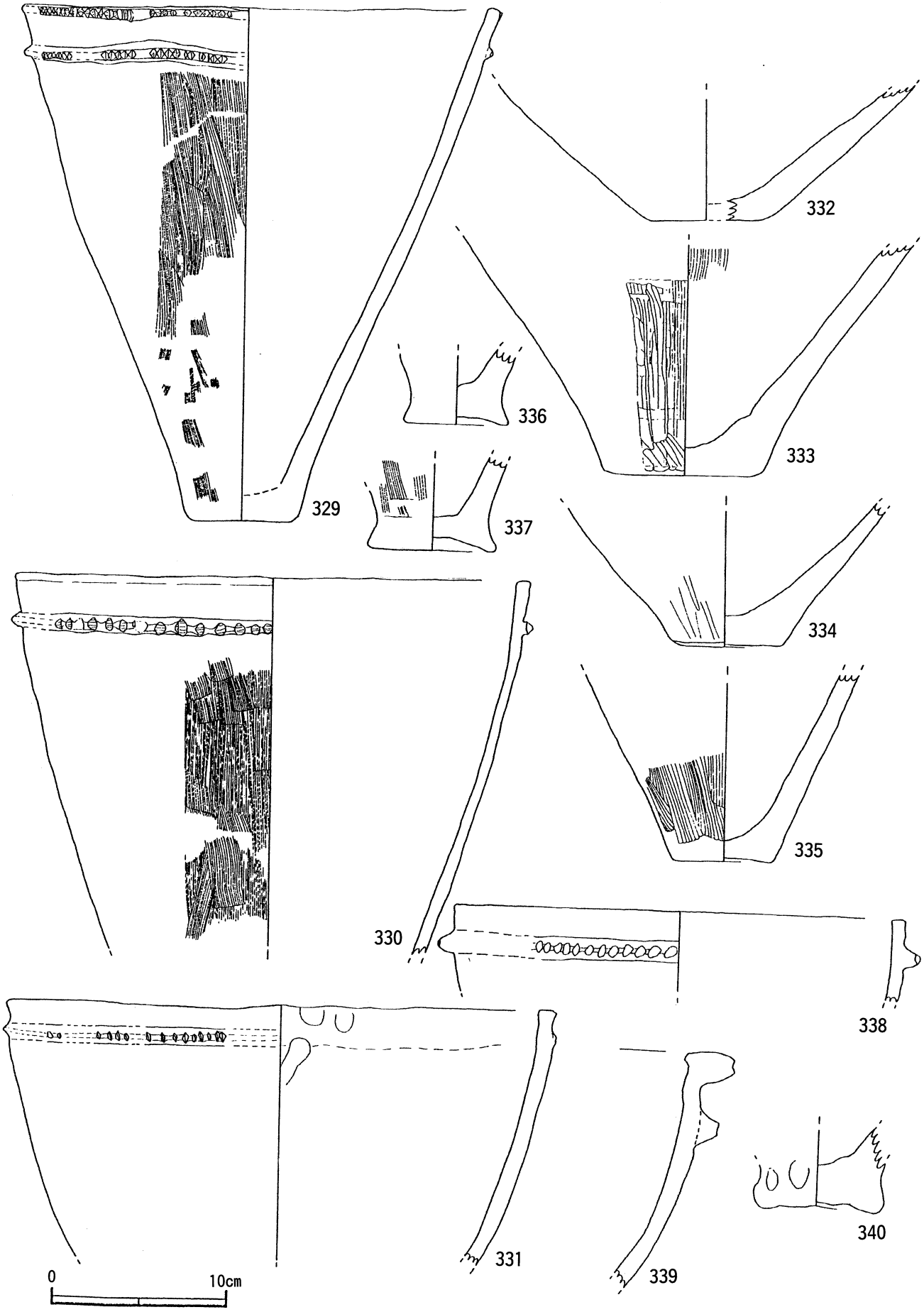
第55図　1号住居出土土器実測図



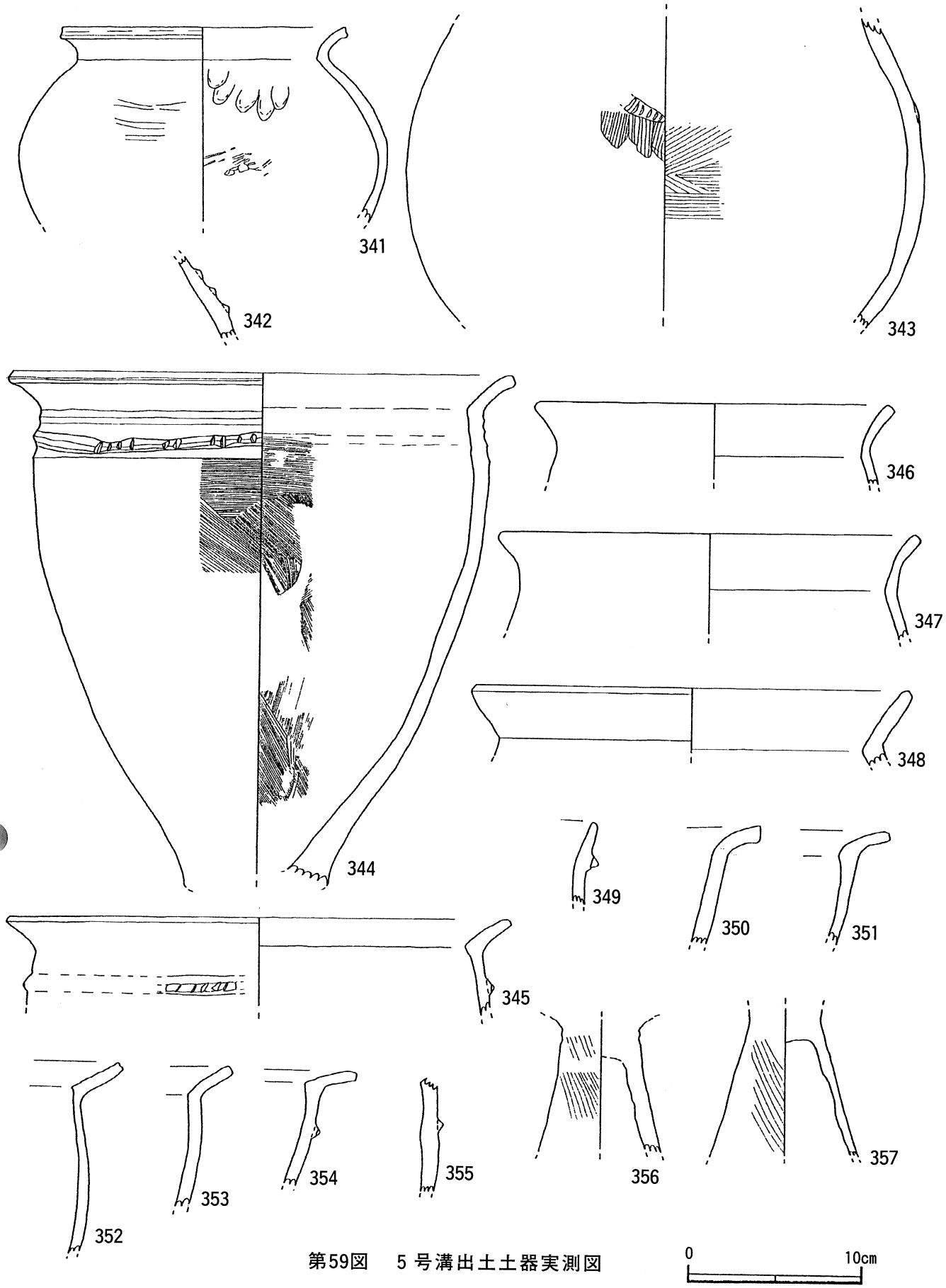
第56図　1号住居、2号・3号竪穴状遺構出土土器実測図



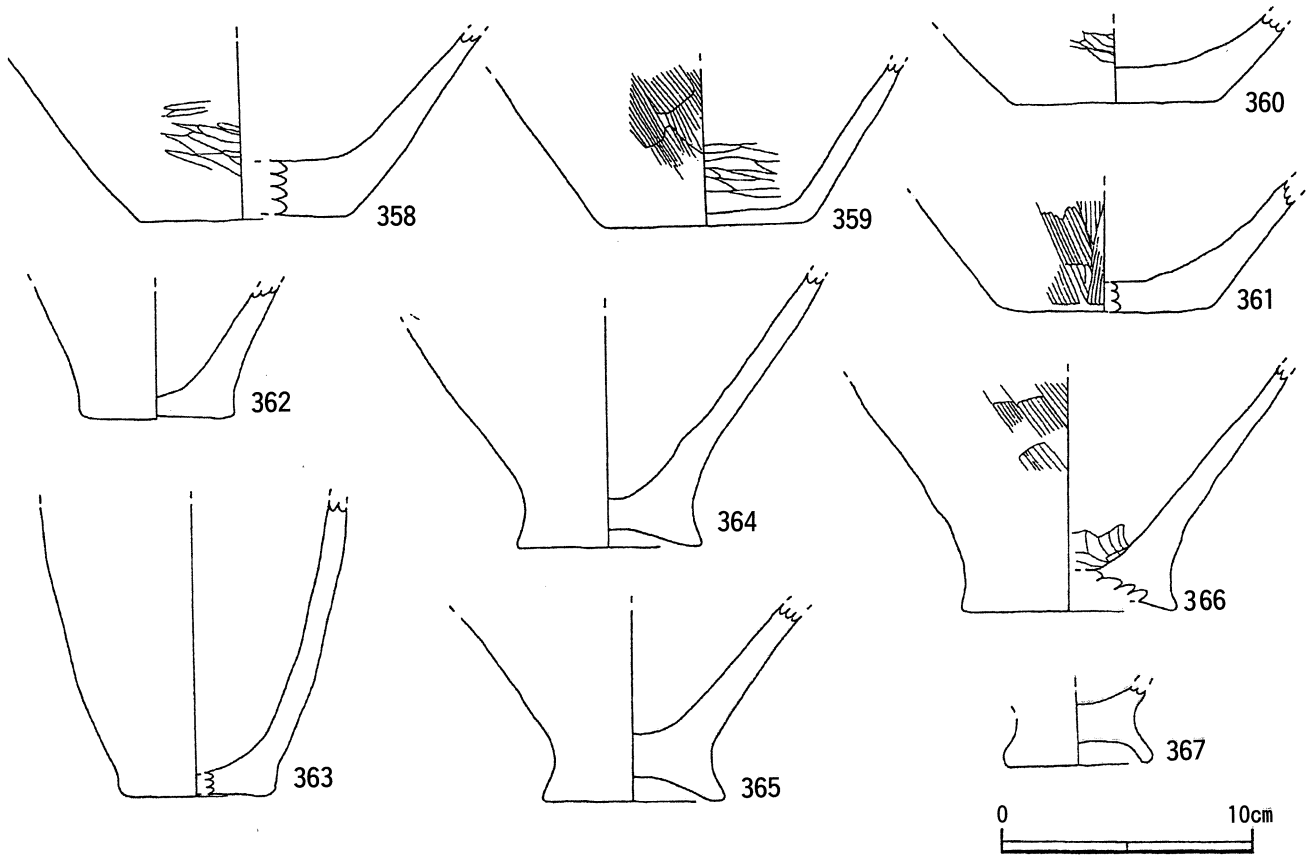
第57図　3号竪穴状遺構、1号土坑出土土器実測図



第58図　1・2号土坑出土土器実測図



第59図　5号溝出土土器実測図



第60図　5号溝出土土器実測図

6．小　結

縄文時代

車坂第3遺跡の縄文時代早期について特徴を挙げると次のようになる。

1　1区では礫、集石の出土量がかなり厚く面的である点

2　2区に石鏃の出土量が多く集中している点

3　土器の出土量がかなり多く面的である点（1区・2区での相違は特に見られなかった）

4　押型文土器の出土率がかなり高く5割を越える点

1については、集石の構築数との関係が最も重要となるが、発掘段階では全体を一様に掘り下げて行った訳であるが、大小の焼礫、円礫、破砕礫が土器片、チップ、剝片等と入れ混じった状態で検出されたため、集石の場所を特定出来なかった。最期に確認トレンチを入れた際に掘り込みを持つ集石を検出したが、これも石の平面的な密集度から判別出来たものではなくトレンチ壁に掘り込みが確認されたものである。総体に言えることは、集石遺構の石の密集度に比べると、集石検出面より上層の石の密集度はやや疎ということである。さらに、土器片、チップ、剝片等と入れ混じった状態であることを考え合わせると、1区の礫層は当初集石を構築した後は、礫や土器等の廃棄に依って形成された、謂わば礫塚とでも言えるものではないだろうか。

2については、出土した石鏃の9割以上が2区の南側に集中している。2区からも集石や礫群は検出されているが1区の様な密集はしておらず、むしろ間遠である。また土器片、チップ、剝片等の多量な出土、有孔石器の出土、並びに1区の状況を考え合わせると、2区には作業場的な役割があったと考えられる。

3については、既に1、2で述べたように本遺跡が作業場や廃棄場としての性格を持った遺跡であれば当然と言えよう。

4については、当遺跡出土の土器は大きく分けて押型文土器、桑ノ丸式土器、下剝峰式土器の3類である。押型文土器の口縁部内面の押圧（沈線）に長短が見られることから2時期あると考えられ、桑ノ丸式土器、下剝峰式土器が時期差と考えられている状況と符号する。また、押型文土器と在地系の土器が供伴することは重要であり、本遺跡の性格を示すものであろう。

押型文土器が大分県の状況と同一の変化を辿るということは、ア．常に人の交流があり情報伝達が行われた、イ．常に土器の搬入が行われていたかであろう。

本遺跡が作業場や礫捨て場であるならば、1区2区の両面から並行する押型文土器と在地系の貝殻文土器が一様に出土することは、アの場合においては、少なくとも生活空間の内、労働部分は共有していたと考えられ、イの場合においては土器の中に作業や生活に必要な物資が入っていたと考えられる。

このように考えてくると、本遺跡は早期の一時期に形成された訳であり、その期間での居住が定住的なものか、移動的なものであるのかが問題となり、押型文土器の編年観を援用し、他遺跡での状況を踏まえての作業が今後の課題として残された。

弥生時代

弥生時代について見ると、1号土坑、2号土坑から逆L字状の口縁を持つ甕等が出土しているから中期中葉頃に利用が始まると思われる。

利用当初は、土坑が見られるだけであるが、用途は不明である。

後期の前葉に2号竪穴状遺構、後期の後葉に1号竪穴住居、3号竪穴状遺構が出現する。このうち2号竪穴状遺構は方形住居と土坑との切り合いの可能性が高く、3号竪穴状遺構は円形の間仕切住居と考えられる。そうすると、1号・3号と異なる平面形の間仕切住居がほぼ同時期に存在し、スリバチ状の土坑も近い時期になるのではないだろうか。1号は1辺4.5m、3号は直径約5.6mと大きさが異なっているが、本遺跡の住居は車坂第2遺跡の間仕切住居と規模が近いが後出するものであり、車坂第1遺跡・同第2遺跡との住居数に比べると少ないものであり、集落規模や丘陵利用の相違が窺われる。

本遺跡の調査の年は、希な冷夏であったうえ、大型台風12号の直撃により、隣接するアパートの屋根瓦が吹き飛ばされて調査区内にかなりの量が突き刺さっていたり、神社の杉の木が倒れてたり折れたりしていた。その光景を目の当たりにして、縄文時代や弥生時代には台風が直撃した際には、どんな状態になったのだろうと感慨に耽ったものである。

第6表　縄文土器観察表

番号	部位	調整	文様	色調	胎土	備考
1	胴部	内面 ナデ		灰褐	4mm以下の砂粒を含む	
		外面 貝殻条痕		赤褐		
2	胴部	内面 ナデ		灰黄	0.5mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による押引文	暗黄		
3	胴部	内面 ナデ		暗褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 貝殻条痕		〃		
4	胴部	内面 ナデ		暗褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ後貝殻条痕		〃		
5	胴部	内面 ナデ		茶褐	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 貝殻条痕		黄褐		
6	口縁部	内面 丁寧なナデ		茶褐	3mm以下の砂粒を含む	穿孔あり
		外面 ナデ	櫛状施文具による綾杉文	〃		
7	口縁部	内面 ナデ		灰黄褐	0.6mm以下の砂粒を多く含む	スス付着
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	暗橙		
8	胴部	内面 ナデ		暗褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	淡茶褐		
9	胴部	内面 丁寧なナデ		黒褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	櫛状施文具による綾杉文	茶褐		
10	胴部	内面 丁寧なナデ		茶褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	櫛状施文具による綾杉文	〃		
11	胴部	内面 ナデ		茶褐	1.5mm以下の砂粒を含む	穿孔あり
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	橙褐		
12	胴部	内面 丁寧なナデ		黒褐	1.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	茶褐		
13	胴部	内面 丁寧なナデ		黒褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	櫛状施文具による綾杉文	茶褐		
14	胴部	内面 丁寧なナデ		黒褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	櫛状施文具による綾杉文	褐		
15	胴部	内面 丁寧なナデ		黒褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	櫛状施文具による綾杉文	茶褐		
16	胴部	内面 丁寧なナデ		黒褐	1.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	茶褐		
17	胴部	内面 丁寧なナデ		暗褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	櫛状施文具による綾杉文	暗橙		
18	口縁部	内面 ナデ		茶褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	横長施文	暗褐		
19	胴部	内面 ナデ		暗赤褐	0.3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	横長施文	暗黄褐		
20	胴部	内面 ナデ		茶褐	1.5mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	横長施文	〃		
21	胴部	内面 ナデ		暗黄橙	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	弧状の施文	橙		
22	胴部	内面 ナデ		茶褐	4mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	弧状の施文	暗橙		
23	胴部	内面 ナデ		茶褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	縦長施文	〃		
24	胴部	内面 ナデ		橙褐	2.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	縦長施文	〃		
25	胴部	内面 ナデ		黒褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	縦長施文	橙褐		
26	胴部	内面 ナデ		茶褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	縦長施文	暗橙		
27	口縁部	内面 ナデ		淡褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	〃		
28	口縁部	内面 ナデ		暗褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	〃		

番号	部位	調整	文様	色調	胎土	備考
29	胴部	内面 ナデ		黒褐	1.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	茶褐		
30	胴部	内面 ナデ		黒褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	暗褐		
31	胴部	内面 ナデ		黄灰	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	黄		
32	胴部	内面 丁寧なナデ		黒褐	1.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	貝殻腹縁による綾杉文	暗褐		
33	胴部	内面 ナデ		褐灰	2.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	明赤褐		
34	胴部	内面 ナデ		褐灰	3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	暗橙		
35	胴部	内面 ナデ		橙褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	〃		
36	胴部	内面 ナデ		茶褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	〃		
37	胴部	内面 ナデ		暗黄橙	3.5mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	暗黄褐		
38	胴部	内面 ナデ		黒褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	褐		
39	胴部～底部	内面 ナデ		暗褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	赤褐		
40	口縁部	内面 ナデ	貝殻腹縁による横方向の	黒褐	2mm以下の砂粒を含む	穿孔あり 列点状
		外面 〃	施文、押引	〃		
41	口縁部	内面 ナデ	貝殻腹縁による横方向の	暗褐	1.5mm以下の砂粒を含む	列点状
		外面 〃	施文、押引	橙褐		
42	胴部	内面 ナデ	貝殻腹縁による横方向の	褐	2mm以下の砂粒を含む	列点状
		外面 〃	施文、押引	〃		
43	胴部	内面 ナデ	貝殻腹縁による横方向の	暗褐	1.5mm以下の砂粒を含む	列点状
		外面 〃	施文、押引	淡暗褐		
44	胴部	内面 ナデ	貝殻腹縁による横方向の	暗褐	5mm以下の砂粒を含む	列点状
		外面 〃	施文、押引	淡褐		
45	胴部	内面 ナデ	貝殻腹縁による横方向の	黒褐	2.5mm以下の砂粒を含む	列点状
		外面 〃	施文、押引	黄褐		
46	口縁部	内面 ナデ		暗橙	0.2mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	灰黄褐		
47	胴部	内面 ナデ		暗黄橙	3mm以下の砂粒を多く含む	列点状
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	〃		
48	胴部	内面 ナデ		淡褐	1.5mm以下の砂粒を含む	列点状
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	淡橙褐		
49	胴部	内面 ナデ		淡褐	2mm以下の砂粒を含む	列点状
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	〃		
50	胴部	内面 ナデ		暗黄	2mm以下の砂粒を多く含む	列点状
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	〃		
51	胴部	内面 丁寧なナデ		淡茶褐	3mm以下の砂粒を多く含む	列点状
		外面 ナデ	貝殻腹縁による綾杉文	〃		
52	胴部	内面 ナデ		茶褐	1.5mm以下の砂粒を含む	列点状
		外面 丁寧なナデ	貝殻腹縁による押引	〃		
53	胴部	内面 ナデ		黒褐	1mm以下の砂粒を含む	列点状
		外面 丁寧なナデ	貝殻腹縁による押引	橙		
54	胴部	内面 ナデ		茶褐	1.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による押引	〃		
55	胴部	内面 ナデ		黒褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による押引	茶褐		
56	胴部	内面 ヘラナデ		灰褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	貝殻腹縁による押引	暗褐		

番号	部位	調整	文様	色調	胎土	備考
57	口縁部	内面 ナデ		暗褐	5mm以下の砂粒を含む	穿孔あり
		外面 〃、研磨	ヘラ状施文具による沈線	灰褐		
58	胴部	内面 丁寧なナデ		茶褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 研磨	ヘラ状施文具による沈線	〃		
59	胴部	内面 ナデ		暗褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 研磨	ヘラ状施文具による沈線	黒褐		
60	胴部	内面 ナデ		淡茶	2.5mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による沈線	〃		
61	胴部	内面 ナデ		黒褐	1.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 研磨	ヘラ状施文具による沈線	茶褐		
62	胴部	内面 ナデ		赤褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による沈線	明赤褐		
63	口縁部	内面 ナデ	ヘラの押圧	暗黄褐	微細な砂粒を多く含む	
		外面 〃	山形押型	明褐		
64	胴部	内面 ナデ	ヘラの押圧	赤褐	1mm以下の砂粒を含む	穿孔あり
		外面 〃	山形押型	〃		
65	口縁部	内面 ナデ	ヘラの押圧	淡褐	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	灰褐		
66	口縁部	内面 ナデ		黄褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	暗褐		
67	口縁部	内面 ヘラナデ		淡褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	山形押型	灰褐		
68	口縁部	内面 ナデ		黒褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	暗褐		
69	口縁部	内面 ナデ		暗灰黄	5mm以下の砂粒を多く含む	穿孔あり
		外面 〃	山形押型	〃		
70	胴部	内面 ナデ		灰褐	8mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	淡褐		
71	胴部	内面 ナデ		暗橙褐	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	暗橙		
72	胴部	内面 ナデ		赤褐	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	暗褐		
73	胴部	内面 ナデ		茶褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	褐		
74	胴部	内面 ナデ		暗褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	黄褐		
75	胴部	内面 ナデ		灰褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	淡褐		
76	胴部	内面 ナデ		暗橙	5.5mm以下の砂粒を多く含む	スス付着
		外面 〃	山形押型	〃		
77	胴部	内面 ナデ		黒褐	4mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	淡褐		
78	胴部	内面 ナデ		暗褐	6mm以下の砂粒を含む	網代底
		外面 〃	山形押型	褐		
79	胴部	内面 ナデ		黄褐	2mm以下の砂粒を多く含む	網代底
		外面 〃	山形押型	〃		
80	胴部	内面 ナデ		暗褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	格子押型	〃		
81	胴部	内面 ナデ		赤灰	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	格子押型	黄橙		
82	胴部	内面 ナデ		橙	0.4mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	楕円押型	暗黄橙		
83	胴部	内面 ナデ		暗褐	0.4mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	楕円押型	暗黄橙		
84	胴部	内面 ナデ		淡褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	楕円押型	〃		

番号	部位	調整	文様	色調	胎土	備考
85	胴部	内面 ナデ		褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	楕円押型	赤褐		
86	口縁部	内面 ナデ		明黄褐	8mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	楕円押型	暗黄橙		
87	胴部	内面 ナデ		黄褐	1mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	楕円押型	〃		
88	胴部	内面 ナデ		橙褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	楕円押型	〃		
89	胴部	内面 ナデ		茶褐	2.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	楕円押型	黄褐		
90	口縁部	内面 ナデ		淡褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	楕円押型、山形押型	〃		
91	胴部	内面 丁寧なナデ		淡黒褐	1.3mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	貝殻腹縁による刺突	暗橙		
92	胴部	内面 ナデ		茶褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による押引	〃		
93	胴部	内面 ナデ		茶褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による押引	〃		
94	胴部	内面 ナデ		茶褐	1.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具の押引	〃		
95	胴部	内面 ナデ		茶褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具の押引	〃		
96	胴部	内面 ナデ		灰褐	1mm以下の砂粒を多く含む	
		外面		褐		
97	胴部	内面 ナデ		褐	砂粒を含む	
		外面		〃		
98	胴部	内面 ナデ		暗赤褐	1mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 貝殻条痕		〃		
99	胴部	内面 ナデ		明赤褐	1.5mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 貝殻条痕		〃		
100	胴部	内面 ナデ		黒褐	砂粒を含む	
		外面 貝殻条痕		淡褐		
101	胴部	内面 丁寧なナデ		暗灰黄	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 貝殻条痕		暗黄褐		
102	口縁部	内面 ナデ		灰褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	横方向の貝殻条痕	黄橙		
103	口縁部	内面 ナデ		灰褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による押圧	暗褐		
104	口縁部	内面 ヘラナデ		暗灰黄	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	横方向の貝殻条痕	暗褐		
105	口縁部	内面 ヘラナデ		灰黄褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	縦方向の貝殻条痕	暗黄橙		
106	胴部	内面 ナデ	櫛状施文具による	黒褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	横方向の施文	灰褐		
107	胴部	内面 ナデ	櫛状施文具による	灰黄	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	縦方向の施文	暗黄褐		
108	胴部	内面 丁寧なナデ	櫛状施文具による	黒褐	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	縦方向の施文	褐		
109	胴部	内面 ナデ	櫛状施文具による	灰褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	横方向の施文	暗褐		
110	胴部	内面 丁寧なナデ	櫛状施文具による	暗黄褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	斜め方向の施文	暗褐		
111	口縁部	内面 ナデ		暗黄橙	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	〃		
112	口縁部	内面 ナデ		黄橙	4mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	暗黄橙		

番号	部位	調整	文様	色調	胎土	備考
113	口縁部	内面 ナデ		暗橙	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	暗褐		
114	口縁部	内面 ナデ		橙	1mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	黒褐		
115	胴部	内面 ナデ		暗褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	暗赤褐		
116	胴部	内面 ナデ		暗褐	3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	〃		
117	胴部	内面 丁寧なナデ		暗黄橙	3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 ナデ	櫛状施文具による綾杉文	暗黄褐		
118	胴部	内面 丁寧なナデ		明褐灰	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	褐		
119	胴部	内面 ナデ		黒褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	褐		
120	胴部	内面 ナデ		黒褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	褐		
121	胴部	内面 丁寧なナデ		暗褐	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 ナデ	櫛状施文具による綾杉文	〃		
122	胴部	内面 ナデ		灰褐	3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	櫛状施文具による綾杉文	暗褐		
123	胴部	内面 ナデ		暗黄	1.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	流水文状	暗灰黄		
124	胴部	内面 ナデ		暗黄褐	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	流水文状	明褐		
125	胴部	内面 ナデ		暗褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	流水文状	〃		
126	胴部	内面 ナデ		黄	7mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	流水文状	明褐		
127	胴部	内面 ナデ		黒褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	弧状の施文	暗褐		
128	胴部	内面 ナデ		明褐灰	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	弧状の施文	黒灰褐		
129	胴部	内面 ナデ		暗灰黄	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	弧状の施文	明黄褐		
130	胴部	内面 ナデ		黄橙	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	弧状の施文	明黄褐		
131	胴部	内面 ナデ		灰褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	弧状の施文	暗褐		
132	胴部	内面 ナデ		黒褐	砂粒を含む	
		外面 〃	弧状の施文	暗褐		
133	胴部	内面 ナデ		暗灰黄	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	弧状の施文	黄褐		
134	胴部	内面 ヘラナデ	櫛状施文具による	黒褐	砂粒を含む	
		外面 ナデ	浅く掻いたような施文	暗黄褐		
135	胴部	内面 ナデ	櫛状施文具による	暗黄褐	3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	浅く掻いたような施文	〃		
136	胴部	内面 ナデ	櫛状施文具による	暗橙	3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	浅く掻いたような施文	暗褐		
137	口縁部	内面 ナデ		暗褐	2mm以下の砂粒を含む	横方向の刺突あり
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	〃		
138	口縁部	内面 ナデ		暗褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	黒褐		
139	口縁部	内面 ナデ		灰褐	微細な砂粒を含む	横方向の刺突あり
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	〃		
140	胴部	内面 ナデ		暗灰褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	暗褐		

番号	部位	調整	文様	色調	胎土	備考
141	胴部	内面 ナデ		黒褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	褐		
142	胴部	内面 ナデ		暗黄	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	黒褐		
143	胴部	内面 ナデ		暗褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	〃		
144	胴部	内面 ナデ		褐	1mm以下の砂粒を含む	横方向の沈線あり
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	暗褐		
145	胴部	内面 ナデ		暗褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	褐		
146	胴部	内面 ナデ		暗褐	砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	〃		
147	胴部	内面 ナデ		灰黄褐	5mm以下の砂粒を含む	縦方向の刺突あり
		外面 〃	貝殻腹縁による綾杉文	暗黄橙		
148	胴部	内面 ナデ	貝殻腹縁による横方向	黒褐	1mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	の施文	暗褐		
149	胴部	内面 ヘラナデ	貝殻腹縁による横方向	黒褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	の施文	暗褐		
150	胴部	内面 ナデ	貝殻腹縁による横方向	暗灰黄	1mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	の施文	暗褐		
151	底部	内面 ナデ		黄橙	3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 丁寧なナデ	貝殻腹縁による刺突	暗褐		
152	口縁部	内面 ナデ	貝殻腹縁による綾杉文、	暗褐	1mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	横方向の列点文	暗黄褐		
153	口縁部	内面 ナデ	貝殻腹縁による綾杉文、	淡褐	1mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	横方向の列点文	〃		
154	口縁部	内面 ナデ	貝殻腹縁による綾杉文、	暗褐	6mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	横方向の列点文	黒褐		
155	口縁部	内面 ナデ	貝殻腹縁による綾杉状	暗褐	1mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	の列点文	黒褐		
156	胴部	内面 ナデ	貝殻腹縁による綾杉状	灰黄褐	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	の列点文	暗黄褐		
157	胴部	内面 ナデ	貝殻腹縁による綾杉状	黒褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	の列点文	暗褐		
158	胴部	内面 ヘラナデ	貝殻腹縁による綾杉状	灰褐	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 ナデ	の列点文	暗褐		
159	胴部	内面 ヘラナデ	貝殻腹縁による綾杉状	暗褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	の列点文	〃		
160	胴部	内面 ナデ	貝殻腹縁による綾杉状	黒褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	の列点文	暗褐		
161	口縁部	内面 ヘラナデ	貝殻腹縁による綾杉状	暗褐	2mm以下の砂粒を多く含む	スス付着
		外面 ナデ	の列点文	黒褐		
162	胴部	内面 ナデ	貝殻腹縁による綾杉状	暗灰黄	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	の列点文	暗黄褐		
163	胴部	内面 ヘラナデ	貝殻腹縁による綾杉状	暗黄褐	3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 ナデ	の列点文	〃		
164	口縁部	内面 丁寧なナデ	貝殻腹縁による列点文、	黄灰	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 ナデ	押引	赤褐		
165	口縁部	内面 ナデ	ヘラの押圧、山形押型	灰褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	暗褐		
166	口縁部	内面 ナデ		暗褐	0.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	明黄褐		
167	口縁部	内面 ナデ		暗褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	黒褐		
168	口縁部	内面 ナデ		暗黄橙	3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	山形押型	〃		

番号	部位	調整	文様	色調	胎土	備考
169	口縁部	内面 ナデ		褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	〃		
170	口縁部	内面 ヘラナデ		暗褐	4mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	山形押型	褐		
171	口縁部	内面 丁寧なナデ		灰褐	4mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	山形押型	暗褐		
172	口縁部	内面 ナデ		明褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	暗褐		
173	口縁部	内面 ナデ		暗褐	微細な砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	〃		
174	口縁部	内面 ナデ		淡黄褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	暗褐		
175	口縁部	内面 丁寧なナデ		暗黄褐	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	山形押型	〃		
176	胴部	内面 ナデ	山形押型	暗褐	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	〃	〃		
177	胴部	内面 ナデ	山形押型	暗黄褐	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	〃	〃		
178	胴部	内面 ナデ		暗赤褐	7mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	山形押型	〃		
179	胴部	内面 ナデ		黒褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	暗黄橙		
180	胴部	内面 ナデ		暗褐	6mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	山形押型	〃		
181	胴部	内面 ナデ		暗褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	〃		
182	胴部	内面 ナデ		灰褐	砂粒を含む	
		外面 〃	山形押型	淡黄褐		
183	口縁部	内面 ナデ	楕円押型	暗赤褐	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	〃	赤褐		
184	口縁部	内面 ナデ	楕円押型	灰褐	砂粒を含む	
		外面 〃	〃	黒褐		
185	口縁部	内面 ナデ	楕円押型、ヘラの押圧	暗褐	砂粒を含む	
		外面 〃	〃	〃		
186	口縁部	内面 ナデ	楕円押型	暗黄橙	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃		暗黄褐		
187	口縁部	内面 ナデ	楕円押型、ヘラの押圧	灰黄褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	〃	暗灰黄		
188	口縁部	内面 ナデ		灰白	6mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	楕円押型	黒褐		
189	口縁部	内面 ナデ	楕円押型	暗橙	5mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	〃	暗黄橙		
190	口縁部	内面 ナデ		暗橙	6mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	楕円押型	〃		
191	口縁部	内面 ナデ	楕円押型	暗褐	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃		灰褐		
192	胴部	内面 ナデ		暗褐	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	楕円押型	〃		
193	口縁部	内面 ナデ		灰褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による押引	〃		
194	口縁部	内面 ナデ		暗褐	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による押引	黄		
195	胴部	内面 ナデ		暗灰黄	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	貝殻腹縁による押引	黄橙		
196	胴部	内面 ナデ		暗赤褐	4mm以下の砂粒を多く含む	網代底
		外面 〃	貝殻腹縁による押引	明赤褐		

番号	部位	調整	文様	色調	胎土	備考
197	胴部	内面 ナデ		灰黄褐	5mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 貝殻条痕	縦方向の条痕	暗赤褐		
198	胴部	内面 ナデ	櫛状施文具による縦線、	灰黄褐	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による横線	暗黄褐		
199	口縁部	内面 ナデ		灰黄褐	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による格子文	暗褐		
200	口縁部	内面 ナデ	ヘラ状施文具による横、	暗褐	1mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	斜めの沈線	褐		
201	胴部	内面 ナデ		黒褐	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による横の沈線	褐		
202	口縁部	内面 ナデ		暗褐	1mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による綾杉文	〃		
203	口縁部	内面 ナデ		暗灰黄	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による綾杉文	〃		
204	胴部	内面 ナデ		暗黄	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による横の沈線	明赤褐		
205	胴部	内面 ナデ		灰黄褐	1mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	ヘラ状施文具による綾杉文	暗褐		
206	胴部	内面 ナデ		暗褐	1mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	棒状施文具による刺突	赤褐		
207	胴部	内面 ナデ		暗赤褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	棒状施文具による刺突	〃		
208	口縁部	内面 丁寧なナデ		暗褐	砂粒を含む	
		外面 貝殻条痕後ナデ		灰褐		

第７表　石器観察表

番号	器　種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重　量（g）	石　　材	備　　考
209	石　鏃	2.7	1.9	0.35	1.50	チャート	
210	石　鏃	3.1	1.85	0.5	1.60	チャート	
211	石　鏃	2.55	2.0	0.4	1.27	チャート	
212	石　鏃	2.45+α	2.15	0.45	1.75	チャート	
213	石　鏃	2.7	1.75	0.4	1.24	チャート	
214	石　鏃	3.7+α	2.0+α	0.55	2.40	チャート	
215	石　鏃	1.5	1.4	0.35	0.41	チャート	
216	石　鏃	2.2	1.6	0.4	0.92	チャート	
217	石　鏃	2.4+α	1.9+α	0.4	1.39	チャート	
218	石　鏃	2.0	1.9	0.4	0.90	チャート	
219	石　鏃	2.65	1.6	0.5	1.23	チャート	
220	石　鏃	2.1+α	1.6+α	0.4	0.74	チャート	
221	石　鏃	2.9	2.4	0.45	2.24	チャート	
222	石　鏃	1.7	1.6	0.35	0.57	チャート	
223	石　鏃	2.2	1.7	0.4	1.15	チャート	
224	石　鏃	3.3	2.1	0.6	2.38	安山岩	
225	石　鏃	2.95	1.8	0.4	1.29	チャート	
226	石　鏃	1.45	1.1	0.2	0.23	黒曜石	
227	石　鏃	1.6+α	1.75	0.4	0.76	チャート	
228	石　鏃	1.85	1.5	0.45	0.82	チャート	
229	石　鏃	1.85	1.45	0.2	0.34	黒曜石	
230	石　鏃	2.1+α	1.75	0.55	1.35	流紋岩	
231	石　鏃	2.9	2.1+α	0.55	2.21	頁岩	
232	石　鏃	2.0	1.8	0.5	1.10	チャート	
233	石　鏃	2.4	1.8+α	0.5	1.29	チャート	
234	石　鏃	2.5+α	1.6+α	0.4	1.29	流紋岩	
235	石　鏃	1.25+α	1.8+α	0.4	0.60	チャート	
236	石　鏃	2.55	1.95	0.65	1.60	チャート	

番号	器　種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重　量（g）	石　　材	備　　考
237	石 鏃	2.45	2.1+α	0.6	2.01	チャート	
238	石 鏃	1.85	1.6+α	0.4	0.70	チャート	
239	石 鏃	2.15	2.1	0.45	1.14	チャート	
240	石 鏃	1.65	1.8	0.3	0.54	チャート	
241	石 鏃	1.9	1.8	0.3	0.88	チャート	
242	石 鏃	2.3+α	2.4	0.4	1.42	チャート	
243	石 鏃	2.2+α	2.7	0.45	2.25	チャート	
244	石 鏃	1.95+α	2.65	0.45	1.86	チャート	
245	石 鏃	2.2	2.05	0.5	1.64	チャート	
246	石 鏃	2.3	2.55	0.5	2.11	チャート	
247	石 鏃	1.9	1.8	0.5	0.85	チャート	
248	石 鏃	2.2	2.4	0.45	1.66	チャート	
249	石 鏃	2.55	2.55	0.5	1.83	チャート	
250	石 鏃	2.0	2.1	0.5	1.05	チャート	
251	石 鏃	1.6	1.4	0.35	0.55	チャート	
252	石 鏃	2.35	2.05	0.4	1.20	チャート	
253	石 鏃	2.35	1.75	0.5	1.23	チャート	
254	石 鏃	1.55+α	1.3+α	0.4	0.81	チャート	
255	石 鏃	2.2	1.7+α	0.35	0.93	チャート	
256	石 鏃	2.1	1.4+α	0.35	0.62	黒曜石	
257	石 鏃	1.7+α	1.65+α	0.4	0.74	チャート	
258	石 鏃	2.7	2.2+α	0.5	1.76	黒曜石	
259	石 鏃	1.35	1.1	0.3	1.32	チャート	
260	石 鏃	1.9	2.0	0.35	1.03	チャート	
261	石 鏃	2.9	1.7	0.5	1.80	チャート	
262	石 鏃	2.6	2.1	0.45	1.54	チャート	
263	石 鏃	2.8+α	1.56	0.45	1.42	チャート	
264	石 鏃	2.15+α	1.62+α	0.28	0.79	黒曜石	

番号	器　種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重　量（g）	石　　材	備　　考
265	石 鏃	2.0	2.12	0.56	1.17	チャート	
266	石 鏃	1.9	1.2	0.45	0.65	チャート	
267	石 鏃	1.55	1.4	0.25	0.45	チャート	
268	石 鏃	1.9	1.25	0.4	0.54	黒曜石	
269	石 鏃	2.1	1.5+α	0.35	0.80	黒曜石	
270	石 鏃	1.2	1.0+α	0.2	0.18	黒曜石	
271	石 鏃	1.5	1.2	0.3	0.35	黒曜石	
272	石 鏃	1.7	1.4	0.2	0.39	チャート	
273	石 鏃	2.1	1.5	0.35	1.05	チャート	
274	石 鏃	2.4	2.4	0.4	2.21	チャート	
275	石 鏃	2.0	1.3	0.35	0.57	黒曜石	
276	石 鏃	2.4	1.9	0.4	1.66	チャート	
277	石 鏃	2.25	1.9	0.2	0.72	チャート	
278	石 鏃	2.1	1.9	0.4	0.99	チャート	
279	石 鏃	1.7	1.5	0.35	0.61	チャート	
280	石 鏃	2.1	1.75	0.3	1.01	チャート	
281	石 鏃	2.9	1.95	0.55	2.75	チャート	
282	石 鏃	2.3	1.2	0.55	1.31	チャート	
283	石 鏃	2.5	1.9	0.55	2.07	チャート	
284	石 鏃	3.05	2.55	0.45	2.65	チャート	
285	石 鏃	2.35	1.9	0.45	1.53	チャート	
286	石 鏃	1.9	1.55	0.45	0.97	チャート	
287	石 鏃	1.4	1.1+α	0.2	0.23	チャート	
288	凹 石	6.5	7.95	3.5	255	砂岩	
289	凹 石	7.6	6.6	3.0	230	砂岩	
290	凹 石	10	7.6	4.5	477	砂岩	
291	有孔石器	5.4	4.8	2.23	100	頁岩	

第8表　弥生土器観察表

番号	器種	調整	色調	胎土	備考
292	壷	内面 ナデ、ハケ	茶褐	3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃 、〃	赤茶		
293	壷	内面 ナデ	赤茶	7mm以下の砂粒を多く含む	肩に沈線
		外面 〃	〃		
294	壷	内面 ナデ	肌	4mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	赤茶		
295	壷	内面 ナデ	黒灰	4.5mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃 、ハケ	肌		
296	壷	内面 ナデ	褐	5mm以下の砂粒を多く含む	ヘラの沈線
		外面 〃 、研磨	肌		
297	壷	内面 ナデ、ハケ	赤茶	4mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	〃		
298	壷	内面 ナデ	黄土	0.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	〃		
299	甕	内面 ナデ	肌	3mm以下の砂粒を多く含む	スス付着
		外面 〃	〃		
300	甕	内面 ナデ	淡茶	0.3mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 〃 、ヘラナデ	茶		
301	甕	内面 ナデ	赤茶	0.4mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	〃		
302	高坏	内面 ナデ	肌	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	〃		
303	高坏	内面 ナデ	肌	4mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	〃		
304	高坏	内面 ナデ	灰黒	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	淡茶		
305	器台	内面 ナデ	黄褐	3mm以下の砂粒を含む	透し
		外面 〃 、ハケ	〃		
306	甕	内面 ナデ	黄土	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	〃		
307	甕	内面 ナデ	こげ茶	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃 、ヘラナデ	肌		
308	甕	内面 ナデ	赤茶	4mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	黄土		
309	甕	内面 ナデ	黒灰	4mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	黄土		
310	甕	内面 ナデ	肌	4mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	〃		
311	土製勾玉	内面 ナデ	淡灰	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	黄白		
312	甕	内面 ナデ	黄白	砂粒を多く含む	
		外面 〃 、ハケ	〃		
313	甕	内面 ハケ後ナデ	黄灰	2mm以下の砂粒を含む	貼り付け突帯
		外面 ナデ	〃		
314	甕	内面 ハケ後ナデ	黄橙	2mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 ナデ	黄灰		
315	甕	内面 ハケ後ナデ	赤橙	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	赤褐		
316	甕	内面 ナデ	黄白	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 ハケ後ナデ	〃		
317	壷	内面 ナデ	淡褐	0.5mm以下の砂粒を含む	
		外面 ハケ	淡橙		
318	壷	内面 研磨、ナデ	黒灰	2mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	黄土		
319	壷	内面 ナデ	黄褐	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃 、ハケ	〃		

番号	器種	調整	色調	胎土	備考
320	器台	内面 ナデ	淡茶	0.1mm以下の砂粒を含む	透し、沈線
		外面 丁寧なナデ	〃		
321	壷	内面 ナデ	黒灰	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 研磨	焦茶		
322	壷	内面 丁寧なナデ	黄土	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ、研磨	〃		
323	壷	内面 ナデ	褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	赤茶		
324	壷	内面 ナデ	灰	0.1mm以下の砂粒を含む	沈線、波状文
		外面 〃、研磨	茶		
325	壷	内面 ナデ	淡茶	4mm以下の砂粒を含む	貼り付け突帯
		外面 研磨、ハケ	茶		
326	甕	内面 ナデ	茶	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	淡茶		
327	甕	内面 ナデ	茶	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃	茶褐		
328	甕	内面 ナデ	淡茶	5mm以下の砂粒を含む	貼り付け突帯
		外面 〃、ハケ	〃		
329	甕	内面 ナデ	黄褐	4mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 〃、ハケ	〃		
330	甕	内面 ナデ	淡茶褐	10mm以下の砂粒を多く含む	刻目、沈線 貼り付け突帯
		外面 〃、ハケ	黄褐		
331	甕	内面 ナデ	淡褐	微細な砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	褐		
332	壷	内面 ナデ	黄土	砂粒を含む	
		外面 〃	灰		
333	壷	内面 ハケ	黄土	1.3mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃、ナデ、研磨	〃		
334	壷	内面 ナデ	灰	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃、研磨	淡茶		
335	甕	内面 ナデ	茶	5mm以下の砂粒を含む	
		外面 ハケ	〃		
336	甕	内面 ナデ	灰褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	黄褐		
337	甕	内面 ナデ	褐	砂粒を含む	
		外面 〃、ハケ	〃		
338	甕	内面 ナデ	褐	1.5mm以下の砂粒を含む	貼り付け突帯、刻目
		外面 〃	〃		
339	甕	内面 ナデ	茶	1mm以下の砂粒を含む	貼り付け突帯
		外面 〃	淡茶		
340	甕	内面 ナデ	褐	2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃、ハケ	赤茶		
341	壷	内面 ナデ	黄土	0.2mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃、研磨	〃		
342	壷	内面 ナデ	茶	砂粒を含む	貼り付け突帯
		外面 〃	灰		
343	壷	内面 ハケ	黒灰	微細な砂粒を含む	
		外面 〃	橙褐		
344	甕	内面 ハケ後ナデ	淡褐	3mm以下の砂粒を含む	刻目
		外面 ハケ後丁寧なナデ	〃		
345	甕	内面 ナデ	橙褐	0.3mm以下の砂粒を含む	貼り付け突帯
		外面 〃	黄褐		
346	甕	内面 ナデ	褐	砂粒を含む	
		外面 〃、ハケ	〃		
347	甕	内面 ナデ	淡褐	0.4mm以下の砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	〃		

番号	器種	調整	色調	胎土	備考
348	甕	内面 ナデ	明茶	微細な砂粒を含む	
		外面 〃	〃		
349	甕	内面 ナデ	淡褐	5mm以下の砂粒を含む	貼り付け突帯、刻目
		外面 〃、ハケ	〃		
350	甕	内面 ナデ、ハケ	灰褐	0.3mm以下の砂粒を多く含む	
		外面 〃、〃	〃		
351	甕	内面 ナデ	淡褐	砂粒を含む	貼り付け突帯
		外面 〃	橙褐		
352	甕	内面 ナデ	茶	砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	〃		
353	甕	内面 ナデ	灰褐	砂粒を含む	スス付着
		外面 〃	淡褐		
354	甕	内面 ナデ	黄褐	砂粒を含む	貼り付け突帯、刻目
		外面 〃	淡褐		
355	甕	内面 ハケ	淡黒	2mm以下の砂粒を含む	貼り付け突帯
		外面 〃、ナデ	淡褐		
356	高坏脚	内面 ナデ	黒灰	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃、研磨	〃		
357	高坏脚	内面 ナデ	黄褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃、研磨	黄土		
358	壷	内面 ナデ	灰	微細な砂粒を多く含む	
		外面 〃、ハケ、研磨	赤茶		
359	壷	内面 研磨	黒灰	微細な砂粒を含む	
		外面 ナデ、ハケ	肌		
360	壷	内面 ナデ	肌	0.3mm以下の砂粒を含む	沈線
		外面 研磨	黒灰		
361	壷	内面 ―	―	微細な砂粒を含む	スス付着
		外面 ハケ	淡褐		
362	甕	内面 ナデ	褐	砂粒を含む	スス付着
		外面 ハケ	焦茶		
363	甕	内面 ナデ	黄土	砂粒を含む	
		外面 〃	〃		
364	甕	内面 ナデ	黄褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	〃		
365	甕	内面 丁寧なナデ	茶	3mm以下の砂粒を含む	
		外面 ナデ	〃		
366	甕	内面 ナデ	淡黒	微細な砂粒を含む	スス付着
		外面 〃、ハケ	赤茶		
367	甕	内面 ナデ	茶褐	1mm以下の砂粒を含む	
		外面 〃	茶		

第５章　山下第１遺跡の調査

１．調査の概要（第61図）

本遺跡は車坂・山下遺跡群のほぼ中央に位置し、車坂第３遺跡のある本丘陵とは小さな入り込み谷を挟んだ枝丘陵上にあり、蜜柑園として利用されていた区域である。

発掘調査は、丘陵全体を対象としたが、縄文時代の調査は丘陵の平坦部を対象として東西方向にグリッドを２列設定し、南側をＡ列、北側をＢ列、西から東に向かってそれぞれ１～４に分割した。

丘陵は全体的に東に緩やかに傾斜しており、南側は東に向かうにつれて１段下がった形になっている。蜜柑園にする際に、排水溝や１ｍ四方の苗を植える穴等を空けているうえに蜜柑の栽培中に枝や摘果したものを埋め込む穴等が掘られているため、全体としてはかなり撹乱されている。

時期不明の大型の溝状遺構が丘陵のほぼ中央を東西に延びている。

弥生時代の遺構は表土直下の赤ホヤ層で確認されており、調査区全体に広がる竪穴住居群、溝状遺構、土器溜が検出された。

縄文時代早期の集石遺構を赤ホヤ層下面で検出した。

弥生時代の遺構は調査区の東半分では残りの良いものがあったが、総体に壁の残りは悪く床面のみの検出例も多く見られた。縄文時代の遺構としては集石が見られただけであるが丘陵平坦面に広く検出され、取り分け東側のＢ－４グリッドでは礫が密集状態になり集石との区分が出来なかった。遺物は散石と入り混じった状態で出土し、中には30cm大の石の下敷きになって検出された土器もあった。

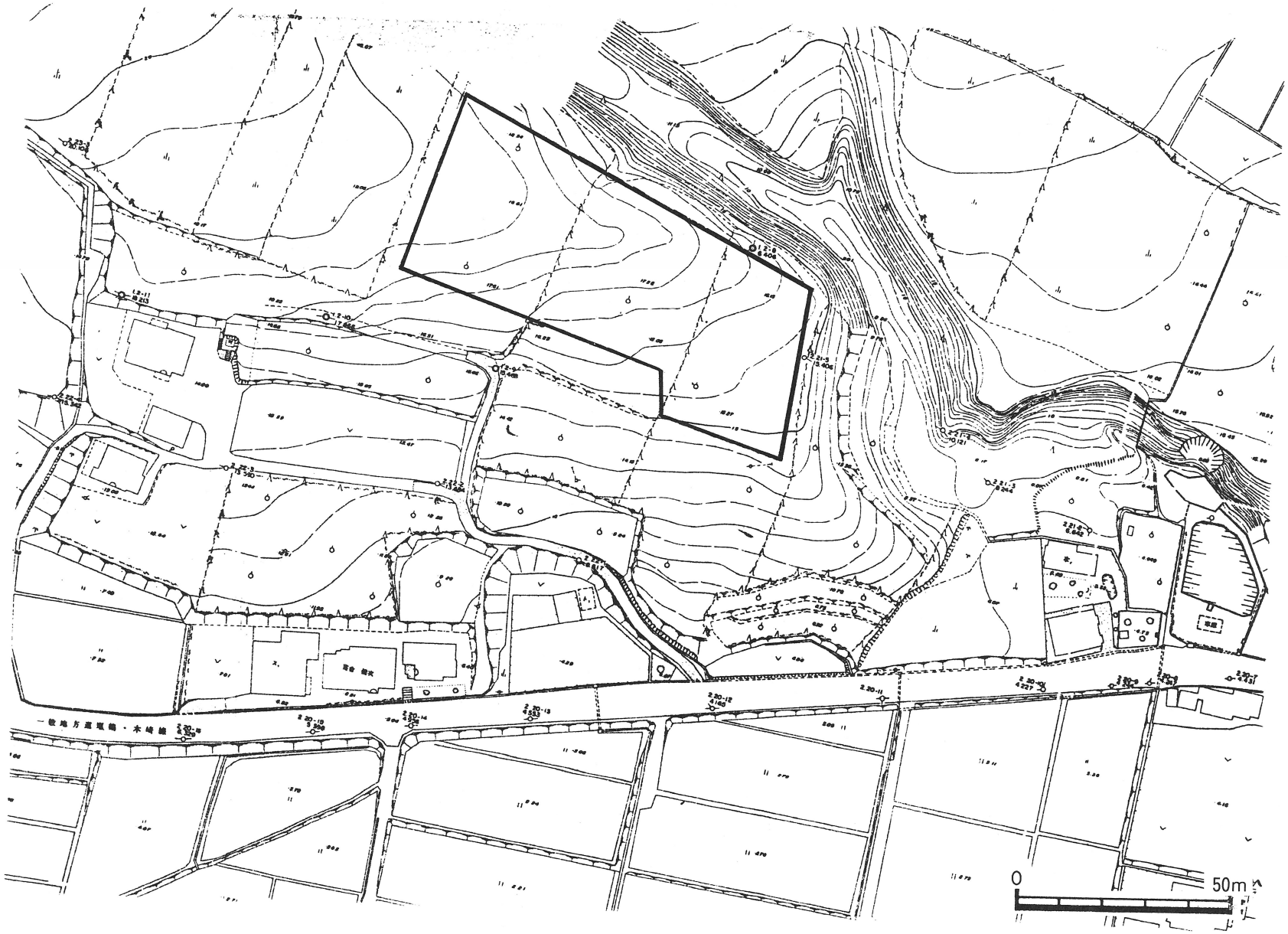
２．層　位（第62図）

本遺跡の基本層序は、Ⅰ層　表土（耕作土）．Ⅱ層　赤ホヤ層．Ⅲ層　黄白色ローム層．Ⅳ層　黒褐色ローム層．Ⅴ層　黄褐色ローム層．Ⅵ層　褐色ローム層．Ⅶ層　黒色ブロック混入褐色ローム層．Ⅷ層　シラス層である。

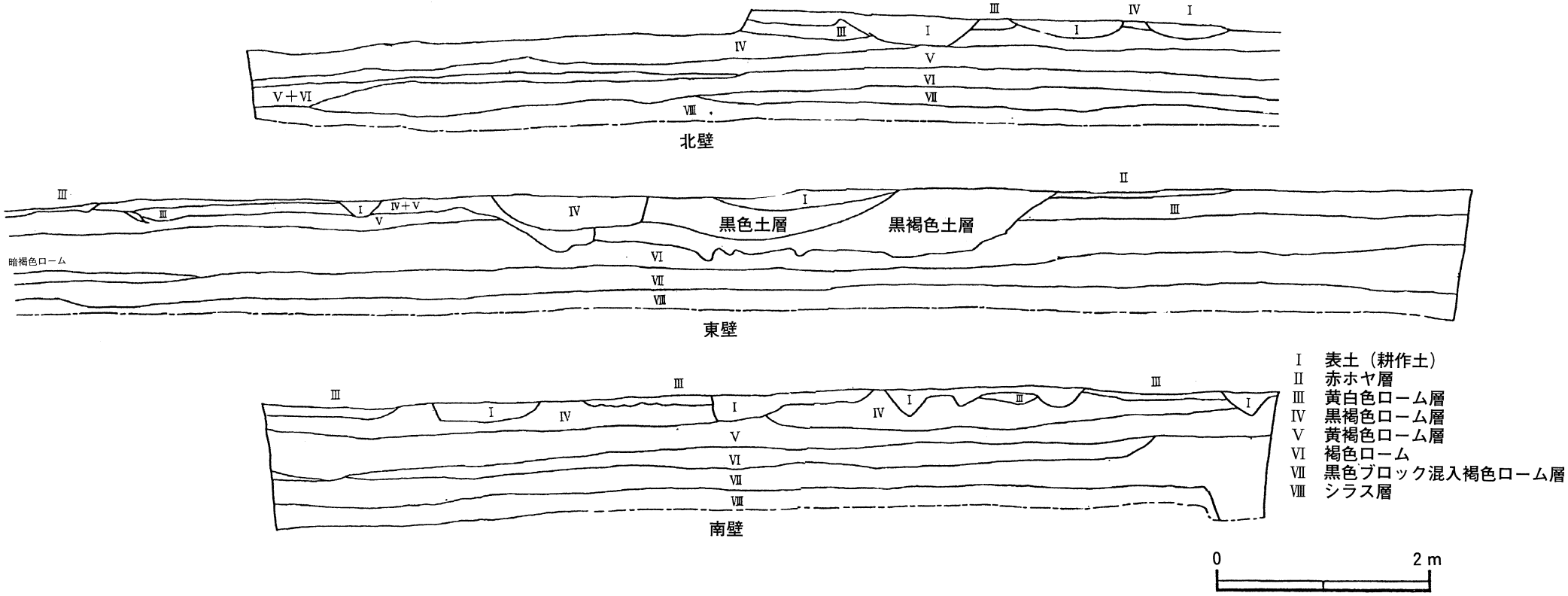
本来は、赤ホヤ層の上に黒色土層があったものと思われるが、削平及び耕作によりなくなっている。丘陵南側に行くにつれて徐々に削平されており、Ｂ－４グリッドではⅣ層黒褐色ローム層まで及んでいた。

溝状遺構の埋土は黒色土と表土の撹乱状態であり、弥生時代の遺構埋土は淡黒色土であった。

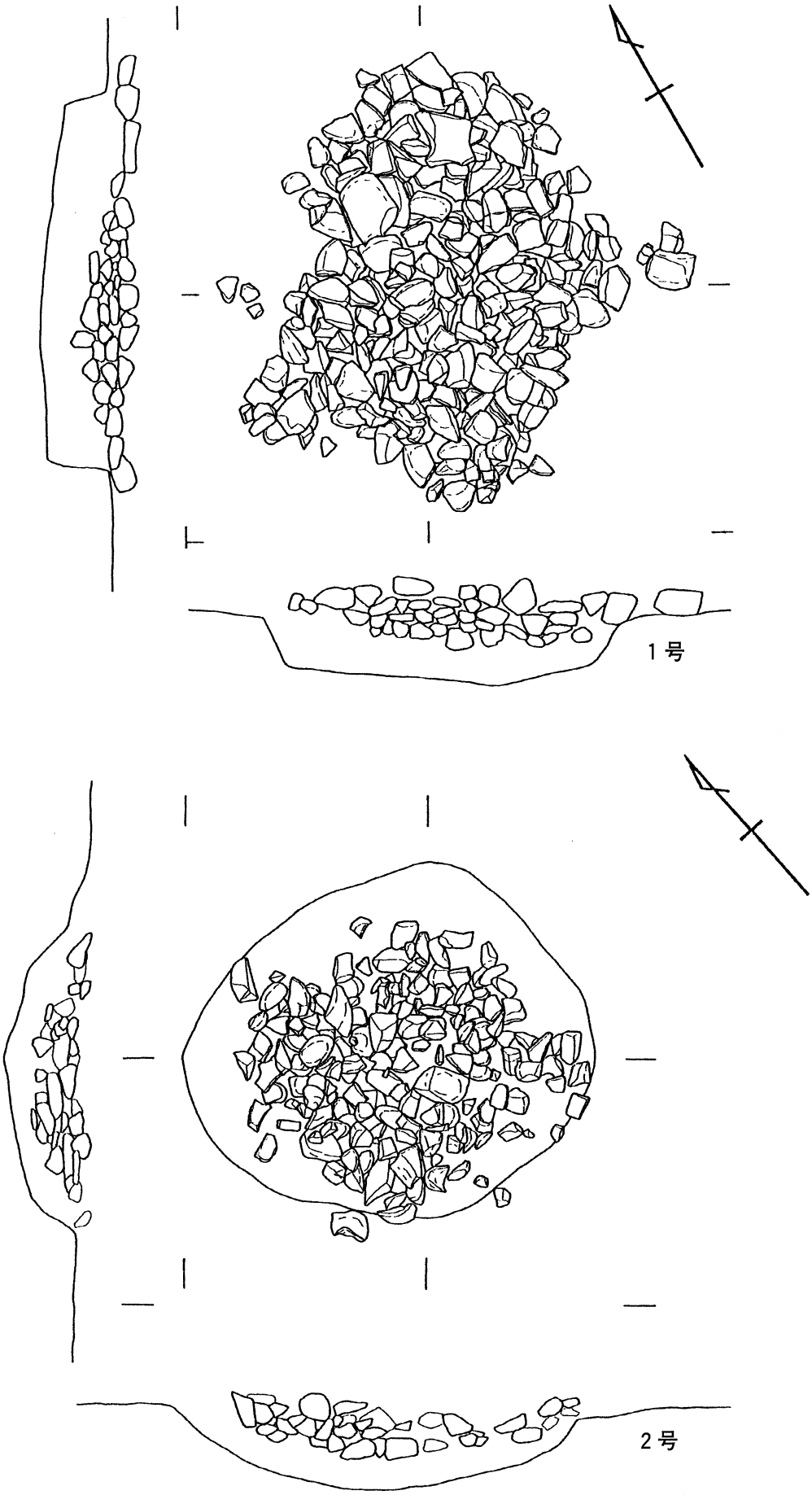
縄文時代早期の遺物は、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ層で検出された。



第61図　山下第１遺跡位置図



第62図　Ａ１グリッド土層図



第63図　1・2号集石実測図

3．縄文時代の遺構と遺物

1）遺　構（第63図）

縄文時代の遺構としては集石遺構が検出された。

集石遺構は検出状況により3種類に分けられる。

1類は、円形に円礫や破砕礫が集中するもの

2類は、黒色土の回りに礫が見られるもの

3類は、不整形な状態で礫が集まっているもの

B－4グリッドを除くと集石遺構は土器包含層と同一面で確認され、散石の間に石の集中した部分や黒く変色した土の部分が看取されるため、比較的容易に1類・2類は検出される。しかし、B－4グリッドでは、礫の密集が著しく下部にある集石が判別できない状態であり、言うなれば1類、2類の集石遺構の上に3類集石遺構が載る様なものである。

2類の集石遺構は1類の集石遺構から上部の礫を取り除いたもので、3類はその取り除いた礫を廃棄した1類2類の集石遺構の上に被せたものとも思われる。

このうち、1、2類はスリバチ状の掘り込みを有し、掘り込み内に礫が隙間なく充填されており、内部の礫の状態により2種類に区分できる。

1種は拳大の円礫や破砕礫が掘り込み底部まで一様に詰まっているもの

2種は掘り込み底部に30cm程の台石状の平たい石を置き、その上に拳大の円礫や破砕礫が詰まっているものである。

2）遺　物（第64～71図）

出土した縄文時代の遺物は早期の土器と石鏃を主とした石器類であり、調査区全域から検出された。中でも押型文土器の出土量が約6分の1程あること、縦型の石匙が出土したこと、大量のチップ、剝片が出土したことが特徴である。

A．土　器（第65～70図）

出土した土器は全て縄文時代早期の土器であり、調整、文様、器形等から次のように分類される。

1類　貝殻条痕土器類（前平式・石坂式土器類）貝殻条痕による調整を行うもの　1～20

口唇部に刺突、口縁部にヘラ状の押圧文を施すもの　1～3、5

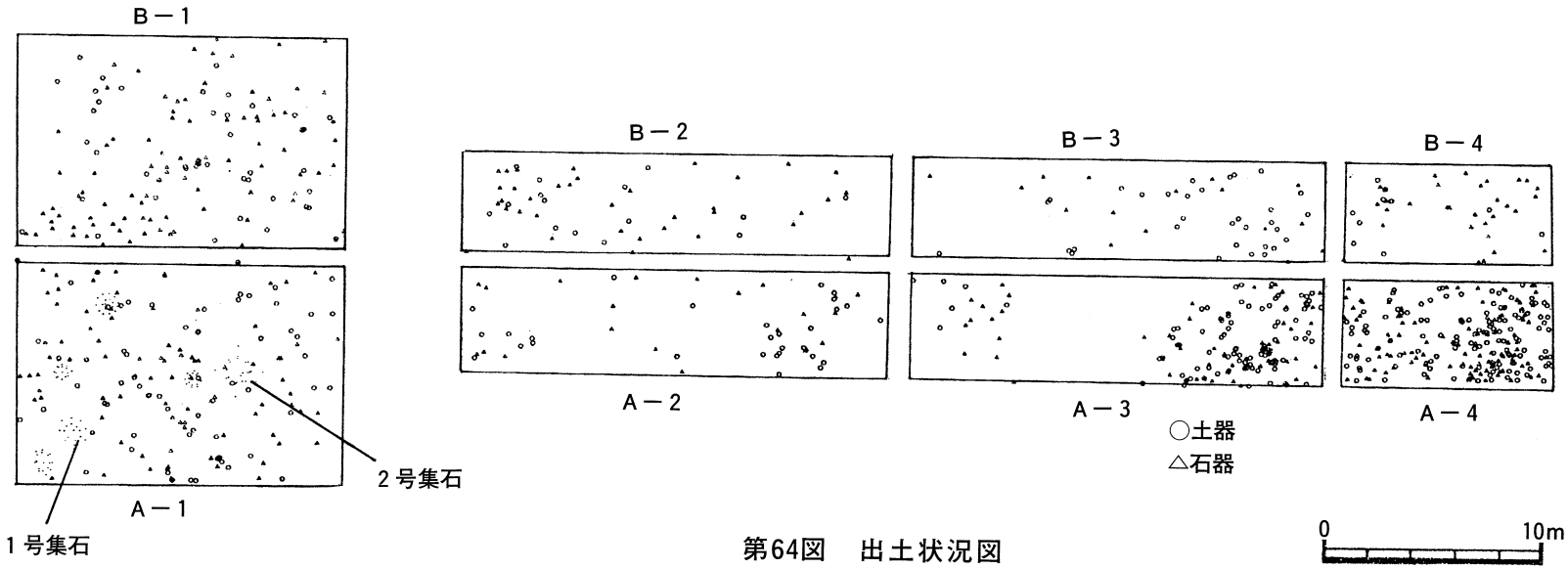
口縁部にヘラ状の押圧文を施すもの　4、6、7、8

口縁部に貝による刺突文を入れるもの　9

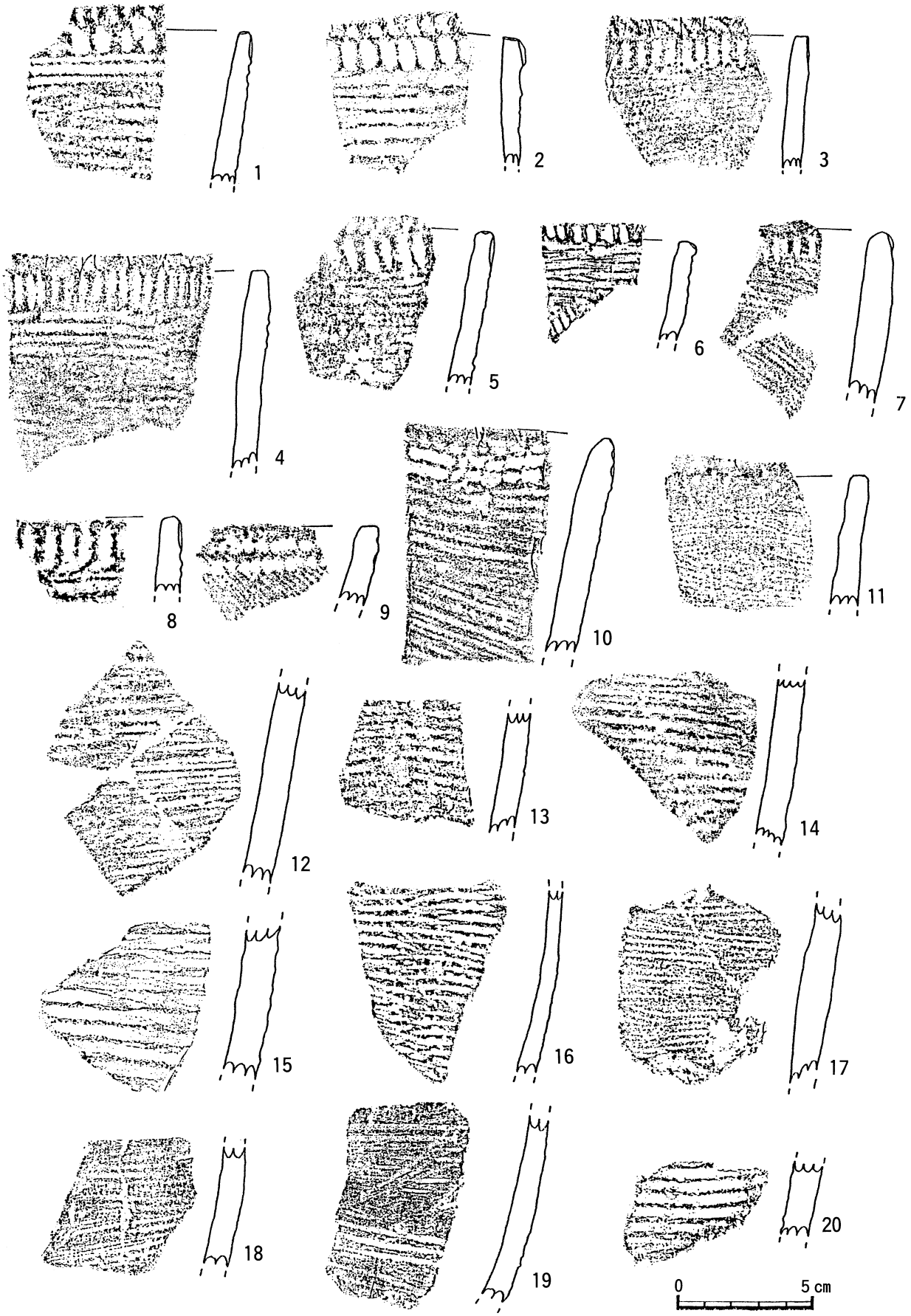
口縁部にヘラ状施文具による押引状の刺突を入れるもの　10

口縁部をナデ、以下を横の条痕　11

12～20は胴部で横方向の条痕である。条痕の入れ方は太く幅広のものから細く密なものまで多様である。



第64図　出土状況図



第65図　出土土器実測図

２類　桑ノ丸式土器類　口縁端を平に仕上げ、内外面をナデた後に櫛状施文具（貝殻か）による文様を施すもの。21～43

ａ口唇部に刻目を入れ、胴部に荒く斜格子状の施文をするもの　21、22、23

口唇部に刻目を入れ、横と斜めの施文をするもの　24

口唇部はナデ、胴部は縦に近い斜めの施文　25、26

27～29は胴部で綾杉文に近いものがある。

ｂ綾杉文状の施文をするもの　30～36、38～43

流水文状の施文をするもの　37

文様形態では以上の様に区分できるが、文様の密集したもの　30、31、40　格子状となるもの　32～34　等の変化がみられる。

３類　下剝峰式土器類　口縁端を平に仕上げ、内外面をナデた後に貝殻腹縁の刺突による列点文を施すもの。44～54

横方向の列点を施文するもの　44、51、52、54

縦方向に列点を施文するもの　45、53

綾杉状の列点を施文するもの　46～50

52～54は列点文と刺突文の中間的な施文となっている。

４類　ヘラ状工具による施文を施すもの　55～59

口唇部に刻目を入れ、ヘラ状工具によるナデを施すもの　55

斜めの沈線を入れるもの　56

綾杉状の沈線を入れるもの　57～59

格子状の沈線を入れるもの　62

57、62は貝殻腹縁の可能性がある。

５類　押型文土器

ａ　楕円押型　60～63

原体の楕円の大きさにより、楕円が大型のもの　61、楕円が中型のもの　60、楕円が小型のもの　62、63に分類される。

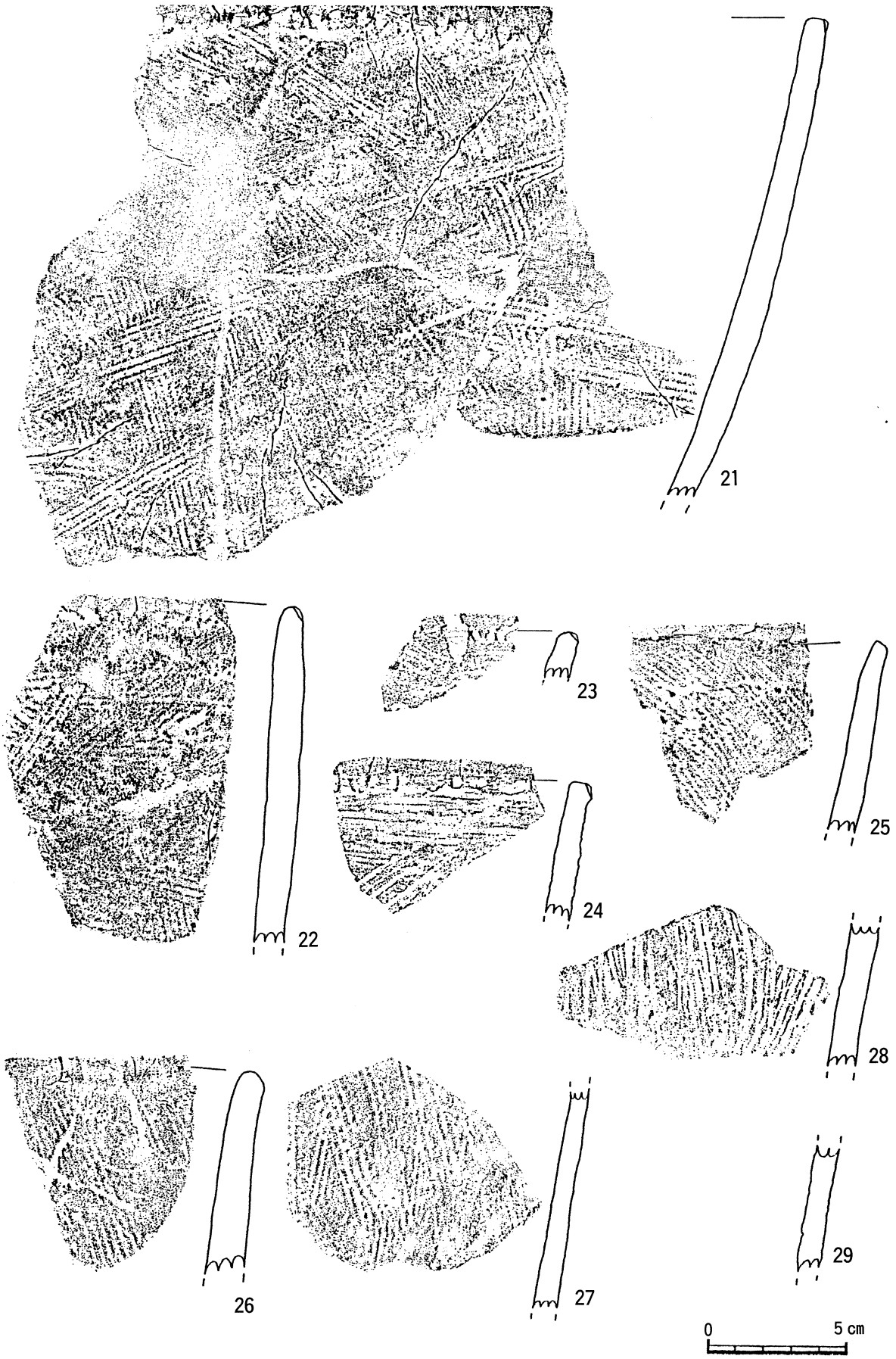
60は楕円押型を外面に施し、内面口縁端部にヘラ状工具による短い押圧を入れ、下部に山形押型を施すもの。

61は楕円押型を外面に施し、内面口縁端部にヘラ状工具による長めの押圧を入れ、下部に楕円押型を施すもの。

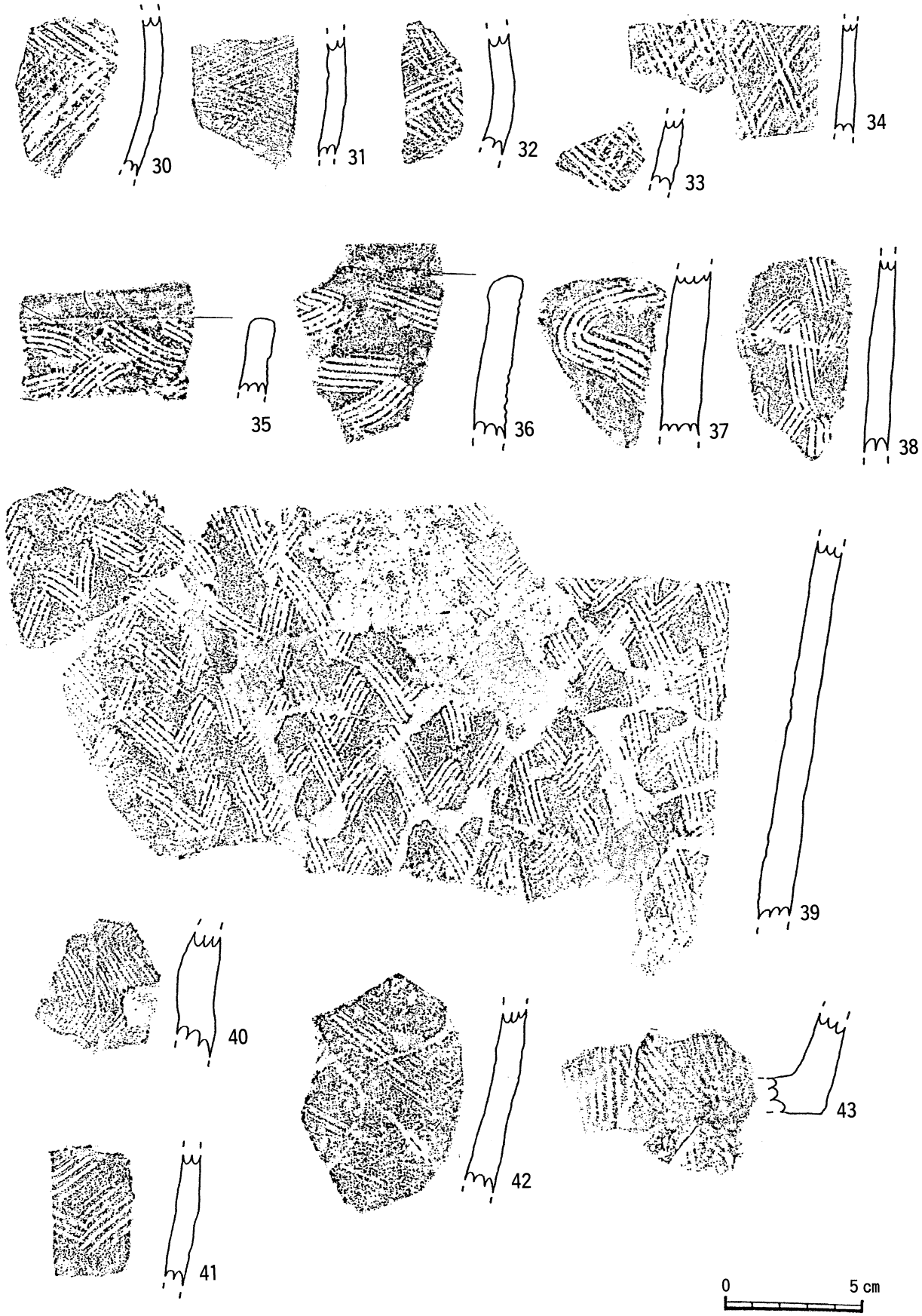
63は網代底である。

ｂ　山形押型　64～68

縦位の山形押型を外面に施し、内面に横位の山形押型を入れるもので、65～68は手向山式土器



第66図　出土土器実測図



第67図　出土土器実測図